

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第156集

周防畑遺跡群

# 大豆田遺跡 I・II

長野県佐久市長土呂周防畑遺跡群大豆田遺跡 I・II 発掘調査報告書

2008. 3

佐 久 市  
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第156集

周防畑遺跡群

# 大豆田遺跡 I・II

長野県佐久市長土呂周防畑遺跡群大豆田遺跡発掘調査報告書

2008.3

佐 久 市  
佐久市教育委員会





H14号住居址出土  
灰釉陶器小瓶

体部全週して2頭の馬(鹿?)  
雲、花、文字(記号?)が印  
刻されている

(1:1)



大形の馬(鹿?)、その上部  
左右に雲。

(1.5倍)



小形の馬、右上に雲。

(1.5倍)



雲。右下に花、右上に文字(記号?)

(1.5倍)



花。直上に文字(記号?)

(1.5倍)



雲。左下に花。

(1.5倍)



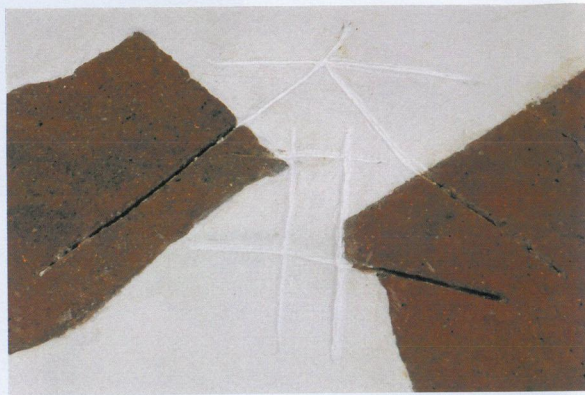


(1 : 2)

H19 (35-15)



(1 : 1)



(1 : 1)

H19号住居址出土鉢「奔」の2文字が逆位に刻書されている



(1 : 1)

H19-1 (34-3)



(1 : 1)

H19-2 (34-4)



(1 : 1)

H16号住居址出土丸靫

H19号住居址出土杯 2個体の杯外面に「奔」の文字が正位に刻書されている





A25G  
青磁 碗 割花文  
中世  
中国



M9  
青磁 碗 蓮弁文  
(14-15C)  
龍泉窯



M8  
青磁 碗  
(中世)  
中国



A42G  
灰釉 鉢  
(中世)  
瀬戸・美濃



A31G  
鉄釉 壺  
(中世)  
瀬戸・美濃



A26G  
灰釉 壺  
(中世)  
瀬戸・美濃



A54G  
磁器 皿 染付  
(近世)  
瀬戸



D5  
白磁 鉢  
?  
?



A42G  
白磁 瓶類  
?  
?



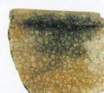
A28G  
錆釉 すい鉢  
(近世)  
在地



H22  
灰釉 皿  
(近世)  
在地



A25G  
鉄釉 鉢  
(近世)  
在地



A28G  
灰釉 碗  
(近世)  
瀬戸・美濃系



A25G  
鉄釉 甕  
(近世)  
?



A25G  
鉄釉 鉢  
(近世)  
在地



う72G  
鉄釉 鉢か甕  
(?)  
瀬戸



A25G  
碗 染付  
(近代)  
瀬戸



い72G  
碗 染付  
(近代)  
瀬戸



う73G  
灰釉 皿  
(近代)  
瀬戸・美濃系



A25G  
磁器 瓶子  
(近世)  
?



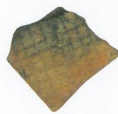
A4G  
磁器 瓶類  
(近代)  
?



A25G  
鉄釉 鉢か甕  
(?)  
在地



A57G  
白磁 皿  
(現代)  
?



A25G  
?  
?  
?



A52G  
碗 染付  
(現代)  
瀬戸

## 例 言

1. 本書は、佐久市が行う地方道路整備臨時交付金事業〔市道2-5号線（常田線）〕に伴う周防畑遺跡群大豆田遺跡Ⅰ・Ⅱの発掘調査報告書である。
2. 調査原因者 佐久市（建設部 高速交通課）
3. 調査主体者 佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び所在地 周防畑遺跡群大豆田遺跡Ⅰ・Ⅱ（NSOI・Ⅱ）  
佐久市長土呂1721-2、1720-6他
5. 調査期間及び面積  
調査期間 平成17年11月21日～平成20年3月31日  
発掘調査 平成17年11月21日～平成18年1月11日（平成17年度）  
発掘調査 平成18年4月17日～平成18年11月24日（平成18年度）  
整理作業 平成18年1月6日～平成18年3月31日（平成17年度）  
整理作業 平成19年1月5日～平成19年3月20日（平成18年度）  
整理作業 平成19年4月23日～平成20年3月28日（平成19年度）  
調査面積 2,200㎡  
開発面積 4,850㎡
6. 調査担当者 林 幸彦 佐々木宗昭 森泉かよ子
7. 調査区と担当者は以下のとおりである。  
周防畑遺跡群大豆田遺跡Ⅰ（平成17年度） 林 幸彦 森泉かよ子  
周防畑遺跡群大豆田遺跡Ⅱ（平成18年度） 林 幸彦 佐々木宗昭
8. 本遺跡の報告書作成は遺構・遺物の写真図版を佐々木が、他は林が行った。石材鑑定は羽毛田が行った。
9. 調査から報告書作成に至るまで以下の方々と各機関のご指導ご協力を頂いた。記して厚くお礼申し上げます。（順不同・敬称略）  
神津英一（長土呂区長） 尾野善裕（独立行政法人 国立文化財機構京都国立博物館 学芸課主任研究員） （財）長野県埋蔵文化財センター （株）ネクスコ東日本 佐久考古学会  
地元長土呂・赤岩・常田区の皆さん
10. 本書及び出土遺物等のすべての資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

1. 遺構の略記号は、竪穴住居址(H)・竪穴状遺構(Ta)・掘立柱建物址(F)・土坑(D)・溝状遺構(M)である。
2. 挿図の縮尺は次のとおりである。下記以外の物については挿図中にスケールを示す。  
竪穴住居址・竪穴状遺構・掘立柱建物址 1/80 炉 1/20 カマド 1/40 土坑 1/60  
土器・石器 1/4 鉄器 1/3 上記以外については、個々にスケールを記載した。
3. 遺構の海拔標高は各遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」として示した。
4. 土層・遺物胎土の色調は、1988年版『新版 標準土色調』に基づいた。
5. 調査区グリットの、間隔は4×4mに設定した。
6. スクリーントーンの表示は以下のとおりである。



# 目 次

巻頭カラー図版

例言

凡例

## 第Ⅰ章 調査の概要

第1節 調査の経緯と経過	1
第2節 調査体制	2
第3節 調査日誌	2
第4節 遺跡の位置と周辺遺跡	3
第5節 基本層序	4
第6節 遺構と遺物の詳細	4

## 第Ⅱ章 遺構と遺物

第1節 竪穴住居址	5
第2節 竪穴状遺構	49
第3節 掘立柱建物址	50
第4節 土坑	53
第5節 溝状遺構	59
第6節 ピット	69
第7節 遺構外出土遺物	74

第Ⅲ章 調査のまとめ	76
------------	----

写真図版

### 遺構



地山断面



床下の埋め土



焼土



焼け込み範囲



柱痕



炭



粘土

### 遺物 (土器)



黑色処理



赤彩

### 遺物 (石器)



すり面



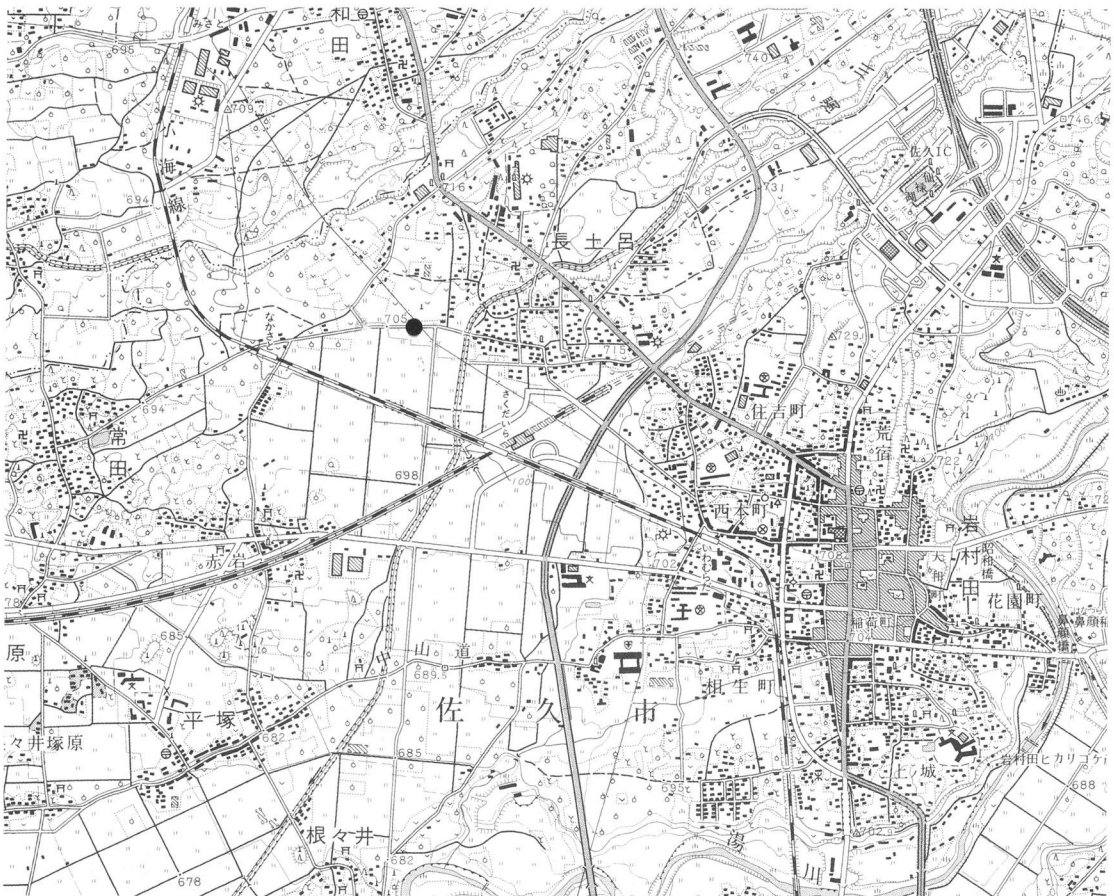
被熱

# 第 I 章 発掘調査の経緯

## 第 1 節 調査の経緯と経過

周防畑遺跡群大豆田遺跡は、佐久市長土呂に所在し、佐久市の北部に位置する。付近には浅間第一軽石流の堆積と浸食によって形成された田切り地形が発達する。田切りは南西方向に放射状に伸び谷地形となっている。台地上には原始から中世の人々の痕跡が多く残されている地点である。標高は704m内外を測る。この付近は圃場整備、長野新幹線、佐久平駅周辺の区画整理事業、中部横断自動車道などにより弥生時代から中世にわたる遺構・遺物が発掘調査により数多く検出されている。

今回、地方道路整備臨時交付金事業市道2-5号線（常田線）の道路工事が計画された範囲は、周防畑遺跡群内であった。昭和55年度に水田圃場整備事業が実施された際、一部工事の掘削深度が考慮され多くの古代の遺構が保護された範囲であった。佐久市高速交通課と当教育委員会で保護協議を行い、遺構の存在する部分について、発掘調査を行い記録保存することとなった。発掘調査は平成17年11月より第1次調査を、平成18年度は第2次調査を行った。平成17・18年度冬期に整理作業、平成19年度に整理作業・原稿執筆・報告書を刊行した。



第1図 周防畑遺跡群大豆田遺跡 I・II位置図（1：25,000）



## 第2節 調査体制

調査主体者	佐久市教育委員会	教育長	三石 昌彦 (平成17・18年度)				
			木内 清 (平成19年度)				
事務局	教育次長	柳沢 健一 (平成17年度)					
	社会教育部長	柳沢 義春 (平成18・19年度)					
	(平成18年度組織改変)						
	社会教育部次長	山崎 明敏 (平成19年度)					
	(平成19年度組織改変)						
	文化財課長	中山 悟 (平成17年4月～平成19年6月18日退職)					
		森角 吉晴 (平成19年7月1日就任)					
	文化財調査係長	高柳 正人 (平成17・18年度)					
		三石 宗一 (平成19年度)					
	文化財調査係	林 幸彦 須藤隆司 小林真寿 羽毛田卓也					
		富沢一明 神津 格 (平成17年10月～)					
		上原 学 赤羽根太郎 (～平成17年9月) 出澤 力					
調査体制	調査担当者	林 幸彦 佐々木宗昭 森泉かよ子					
	調査員	相澤 昭二 浅沼 勝男 浅沼 君子 浅沼ノブエ					
		赤羽根充江 阿部 和人 安藤 孝司 磯貝 律子					
		市川 明子 市川 明 井出 孝子 岩崎 重子					
		上原 悦子 碓氷 知子 江原 富子 大村 政敬					
		小倉 栄子 小幡 弘子 柏木 貞夫 柏木 義雄					
		狩野小百合 河原田憲子 菊池 喜重 北村 亨					
		木次 順子 黒岩 至 榎澤 文康 小池慎一郎					
		小平 夢子 小山 功 斉藤 恵李 斉藤 俊一					
		堺 益子 佐藤 清人 佐藤 瑞希 佐藤 由枝					
		里見 理生 澤井 知春 清水 末子 清水 澄生					
		清水 律子 春原 圭介 春原 幸子 大工原かつい					
		大工原達江 田中ひさ子 土屋 和見 土屋 武士					
		中島フクジ 中山 清美 萩原 宮子 橋詰 信子					
		橋詰 勝子 羽田 貴恵 林 まゆみ 林 美智子					
		比田井久美子 日向 昭次 広瀬梨恵子 細萱ミスズ					
		細谷 秀子 堀籠 保子 百瀬 秋男 森下 博美					
		柳沢かおり 柳田 晴美 山田 和子 山元有美子					
		柳沢 武 山根 知子 横尾 敏雄 依田 美穂					
		依田 三男 渡辺久美子					

## 第3節 調査日誌

平成16年度

平成17年11月21日～25日 拡幅部分を試掘調査。

平成17年度

平成17年11月21日～25日 器材準備・搬入。

11月28日 調査東地区道路拡幅部分を重機により表土削平。

順次遺構確認精査。遺構掘り

下げ・記録・写真撮影。

12月27日 一部記録残して現場終了。

平成18年1月11日 器材撤収。

1月23日～整理作業開始。遺物洗浄・  
注記・図面修正・写真整理

平成18年度

4月17日～器材準備・搬入。調査東  
地区拡幅部分の残り部分表土  
削平始め。順次遺構確認精査。  
遺構掘り下げ・記録・写真撮  
影。

5月10日～9月28日調査東地区東側現  
道路部分削平始め。遺構確認  
精査。遺構掘り下げ。記録・  
写真撮影終了した場所から埋

め戻し。

11月15日～24日調査西地区旧河川址、  
掘り下げ、記録・写真撮影。  
埋め戻し。器材撤収。

平成19年1月6日～3月20日整理作業再開。洗  
浄・注記・接合作業。図面修  
正・写真整理。取り上げた遺  
構覆土から遺物抽出作業。

平成19年4月23日～10月19日遺物実測・写真撮  
影トレス作業。

11月～平成20年3月 原稿執筆、報告  
書刊行。

## 第4節 遺跡の位置と周辺遺跡



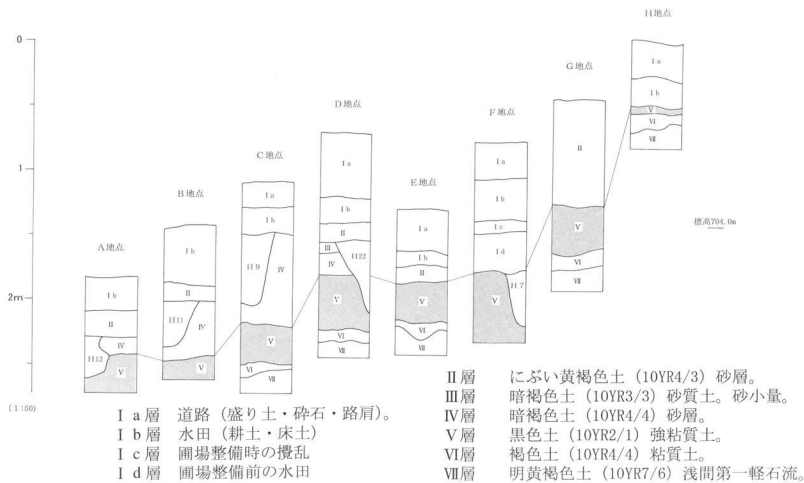
第2図 周防畑遺跡群大豆田遺跡 I・II 周辺遺跡位置図 (1 : 15000)



周防畑遺跡群やその周辺の遺跡内では、圃場整備、長野新幹線、佐久平駅周辺の区画整理事業、道路改良、中部横断自動車道等の大規模な開発が続いている。北方の鋳物師屋遺跡群では馬の埋葬墓や古墳～平安時代の集落址、芝宮・中原・長土呂遺跡群では2,000棟前後の竪穴住居址含む古墳～平安時代の集落址、南方の濁り遺跡では古代の水田址、西一里塚遺跡では弥生時代後期の環濠集落や墓域が、一本柳遺跡群や北西の久保遺跡では多量の埴輪・馬具を伴う古墳群と弥生時代中期～後期・古墳時代～中世におよぶ集落址等枚挙に遑がないほどの遺構と遺物が発掘調査されている。さらに、本遺跡と並行して長野県埋蔵文化財センターにより進められている西近津遺跡群では、床面積46坪の巨大な弥生時代後期の竪穴住居址をはじめ弥生時代後期～平安時代の500棟を越す竪穴住居址等が検出されている。周防畑遺跡群内でも、弥生時代後期～平安時代の集落址と墓域が調査されている。

## 第5節 基本層序

遺跡調査対象地は、浅間第一軽石流の堆積が濁川・湧玉川および小河川に浸食形成された「田切地形」台地上の末端に位置している。水利が悪く一帯は、畑地である。本遺跡の付近から「田切地形」が見かけ上は消滅すると共に、地下水位が高く水田地帯が広がる。台地を区切る帯状の低地が浅いため幾たびか小規模の洪水砂に覆われたり、小河川の流路が見られる。調査東地区の中央部は浅間第一軽石流の堆積するⅦ層が低く、Ⅳ層の砂層が堆積し、Ⅳ層とほぼ重なるようにⅤ層の強粘質である泥炭層が堆積する。このⅣ層とⅤ層が堆積する低地はⅣ層堆積後は平坦な地形だったと思われ、平安時代の遺構確認面ともなっている。この低地は、南西方向に伸び長野県埋蔵文化財センターが調査中の中部横断自動車道の用地内でも確認されている。



第3図 基本層序模式図

## 第6節 遺構と遺物の詳細

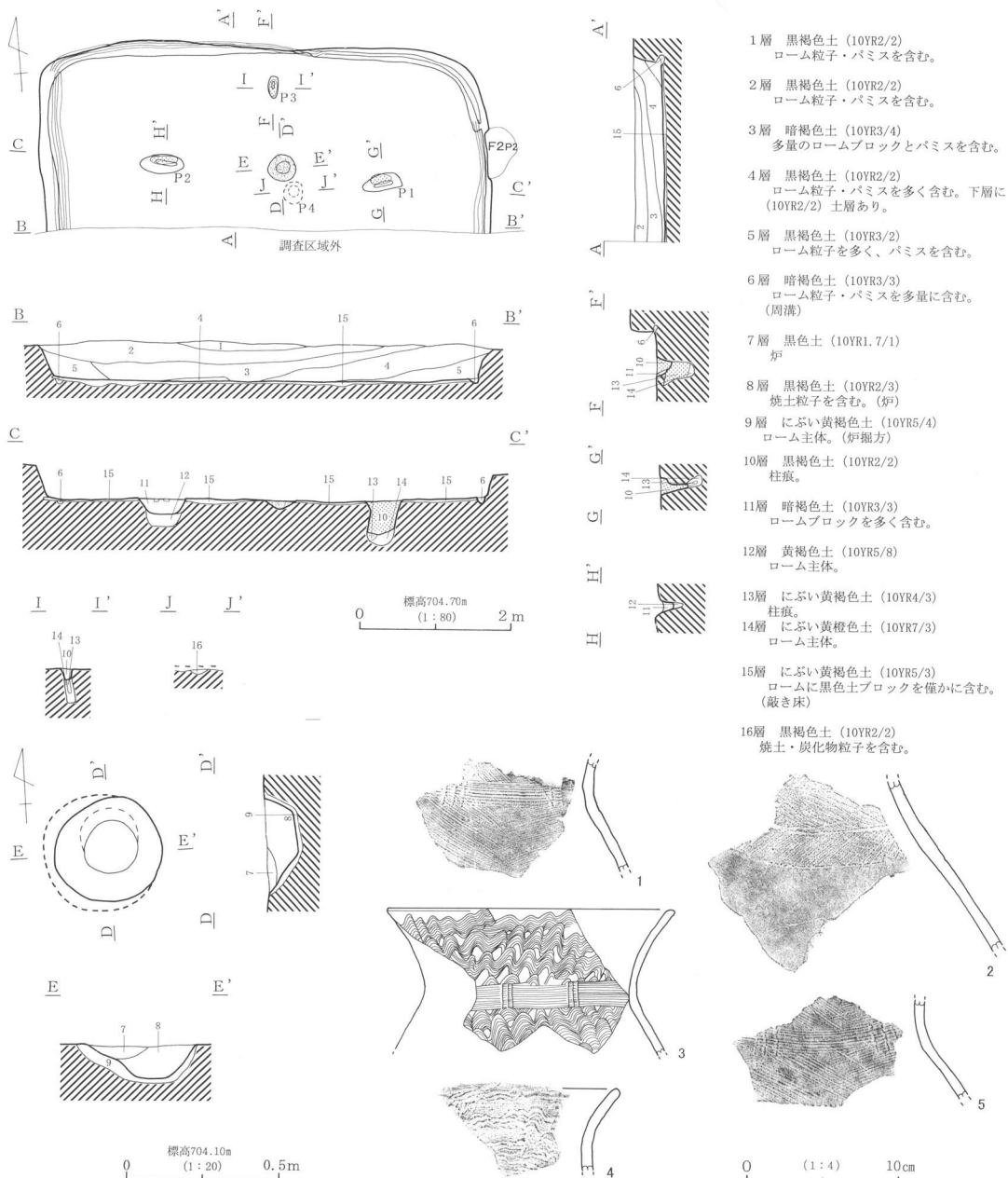
遺 構	遺 物	
竪穴住居址	26軒 (弥生時代後期・古墳・奈良・平安時代)	縄文時代後期土器・石器 弥生時代後期土器・石器
竪穴状遺構	2基	古墳時代後期須恵器・土師器
掘立柱建物址	9棟	奈良・平安時代須恵器・土師器
土 坑	34基	灰釉陶器・鉄器
溝状遺構	22条	石器
ピット	117基	

## 第Ⅱ章 遺構と遺物

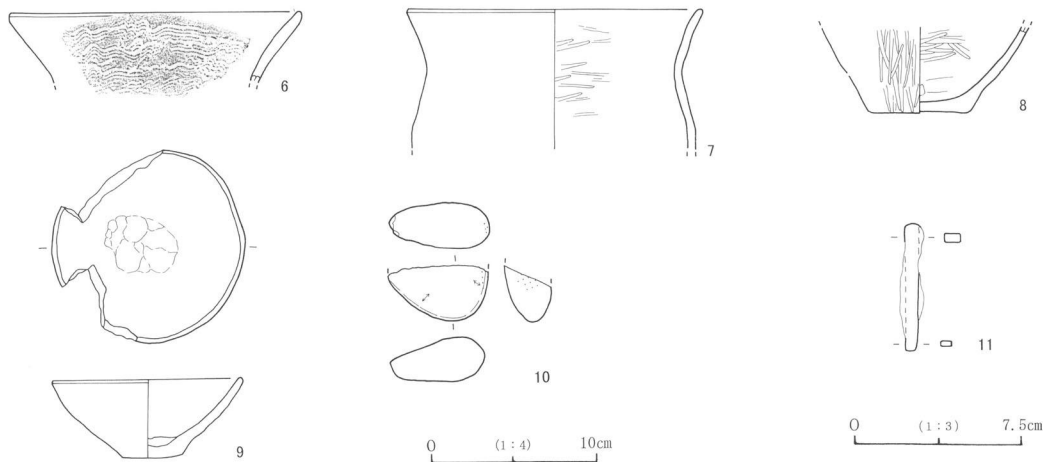
### 第1節 竪穴住居址

#### (1) H1号住居址

本住居址は、あ-15・16、い-15・16 Gr に位置する。大半は南側の調査区域外にある。F2号掘



第4図 H1号住居址実測図および出土遺物実測図



第5図 H1号住居址出土遺物実測図

立柱建物址に東壁の一部を壊されている。全容は不明だが、形態は隅丸長方形であろう。検出規模は北壁5.6m、東壁検出部2.1m、西壁検出部2.2mで、最深壁残高は住居址北西コーナーで43cmを測る。主軸方位はNを示す。P1・P2の支柱穴は柱間2.8m（梁間）を測り北壁と平行にある。P1・P2の柱痕と柱穴は、いずれも東西の長径が極端に長い。柱材は割材を使用したと考えられる。柱痕は長径36cm短径12cmを測る。北壁中央に寄ったP3は棟持柱であろう。支柱穴と同様に割材を使用したと見られ柱痕と柱穴とも南北に長い楕円形である。P1は54cm P2は35cm P3は50cmの深さである。床面は全体に平坦に堅く敲き締められ、床直上を粘質強い黒褐色土が覆っていた。壁下に連続して壁溝が回る。炉は支柱穴間中央に設置され、径36cmの地床炉である。焼土の堆積はない。本址は地盤変動の影響を受けている。住居址北西付近では、周溝も含めて壁が北西方向に10~20cmズレている。P1は床面下40cmで北へ、P2は床面下20cmで西へ、P3は床面下20cmで北と西へズレている。炉には顕著なズレが見られない。

出土遺物は、土器9点、石器1点、鉄器1点を図示した。2は検出面、1・5・6は東側3層、3は西側2層、4・9は炉の北脇床面直上、7は東側1層、8は東壁中央直下の床面直上、他は覆土中から出土した。2は赤彩の壺で、頸部を3本以上の篋描横線文で区画し中に篋描斜走文を矢羽根状に施文する。1・3~8は甕である。1・5は口縁部および胴部に縦の櫛描羽状文の後、頸部に3連止めの櫛描簾状文を施す。3は口縁部および胴部に櫛描波状文の後、頸部に3連止めの櫛描簾状文を施す。9の鉢の体部内外面にヘラミガキ工具から付着したと思われる僅かな赤彩がみられる。10の磨石はヘラミガキ工具であろうか、赤色顔料の付着が認められる。鉄製品11は性格不明で混入であろうか。これらの出土遺物より、本址は弥生時代後期後半に位置づけられる。

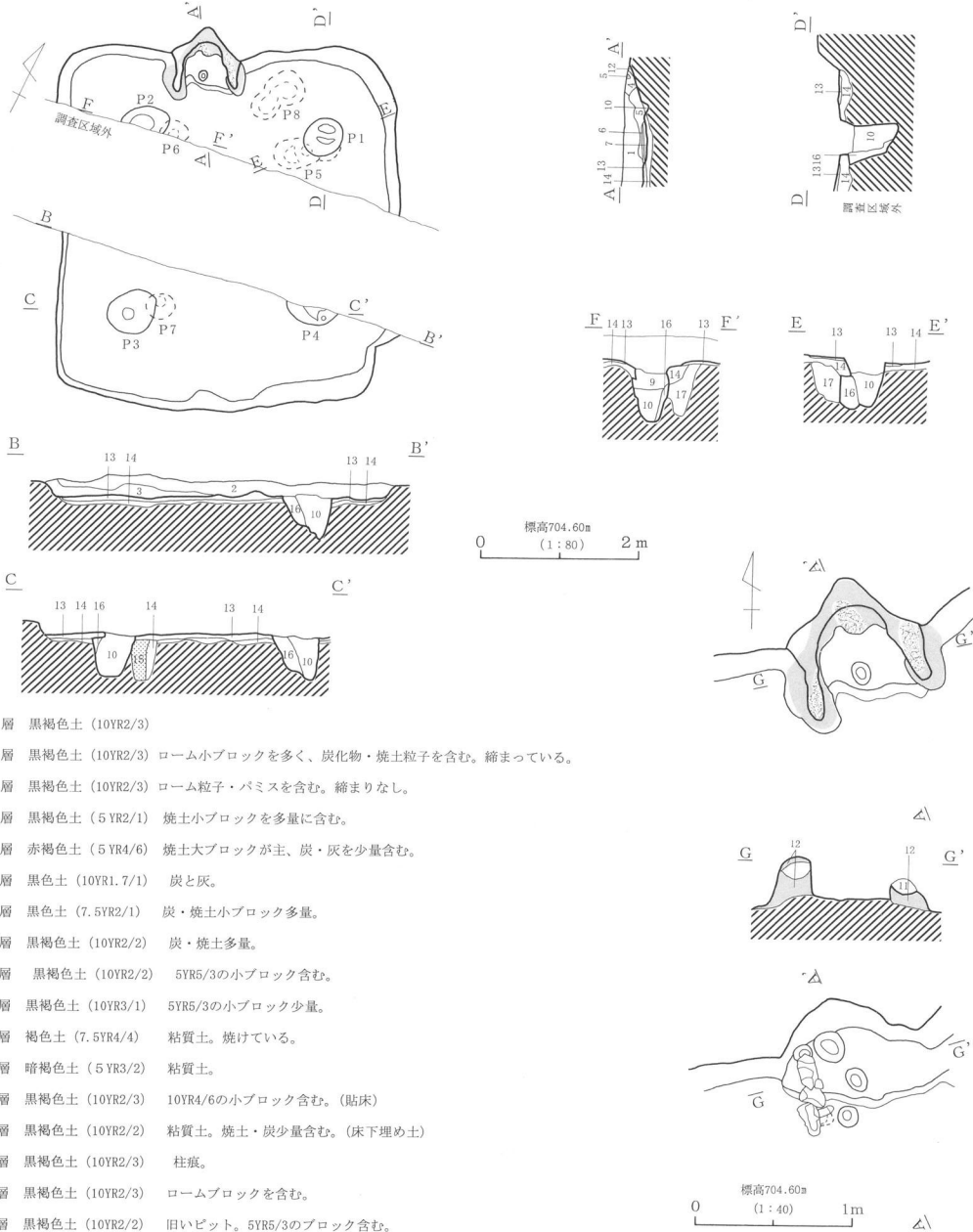
第1表 H1号住居址出土遺物観察表

No	種別	器種	法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様				備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面		外 面			
1	弥生	壺	-	-	-	ハケ目		ヘラミガキ、赤彩		断面実測	I区1層・3層
2	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ		櫛描斜走文、櫛描簾状文(10本・3連止め)		断面実測	検出面
3	弥生	甕	(19.0)	-	<9.5>	ヘラミガキ		櫛描波状文(8~10本)、櫛描簾状文(11本・3連止め)		回転実測	IV区2層
4	弥生	甕				ヘラミガキ		櫛描波状文		断面実測	II区
5	弥生	甕				ヘラミガキ		櫛描斜走文、櫛描簾状文(10本・3連止め)		断面実測	検出面
6	弥生	甕	(17.6)	-	<4.2>	ヘラミガキ		櫛描波状文		回転実測	I区3層
7	弥生	甕	(17.8)	-	<8.3>	ヘラミガキ		剥落、調整不明		回転実測	I区1層
8	弥生	甕	-	6.1	<5.1>	ヘラナデ、ヘラミガキ		ヘラミガキ		完全実測	I区
9	弥生	鉢	11.4	3.5	4.7	ヘラミガキ、赤彩		ヘラミガキ、赤彩		完全実測	II区
No	器種	素 材	残存率			所 見					出土位置
10	磨石	粘板岩				最大長	最大幅	最大厚	重 量		I区3層
						<3.3>	<6.0>	<2.7>	<60>		
11		鉄				<5.6>	<0.8>	<0.35>			検出面

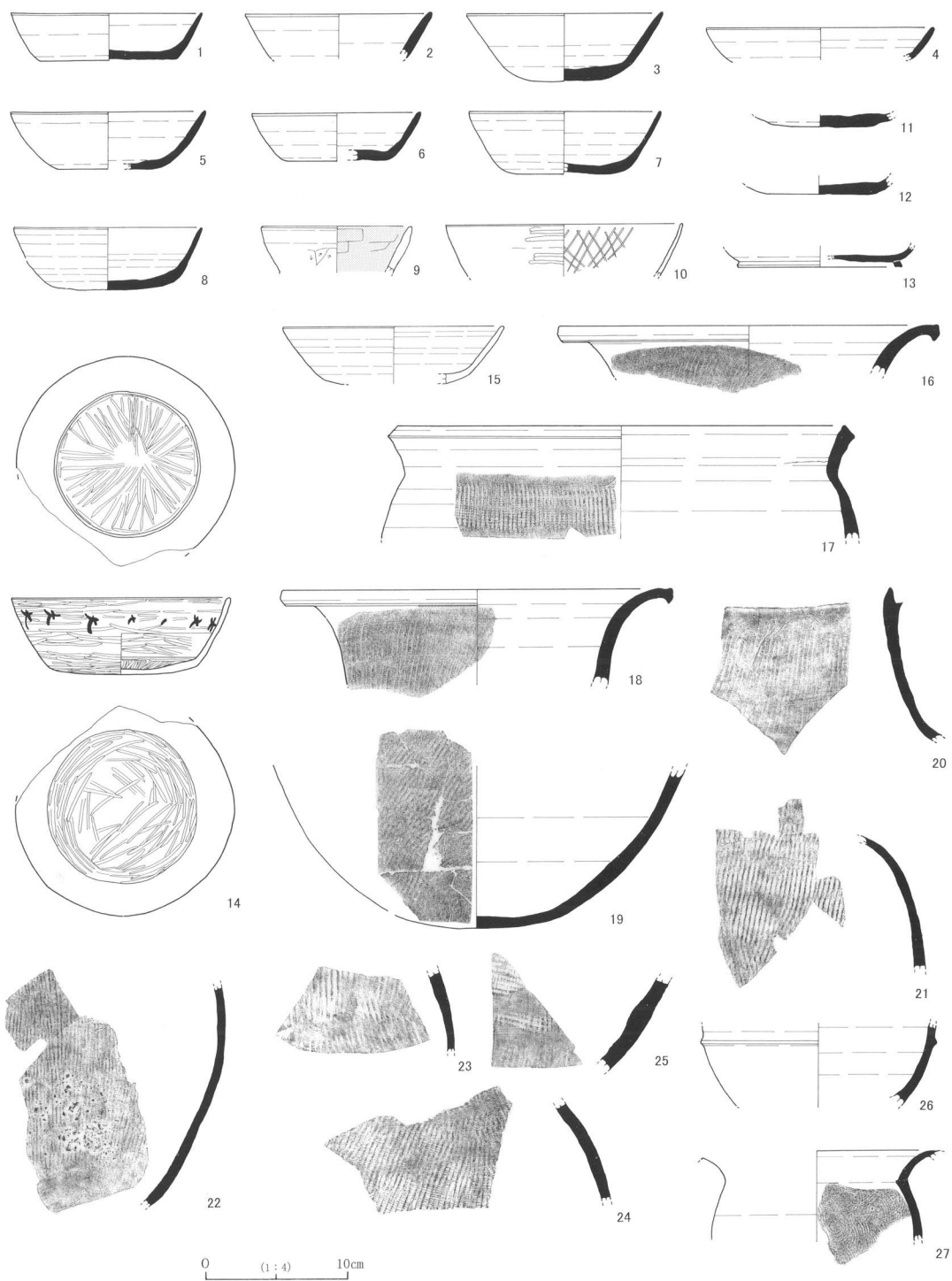


## (2) H2号住居址

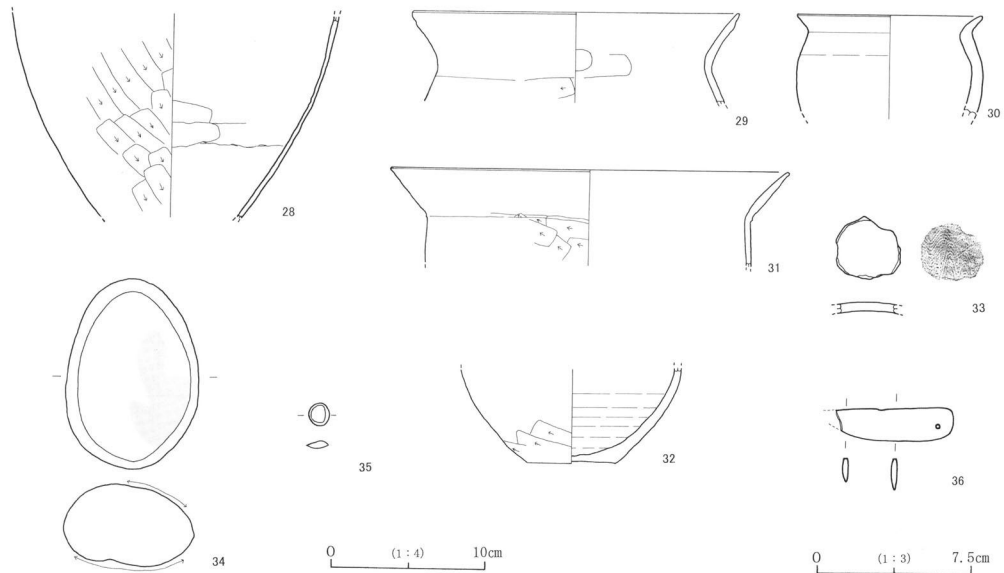
本住居址は、A-18~20、あ-18・19Grに位置する。H3号住居址の北東部分を破壊している。平面規模は北壁4.0m、東壁3.9m、西壁4.0m、南壁4.0mを測る。平面形態は隅丸の方形を呈する。壁残高は最深31cmを測り、カマドを中心とする主軸方位はN-17°-Wを示す。支柱穴P1~P4が南北2.4m東西2.4mの方形に配置されている。P1~P3の内側床面下からP5~P7が確認され、平面規模の変更がない柱穴の建て替えが行われたことが判明した。P7では柱痕が確認された。床面は掘



第6図 H2号住居址実測図



第7图 H2号住居址出土遗物实测图



第8図 H2号住居址出土遺物実測図

方が浅く、全体に堅く敲き締められていた。周溝は、みられない。カマドは北壁の中央に設置されていた。両袖と煙道の一部が残る。石芯を粘土で被覆して構築されている。石材は軽石であった。

出土遺物には、須恵器、土師器、石器、鉄器がある。14・16・28がカマド、3がカマドとⅢ・Ⅳ区出土片が接合、1がP3、5がP1、8がP1直上、7・19・32がP3の周辺、4がⅠ区ホリ方22がⅡ区掘方、6・10・15・18・20・24・26・29・31・36がⅠ区から、2・34がⅡ区から9がⅢ区23がⅣ区から出土した。他は覆土一括である。

1～8、11～13は須恵器坏で、1・3・5～8・11～13すべての底部が回転ヘラケズリあるいは手持ちヘラケズリされる。13の高台付坏底部に若干糸切り痕がみえる。9・10・14・15は土師器坏で、15は底部ヘラケズリされる。14は当地の土師器坏とは色調や器形と内外面の調整などが異なる。口辺部に直線状に「大」の字が墨書されている。精選された緻密な胎土で色調は赤味が強い。内外面口辺部には横に、見込部には放射状のヘラミガキが、底部もヘラミガキが施され特に外周部は入念にヘラミガキされる。口辺部と見込部の境には、沈線状のヘラミガキが1周する。口径15.5cm底径10.5cm器高5.4cmで口辺部が内湾気味に立ち上がり、台形状を呈する。これら調整技法や器形・法量の特徴は、甲斐型坏の古い段階にみられるものである。10は精選された緻密な胎土で、口辺部外面に横のへ

第2表 H2号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	須恵器	坏	(13.5)	9.6	3.3	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ区、Ⅱ区、P3
2	須恵器	坏	(13.1)	—	(3.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区
3	須恵器	杯	13.8	(4.5)	4.8	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	西区、東区、カマド
4	須恵器	坏	(16.1)	—	(2.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	Ⅰ区ホリ方
5	須恵器	坏	(13.8)	(7.0)	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区P1
6	須恵器	坏	(11.9)	(7.3)	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
7	須恵器	坏	(13.2)	(6.7)	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	回転実測	西区
8	土師器	坏	(13.3)	7.8	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラキリ→一部ヘラケズリ	完全実測	A20
9	土師器	坏	(10.5)	—	(3.3)	ヘラナデ	ロクロナデ→ヘラケズリ	回転実測	西区
10	土師器	坏	(16.7)	—	(3.7)	格子状のミガキ	ミガキ	回転実測	Ⅰ区
11	須恵器	坏	—	5.9	(0.9)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	完全実測	東区

12	須恵器	坏	-	7.3	<1.3>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→ナデ	完全実測	検出面
13	須恵器	坏	-	(11.6)	<1.4>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	西区
14	土師器	坏	15.5	10.5	5.4	ヘラミガキ	ヘラミガキ、墨書	完全実測	I区、II区、カマド
15	土師器	坏	(15.4)	-	<4.0>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	I区
16	須恵器	甕	(26.7)	-	<3.5>	ロクロナデ	ロクロナデ→胴部タタキ	回転実測	カマド
17	須恵器	甕	(33.0)	-	<7.9>	ロクロナデ	ロクロナデ→胴部タタキ	回転実測	I区、IV区・検出面
18	須恵器	甕	(27.5)	-	<6.7>		ロクロナデ→胴部タタキ	回転実測	I区
19	須恵器	甕	-	(3.4)	<11.5>	ロクロナデ→ナデ	タタキ→底部ナデ	回転実測	東区・検出面
20	須恵器								
21	須恵器								
22	須恵器								
23	須恵器								
24	須恵器								
25	須恵器								
26	須恵器	鉢	-	-	<5.9>	ロクロナデ	ロクロナデ→胴部タタキ	回転実測	I区
27	須恵器	甕	-	-	<6.4>	ロクロナデ→タタキ	ロクロナデ→口縁部横ナデ	回転実測	フク土
28	土師器	甕	-	-	<12.8>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	カマド
29	土師器	甕	(21.1)	-	<5.8>	ヘラナデ	胴部ヘラケズリ	回転実測	I区
30	土師器	甕	(11.9)	-	<6.7>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	西区
31	土師器	甕	(25.9)	-	<6.2>	ヘラナデ	胴部ヘラケズリ	回転実測	I区
32	土師器	甕	-	5.7	<6.2>	ロクロナデ	ヘラケズリ	完全実測	西区
33	弥生	土製円盤(甕)							西区
No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	質量	所見	出土位置
34	磨石	安山岩		12.3	8.1	5.5			II区
35	磨石	チャート		1.5	1.3	0.45			東区
36	刀子	鉄		5.7	1.6	0.3			I区

ラミガキが、内面に格子状ヘラミガキが施される。16~25は須恵器甕で、広口の17や口辺部が長い18小型の27がみられる。26は外面に稜を持つ稜碗で、西一本柳遺跡Ⅷに類例がある。28~32は土師器甕で、武蔵甕やロクロ甕がある。31の武蔵甕は最大径を「く」の字状の口辺部に持つ。36は薄手で端部に柄が装着されたのか、小孔が穿たれている。図左に刃部があり剃刀であろうか。34の磨石には、上下面にスリ面がある。波状文が施文される33の土製円盤は、混入品である。

出土遺物から本址は、奈良時代前半に位置づけられよう。

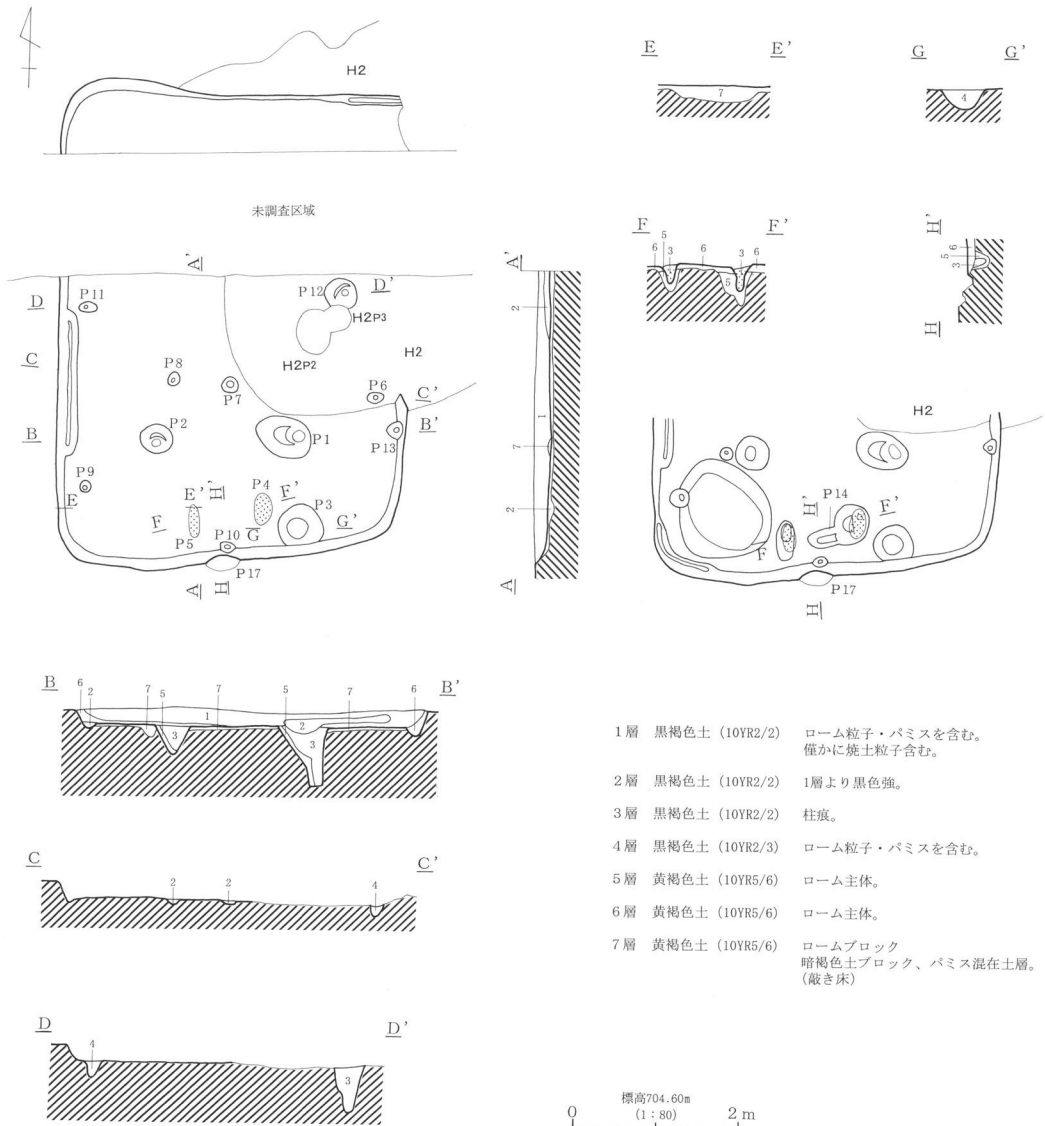
### (3) H3号住居址

本住居址は、A・あ・い-19~20Grに位置する。H2号住居址に北東部分を破壊され、形態は隅丸長方形を呈す。検出規模は北壁検出部4.0m、東壁検出部1.6m、南壁3.9m、西壁5.6mで、最深の壁残高は住居址北西コーナーで25cmを測る。主軸方位はNを示す。P1・P2の主柱穴は柱間2.8m(梁間)を測り南壁と平行にある。P1は長径68cm短径50cm深さは72cm、P2は長径40cm短径34cm深さ36cmを測る。出入り口施設のP4・P5の柱痕と柱穴は、いずれも南北の長径が極端に長く、割材を使用したと考えられる。柱痕は、P4が長径40cm短径14cm P5が長径40cm短径20cmを測る。敲床下P4の脇から検出されたP13は柱痕が確認され出入り口施設に関するものと思われる。壁に寄ったP6・P9・P11・P13は壁柱穴であろう。南壁下の円形のP3は貯蔵穴とみられ、径52cm深さ24cmである。床面は全体に堅く平坦に敲き締められ、掘方は浅い。西壁下に壁溝が回る。南西コーナーの壁溝は、床面下から確認された。炉は未調査区域に存在するであろう。

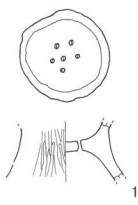
第3表 H3号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	弥生	高坏	-	-	-	ナデ	ヘラミガキ、坏部の底部に穿孔	回転実測	検出面
2	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	櫛描波状文、ヘラミガキ	回転実測	P3





- 1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子・パミスを含む。僅かに焼土粒子含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2) 1層より黒色強。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2) 柱痕。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子・パミスを含む。
- 5層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム主体。
- 6層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム主体。
- 7層 黄褐色土 (10YR5/6) ロームブロック、暗褐色土ブロック、パミス混在土層。(敷き床)

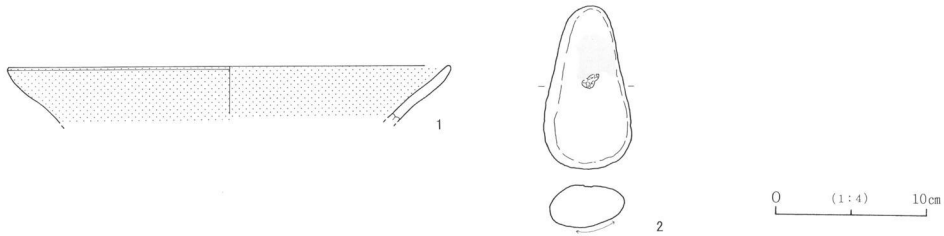
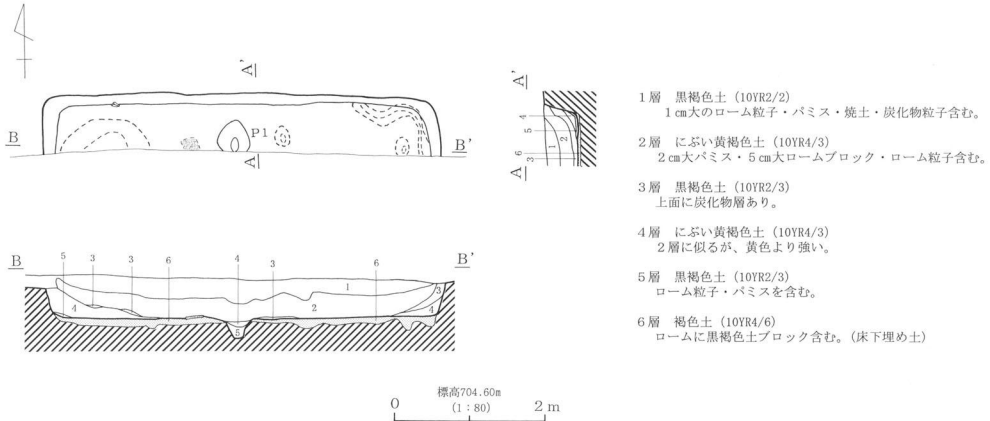


0 (1:4) 10cm

第9図 H3号住居址実測図および出土遺物実測図

第4表 H4号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法 量			成 形・調 整・文 様				備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面			外 面		
1	弥生	壺	(29.6)	—	—	ヘラミガキ→赤彩			ヘラミガキ→赤彩	回転実測	西区
No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置	
2	磨・敲石	輝石安山岩		10.8	5.9	2.9	262.6	正面・裏面にすり面、正面・右側に敲打痕			



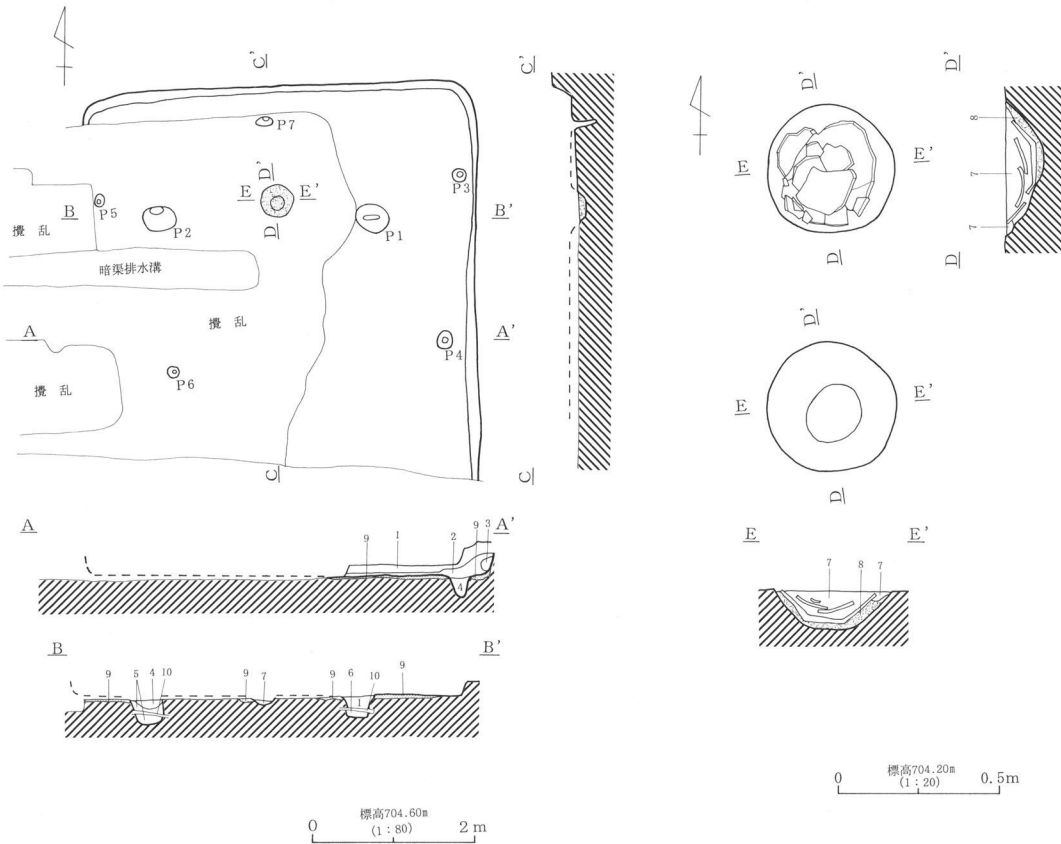
第10図 H4号住居址実測図および出土遺物実測図

出土遺物には、弥生土器がある。1の蓋は1層上部より出土し、無彩で天井部に0.2cmの小孔が6個穿たれている。2は甕でP3から出土した。櫛描波状文（6本）が施文される。

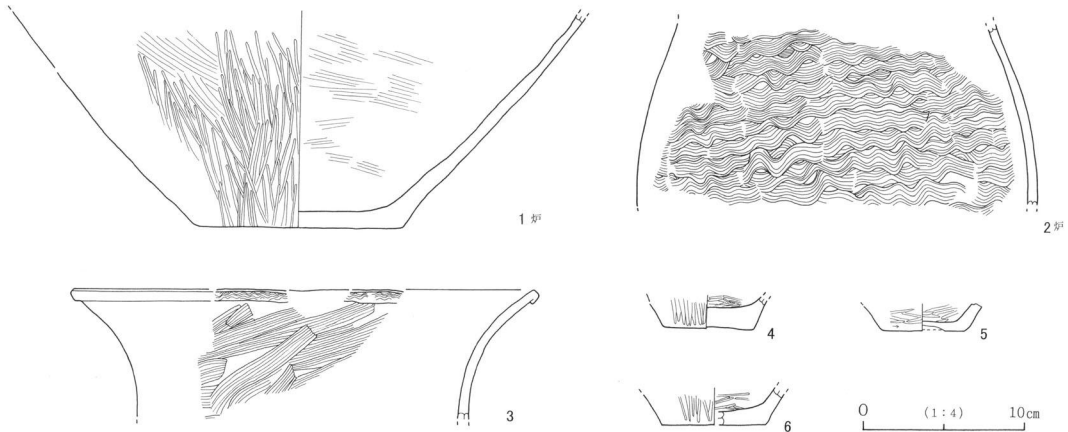
出土遺物は少ないが、住居址の特徴もふまえると弥生時代後期後半の所産と思われる。

#### (4) H4号住居址

本住居址は、い-17~19Grに位置する。大半は南側の調査区域外にある。全容は不明だが、形態は隅丸長方形であろう。検出規模は北壁5.1m、東壁検出部0.7m、西壁検出部0.7mで、最深の壁残高は住居址北壁中央部で44cmを測る。主軸方位はN-2°-Eを示す。北壁中央部の下にあるP1は、位置から棟持柱と考えられる。P1は検出部長径52cm短径42cm深さは27cmを測る。床面は全体に堅く平坦に敲き締められ、掘方には褐色土が埋められていた。床面下の北東コーナー壁下に壁溝が確認された。I区床面下から長径28cm短径20cm深さ15cmを測るピットが2個検出された。北西壁下の床面下から深さ10cmほどの掘り込みがみられた。覆土は4層に分層され、2層はロームブロック・ローム粒子を多量に含み人為的な堆積と思われる。3層の上面に炭化物があった。P1の西脇からは、長さ35cm厚さ2cmの炭化材がみられた。出土遺物は非常に少ない。弥生土器と石器が図示できた。1の壺は、P1とII区出土片が接合した。内外面赤色塗彩される。2の磨石は、北西コーナー付近床面から出土した。上面の一部にすり面が、幅広の端部に敲き痕が認められる。不確実ではあるが弥生時代後期に位置づけられよう。



- |                   |                    |                    |                        |
|-------------------|--------------------|--------------------|------------------------|
| 1層 黒褐色土 (10YR2/3) | パミス少量含む。           | 6層 黒褐色土 (10YR3/2)  | 橙色 (7.5YR6/6) 小ブロック少量。 |
| 2層 黒褐色土 (10YR2/3) | パミス少量含む。1層よりローム多い。 | 7層 黒色土 (10YR1.7/1) | 炭多量に含む。                |
| 3層 暗褐色土 (10YR3/4) | ローム小ブロック含む。        | 8層 褐色土 (7.5YR4/3)  | 炭多量に含む。焼けている。          |
| 4層 黒褐色土 (10YR2/2) | パミス・炭少量含む。         | 9層 褐色土 (10YR4/4)   | 黒色土ブロック含む。(よく縮まる床)     |
| 5層 橙色土 (7.5YR6/6) | ローム主体。             | 10層 褐色土 (7.5YR4/3) | 地山の土が主。                |

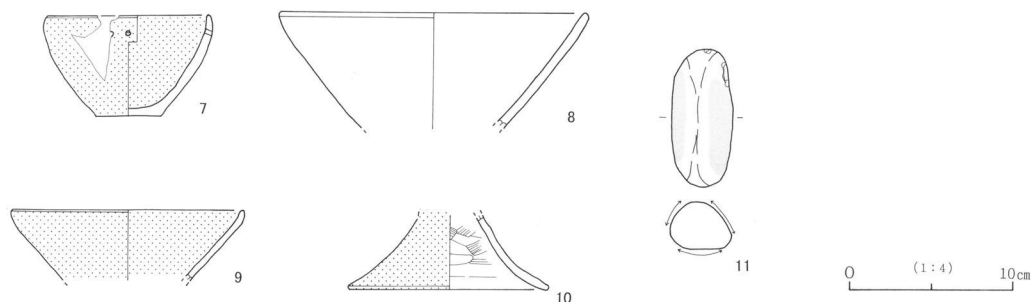


第11図 H5号住居址実測図および出土遺物実測図

第5表 H5号住居址出土遺物観察表

cm

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様				備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面		外面			
1	弥生	大型甕	-	12.9	<13.2>	ハケ目		ハケ目→ヘラミガキ		完全実測	炉に使用
2	弥生	甕	-	-	<11.2>	ヘラミガキ		櫛描波状文(9本)		回転実測	I区・炉に使用
3	弥生	甕	(28.8)	-	<7.9>	ヘラミガキ		櫛描波状文(7本)、櫛描波状文(口唇部)		回転実測	I区・床
4	弥生	甕	-	5.5	<2.0>	ヘラミガキ		ヘラミガキ		完全実測	IV区・床
5	弥生	甕	-	5.2	<1.7>	ヘラミガキ		ヘラズリ→ヘラミガキ		完全実測	IV区・床
6	弥生	甕	-	(6.4)	<2.3>	ヘラミガキ		ヘラミガキ		回転実測	IV区・床
7	弥生	鉢	(10.2)	(4.0)	6.1	ヘラミガキ、赤彩		ヘラミガキ、赤彩		回転実測	IV区・床
8	弥生	鉢	(19.0)	-	<7.0>	ヘラミガキ、赤彩		ヘラミガキ、赤彩		回転実測	IV区・床
9	弥生	鉢	(14.4)	-	<4.3>	ヘラミガキ、赤彩		ヘラミガキ、赤彩		回転実測	IV区・床
10	弥生	高坏	-	12.3	<4.5>	ヘラナデ(ハケナデ)		ヘラミガキ、赤彩		完全実測	IV区・床
No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置	
11	磨・敲石	輝石安山岩		8.3	3.7	2.8	137.9	正面・裏面にすり面、上端部に敲打痕		P5	



第12図 H5号住居址出土遺物実測図

### (5) H5号住居址

本住居址は、あ・い-21・22Grに位置する。ほぼ全体が昭和55年施工圃場整備の際に削平されていた。暗渠排水にも中央部分を破壊されている。形態は隅丸長方形を呈す。検出規模は北壁4.7m、東壁検出部4.8m、西壁0.2mで、最深の壁残高は住居址北東コーナーで27cmを測る。主軸方位はN-3°-Wを示す。

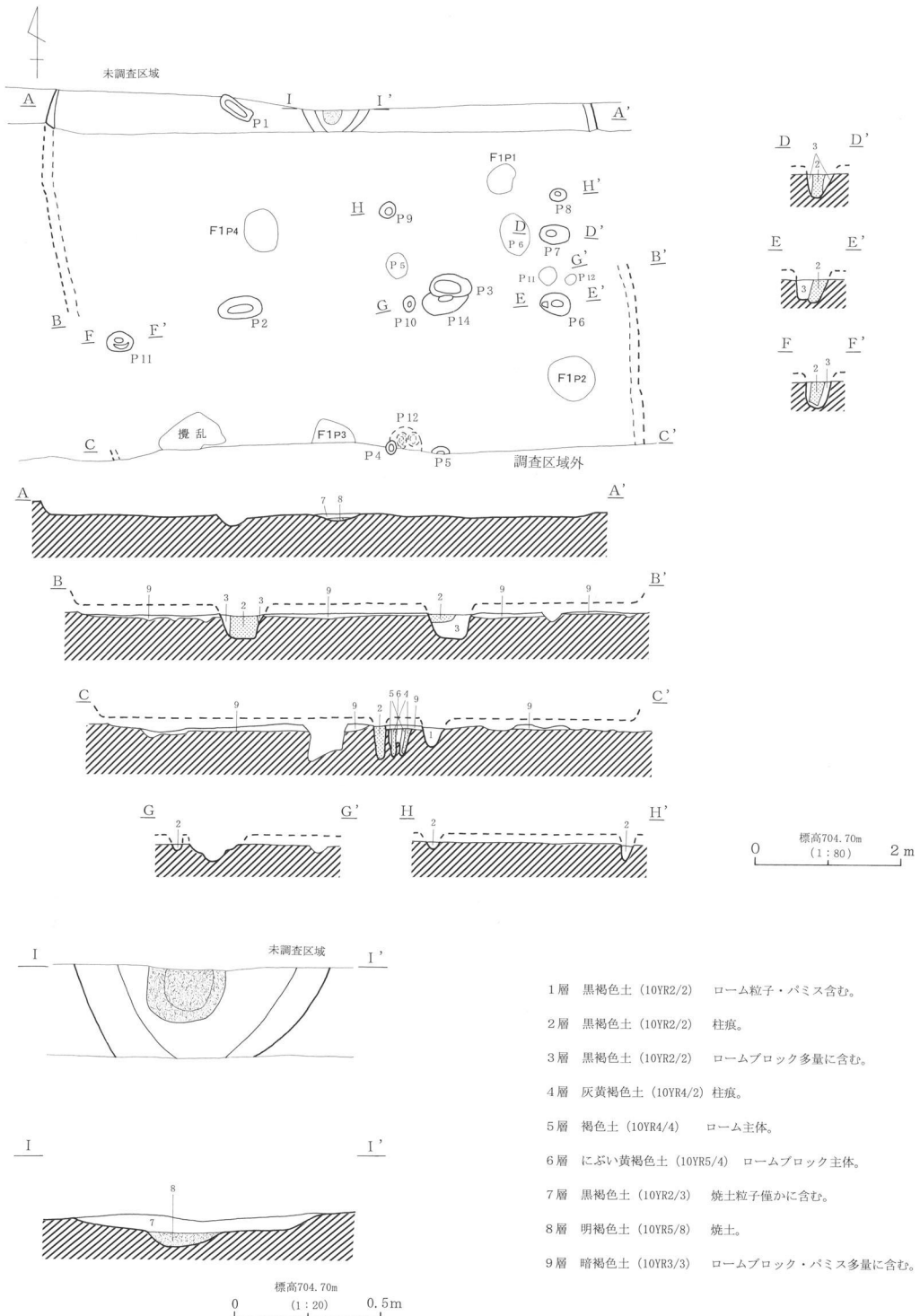
P1・P2の支柱穴は柱間2.6m(梁間)を測り北壁と平行に配置される。P1は長径42cm短径32cm深さは43cm、P2は長径42cm短径30cm深さ33cmを測り、東西に長い。ピットの形状から柱は、H1号住居址と同じく割材が想定される。H1号住居址と同様に地盤のズレがP1・P2の断面で確認された。床面下10cmで西方向のズレのようである。炉の北のP7は、深さ28cmで棟持柱とみられる。掘方は少し南に傾いている。壁に寄ったP3・P4・P5は壁柱穴であろう。P3は18cm P4は31cm P5は31cmである。床面は全体に非常に堅く敲き締められていて、平坦である。床直上を粘質強い黒褐色土が覆っていた。

炉は支柱穴間中央の若干北寄りに設置され、径35cm深さ12cm円形を呈する。壺底部の形状に合わせた掘り込みに壺底部を、その2cm上に甕胴部片を置いた埋甕炉である。壺の下8層が焼けていた。埋設された土器内には炭が多量に残っていた。

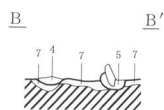
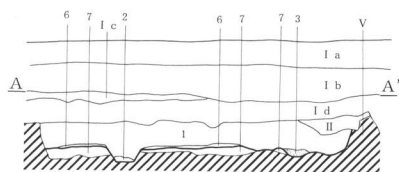
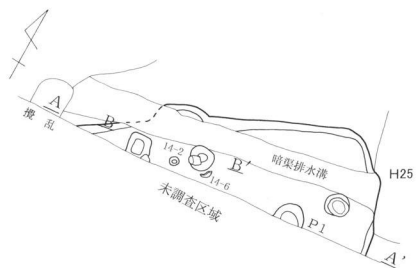
出土遺物は弥生土器と石器がある。1は、炉に使用された壺である。3はI区床面直上、4~10はIV区床面直上、11はP5から出土した。2は、炉に使用された破片は明らかに火熱を受けた跡が伺えるが、接合したI区北壁直下の床面直上から出土した破片にはその形跡がない。胴部に9本の櫛描波状文が施文される。波状文は胴下部から上部へ、右から左へ施文されている。3は折返し口縁を持つ甕で、口唇部に櫛描波状文が口辺部から胴上部には不規則な櫛描斜走文が施される。4・5・6は甕の底部である。7~9の鉢は7・9が内外面赤彩、8は無彩である。7は口縁部に2個穿孔がある。

以上の出土遺物から、本址は弥生時代後期後半に位置づけられる。



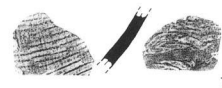
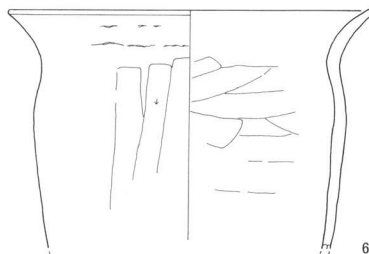
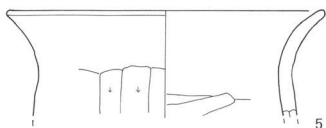
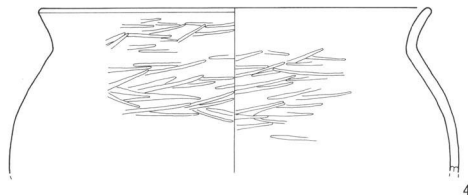
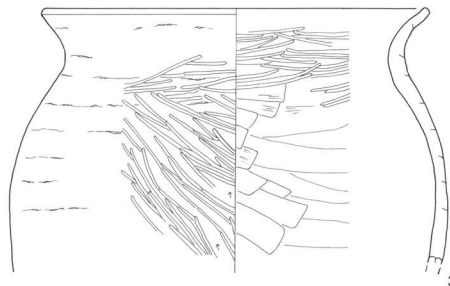
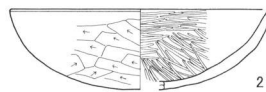
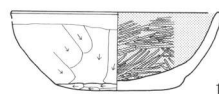


第13図 H6号住居址実測図



0 標高704.00m (1:80) 2m

- 1層 黒褐色土 (10YR2/3) 砂質土。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/3) 黒褐色土の小ブロック少量含む。
- 3層 極暗赤褐色土 (5YR2/3) 焼土の小ブロック多量に含む。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/3) 粘土ブロック少量。焼土粒子微量。
- 5層 黒褐色土 (10YR2/3) 粘土ブロック含む。
- 6層 黒褐色土 (10YR2/3) 砂の小ブロック少量含む。(床面)
- 7層 黒褐色土 (10YR2/2) 砂の小ブロック少量含む。(床下埋め土)



0 (1:4) 10cm

第14図 H7号住居址実測図および出土遺物実測図

(6) H6号住居址

本住居址は、あ・い-13・14Gr に位置する。炉およびP1付近を除きほぼ全体が攪乱を受けていた。掘方の残存する範囲と支柱穴の位置や炉の在り方さらに出入り口施設の位置などから東西約7.6m南北7mほどの住居址規模が推定される。P1~P3の支柱穴が梁間・桁行とも柱間2.8mに配置されている。P2東西に細長い楕円形で、H1・H5号住居址同様割材の使用が考えられる。P6・P11は上屋を支えたものであろうか。P6~P10は間仕切りの存在を思わせる。出入り口の施設としてP4・P5がある。床下埋め土の下から検出されたP12は古い出入り口の施設と見られる。P2が18cm・P4が8cm・P6が8cm・P7が6cm・P11が8cm・P12が4cmの柱痕が確認された。炉から東西壁間の床面は非常に堅く敲き締められていて、平坦である。

炉は支柱穴間中央に配置されたと思われる。残存検出部の径86cmと大きく深さ10cmの円形を呈する地床炉であった。炉の中央部は、小さく掘られ焼土が堆積していた。

遺物は非常に少なく図示可能なものはないが、出土した赤色塗彩された壺、内外面赤色塗彩の鉢・高坏、櫛描斜走文が施された甕片の特徴と住居址の特徴から、本址は弥生時代後期に位置づけられよう。

(7) H7号住居址

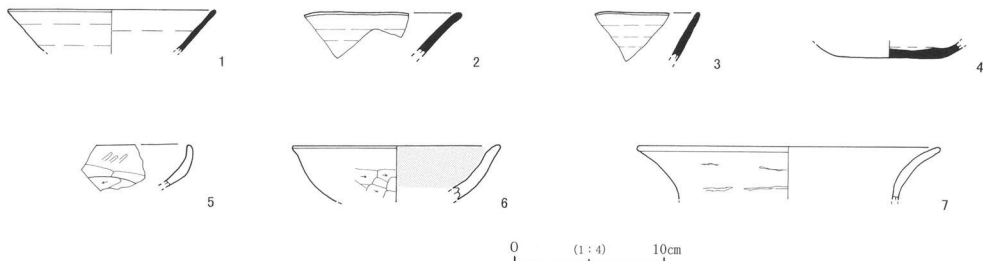
本住居址は、A-53・54Gr に位置する。東壁からカマドにかけて暗渠排水溝に、東壁の一部をH25号住居址に壊されている。カマド付近で重複しているH8号住居址との新旧関係は、判然としなが出土遺物の比較では、H8号住居址より本址が旧くなりそうである。未調査区域の南側では後世の破壊が深く及んでいて、住居址の痕跡も見いだせなかった。検出面は、全体層序第V層の黒色土であり、床面下の掘方最深部も第V層中であつた。

平面規模は北壁検出部3.5m、東壁検出部1.4mを測る。平面形態は隅丸の方形を呈すると思われる。壁残高は北壁カマド付近で最深22cmを測り、カマドを中心とする主軸方位はN-25°-Wを示す。

P1は支柱穴と思われ検出部の径は40cm深さ23cmを測る。掘方は10cm前後で黒褐色土が埋められていた。その上面2~4cmの貼床が認められた。カマドは北壁の中央に設置されていた。東側の袖と

第6表 H7号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面		
1	土師器	坏	13.0	7.7	4.8	ヘラミガキ、黒色処理	口縁ヨコナデ、ヘラケズリ	完全実測	II区
2	土師器	坏	(16.0)	-	(4.9)	ヘラミガキ	口縁ヨコナデ、ヘラケズリ	回転実測	I区
3	土師器	甕	23.9	-	(15.6)	ハケナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	I区
4	土師器	甕	(24.2)	-	(10.0)	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	フク土
5	土師器	甕	(19.6)	-	(6.4)	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	II区
6	土師器	甕	(22.4)	-	(14.5)	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	フク土
7	須恵器	甕	-	-	-	当具痕→ナデ	平行タタキ	断面実測	フク土



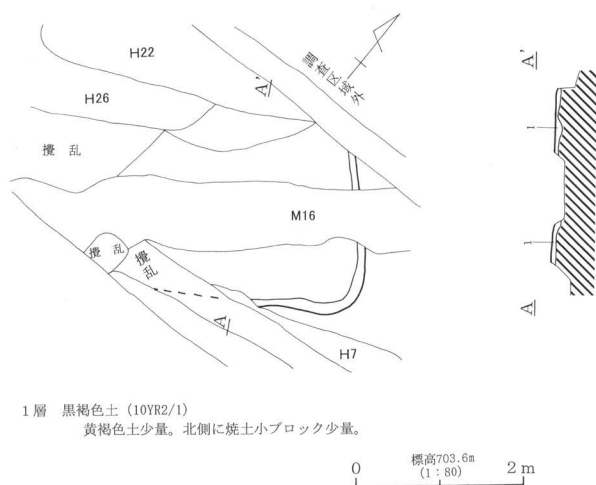
第15図 H8号住居址出土遺物実測図



第7表 H8号住居址出土遺物観察表

cm

No	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	須恵器	坏	(14.0)	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	北区
2	須恵器	坏	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	南区・ホリ方
3	須恵器	坏	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	南区
4	須恵器	坏	—	(7.2)	—	ロクロナデ	ロクロナデ、底部ヘラケズリ	回転実測	ホリ方
5	土師器	坏	—	—	—	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラケズリ	破片実測	ホリ方
6	須恵器	坏	(14.0)	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	北区
7	土師器	甕	(20.4)	—	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	床面



第16図 H8号住居址実測図

煙道の一部が残る。石芯を粘土で被覆して構築されている。西側の袖部ピット寄りに支脚石があった。石材は軽石である。未調査区域断面に火床とみられる焼土の堆積が確認された。

出土遺物には、土師器、須恵器がある。1・5がカマド、2がカマド脇床面直上、3がI区床面直上から出土した。坏1・2は底部ヘラケズリされる。1は口辺部が内弯気味に立ち上がり内面が黒色処理を施される。3・4は、土師器壺で球形の胴部上半に最大径がある。外面ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面の口辺部付近がヘラミガキされる。5・6は土師器甕で口縁部に最大径を有し、外面ヘラケズリされる。

出土遺物から古墳時代後期7世紀に位置づけられる。

### (8) H8号住居址

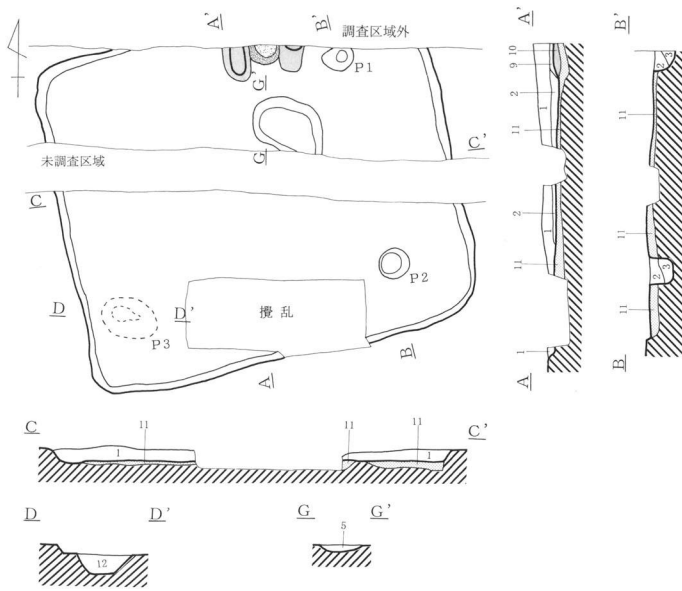
本住居址は、A-53・54Grに位置する。全体に覆土が浅く、M16や攪乱にほとんど壊されており、残存状況が非常に悪く、出土遺物も少ない。判断根拠に乏しくはなはだ不明確であるが、古墳時代後期のH7号住居址とH26号住居址より新しく、平安時代のH22号住居址より旧いかと思われる。カマドや柱穴も未確認であるが、住居址として扱った。東壁検出部1.9m南壁1.2m、壁残高2～8cmで床は軟弱であった。

出土遺物少量で、小片を図示したので正確性に欠ける。2・4・5・6は掘方から出土した。1～4は須恵器坏、4の底部はヘラケズリされる。5・6は土師器坏で6は外面ヘラケズリされ、内面黒色処理が施される。7の土師器甕は床面から出土、「く」の字状の口縁部となろう。

奈良時代に位置づけられようか。

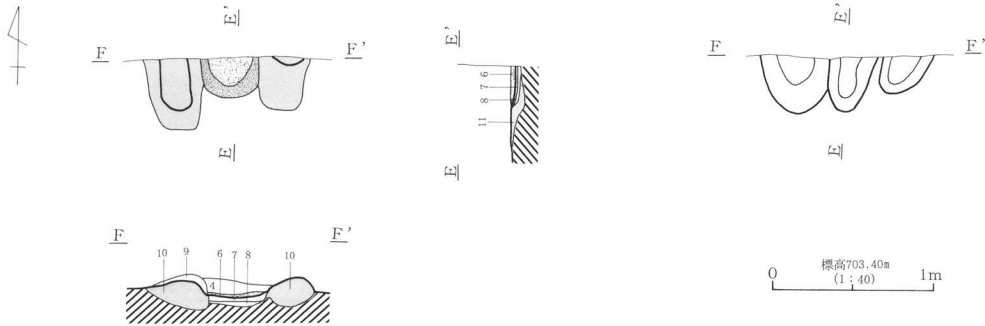
### (9) H9号住居址

本住居址は、あ・い-57・58Grに位置する。中央を暗渠排水で破壊され、北壁の一部は未調査区域に伸びる。形態は東西軸が若干長い隅丸方形を呈す。検出規模は北壁検出部1.2m、東壁検出部3.1m、南壁4.6m、西壁3.9mで、最深の壁残高は住居址北西コーナーで26cmを測る。

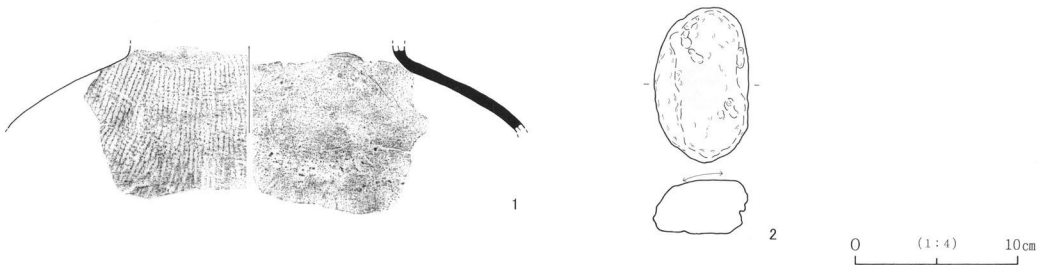


- 1層 黒褐色土 (10YR2/3)  
砂質土。炭・灰少量。0.5~3cmの小礫  
砂含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/3)  
黒色土 (10YR3/1) ブロック多量。
- 3層 暗褐色土 (10YR3/3)  
砂質土。
- 4層 黒褐色土 (5YR2/1)  
焼土・灰を含み、少量の炭化物を含む。
- 5層 黒褐色土 (10YR2/3)  
焼土・灰を含む。
- 6層 赤褐色土 (2.5YR4/6)  
火床
- 7層 赤褐色土 (2.5YR3/3)  
砂質土で焼土粒子微量。
- 8層 黒褐色土 (10YR2/2)  
砂質土。白色の砂微量。
- 9層 黒褐色土 (10YR2/3)  
灰・焼土ブロック微量。
- 10層 黒褐色土 (5YR3/1)  
粘質土。
- 11層 黒褐色土 (10YR2/2)  
砂質土。(0.5~3cm) 大の小礫・砂粒含む。  
(床下埋め土)
- 12層 黒褐色土 (10YR2/2)  
砂質土。黒色土ブロック・白色砂微量。

標高703.40m  
(1:80) 2m



標高703.40m  
(1:40) 1m



第17図 H9号住居址実測図および出土遺物実測図

第8表 H9号住居址出土物観察表

cm

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様				備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面		外面			
1	須恵器	甕	—	—	—	ナデ		平行タタキ		回転実測	カマド、Ⅱ区
No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置	
2	石器	白色軽石		9.5	5.8	3.3	91.4	正面にすり面		Ⅱ区	

主軸方位はN-12°-Wを示す。P1~P3が主柱穴で幾分壁際に寄っている。深さ26~35cmを測る。掘方は10cm前後で黒褐色土が埋められ、床面は軟弱であった。

カマドは北壁のやや東よりに設置されていた。両袖と火床の一部を検出した。周溝は見られない。

出土遺物は、カマド内・付近から出土した1の酸化焰焼成の須恵器甕と2の磨石(軽石)が図示できた。他には分厚い土師器甕片があるが、本址の時期決定にはならない。

### (10) H10号住居址

本住居址は、あ・い-57・58Grに位置する。遺構の南半分は調査区域外に伸びる。

形態は隅丸方形を呈すると思われる。検出規模は北壁4.1m、東壁検出部2.8m、西壁2mで、最深の壁残高は住居址西壁で主軸方位はN-80°-Eを示す。

P1~P2が主柱穴で、P1・P2の主柱穴は柱間2.7mを測りP2はやや西壁に近く配置される。P1は径30cmの円形で深さは23cm、P2は長径34cm短径30cm深さ18cmを測る。掘方はP1・P2の外側北壁寄りと東壁寄りを10cmと浅めに、住居中央を35cm前後に深く掘られている。主に黒褐色の砂質土が埋められていた。床面は軟弱で僅かP1とカマド周辺が固かった。

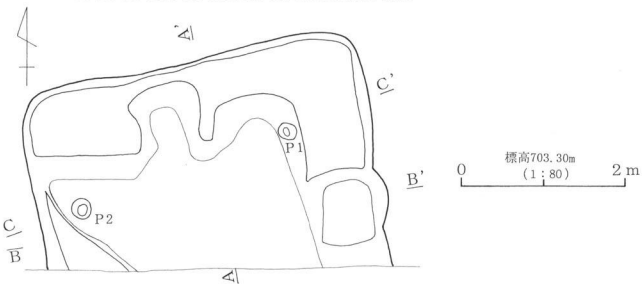
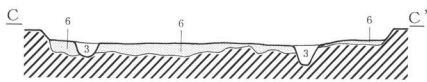
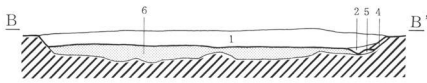
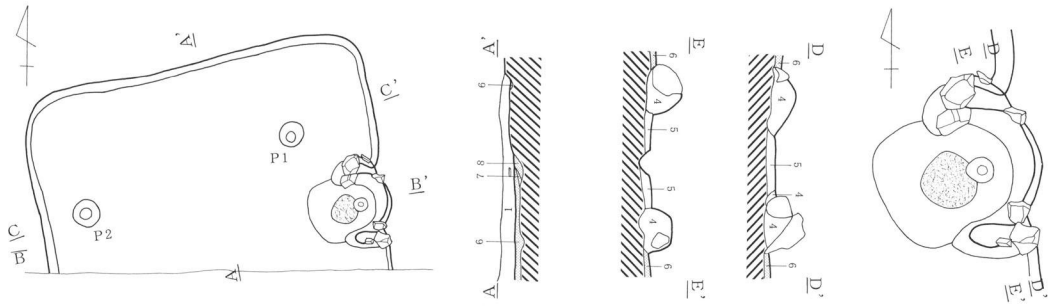
カマドは東壁に設置されていた。両袖の一部と火床が残る。石芯を黒色の粘質土で被覆して構築さ

第9表 H10号住居址出土物観察表

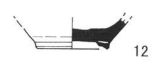
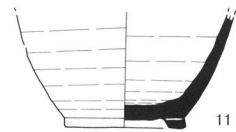
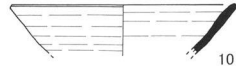
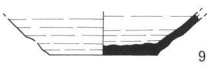
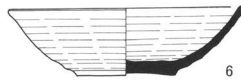
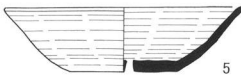
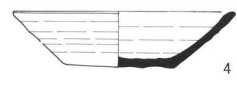
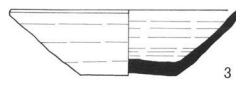
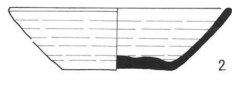
cm

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様				備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面		外面			
1	須恵器	坏	13.9	6.0	4.4	ロクロナデ		ロクロナデ・回転糸切り(右)		完全実測	Ⅱ区、Ⅲ区床
2	須恵器	坏	(13.6)	6.7	3.8	ロクロナデ		ロクロナデ・回転糸切り(右)		完全実測	Ⅲ区床
3	須恵器	坏	14.1	5.8	4.0	ロクロナデ		ロクロナデ・回転糸切り(右)		完全実測	Ⅲ区床・ホリ方
4	須恵器	坏	(13.8)	6.7	3.3	ロクロナデ		ロクロナデ・回転糸切り(右)		完全実測	カマド
5	須恵器	坏	(14.6)	(6.4)	3.9	ロクロナデ		ロクロナデ・回転糸切り(右)		回転実測	カマド
6	須恵器	坏	(14.4)	(6.0)	4.1	ロクロナデ		ロクロナデ・回転糸切り(右)		回転実測	Ⅲ区・ホリ方
7	須恵器	坏	(14.0)	(6.2)	4.1	ロクロナデ		ロクロナデ・回転糸切り(右)		回転実測	確認面
8	須恵器	坏	—	(6.4)	(3.7)	ロクロナデ		ロクロナデ・回転糸切り(右)		回転実測	カマド
9	須恵器	坏	—	6.6	(2.6)	ロクロナデ		ロクロナデ・回転糸切り(右)		完全実測	I区・ホリ方
10	須恵器	坏	(13.8)	—	(3.0)	ロクロナデ		ロクロナデ		回転実測、内外・火だすき痕	Ⅲ区
11	須恵器	壺	—	7.2	(7.0)	ロクロナデ		ロクロナデ、回転糸切り→高台貼付		完全実測	中央床
12	須恵器	壺	—	4.4	(1.9)	ロクロナデ		ロクロナデ、回転糸切り→高台貼付		完全実測	I区
13	土師器	坏	(13.1)	7.2	3.9	ヘラミガキ、黒色処理		ロクロナデ・回転糸切り(右)		完全実測	Ⅳ区・ホリ方
14	土師器	坏	—	5.8	(2.8)	ヘラミガキ、黒色処理		ロクロナデ・回転糸切り(右)		完全実測	カマド
15	土師器	碗	—	7.2	(1.7)	ヘラミガキ、黒色処理		ロクロナデ、回転糸切り→高台貼付(欠損)		完全実測	カマド
16	土師器	坏	—	6.9	(3.3)	ヘラミガキ、黒色処理		ロクロナデ・回転糸切り(右)		完全実測	カマド
17	土師器	坏	(17.0)	—	(4.2)	ヘラミガキ、黒色処理		ロクロナデ		回転実測	Ⅲ区・ホリ方
18	土師器	坏	(13.2)	—	(3.6)	ヘラミガキ、黒色処理		ロクロナデ		完全実測	Ⅲ区
19	土師器	碗	15.9	7.6	5.7	ヘラミガキ、黒色処理		ロクロナデ、回転糸切り→高台貼付		完全実測	Ⅱ区床
20	土師器	高台付皿	14.2	7.3	3.7	ヘラミガキ、黒色処理		ロクロナデ、回転ヘラケズリ→高台貼付		完全実測	カマド
21	土師器	高台付皿	13.0	6.7	3.0	ヘラミガキ、黒色処理		ロクロナデ、回転糸切り→高台貼付		完全実測	カマド
22	土師器	高台付皿	15.0	7.0	2.7	ヘラミガキ、黒色処理		ロクロナデ、回転糸切り→高台貼付		完全実測	Ⅲ区床、P2
No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置	
23	磨石	輝石安山岩		13.1	13.0	5.7	1357.8	被熱あり		Ⅲ区・ホリ方	
24	釘	鉄		(5.8)	1.25	0.45				カマド	
25	釘	鉄		(3.7)	(0.7)	(0.8)				カマド	



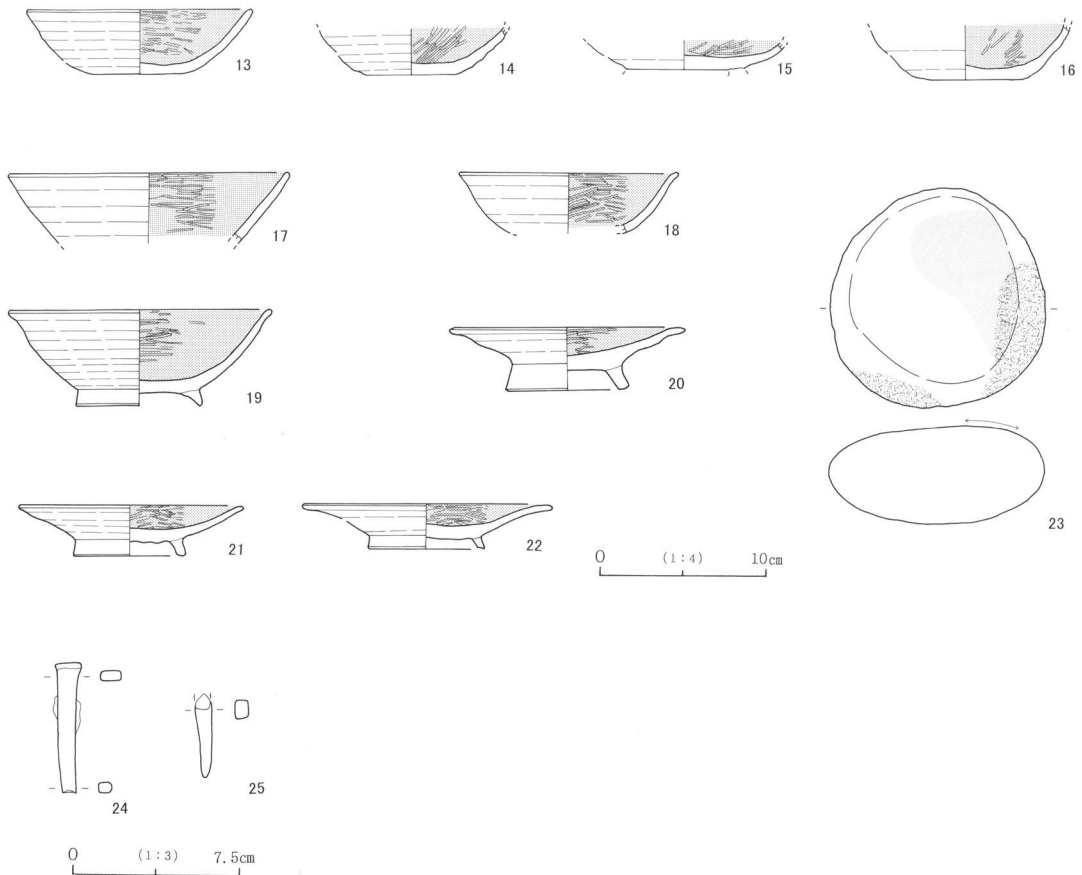


- |                   |   |                   |                                  |
|-------------------|---|-------------------|----------------------------------|
| 1層 黒褐色土 (10YR2/3) | 砂質土。黒色土 (10YR1.7/1) の小ブロック少量。小礫 (0.5~2cm)・白色軽石少量。 | 6層 黒褐色土 (10YR2/3) | 砂質土。炭・白色砂粒子 (10YR5/1砂質土。)(床下埋め土) |
| 2層 黒褐色土 (10YR2/3) | 灰と炭多量に含む。   | 7層 黒褐色土 (10YR2/3) | 炭多量。(床下埋め土)                      |
| 3層 黒褐色土 (10YR2/3) | 炭多量に含む。   | 8層 黒褐色土 (10YR2/3) | 砂質土。(床下埋め土)                      |
| 4層 暗褐色土 (10YR3/3) | 粘質土。砂・小礫 (5cm以下) 含む。粘質の黒色土 (10YR1.7/1) 含む。        |                   |                                  |
| 5層 黒褐色土 (10YR2/3) | 砂質土。  |                   |                                  |



0 (1:4) 10cm

第18図 H10号住居址実測図および出土遺物実測図



第19図 H10号住居址出土遺物実測図

れている。石材は熔結凝灰岩・安山岩であった。火床の端には支脚石が伺える小ピットがある。

出土遺物には、須恵器、土師器、石器、鉄器がある。4・5・8・14・15・16・20・21・24・25がカマド、1～3・11・19・22が床面、6・9・13・17・23が掘方から出土し、他は覆土一括である。

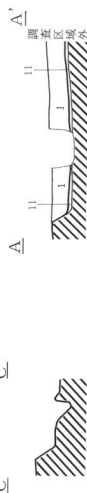
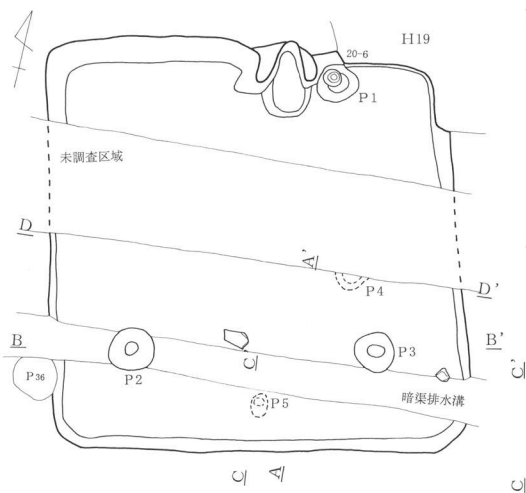
1～10は須恵器坏で、1～9底部が回転糸切り痕がみえる。11は須恵器壺、12は小ぶりの須恵器壺である。いずれも回転糸切り後高台貼り付けされる。13・14・16は土師器坏で、回転糸切り痕がみえる。15・19は土師器碗で回転糸切り後高台を貼り付けている。20～22は土師器高台付皿で回転糸切り後高台を貼り付けている。13～22はすべて内面黒色処理を施されている。22は磨石で側面2カ所に被熱している。24・25の鉄器は鉄釘であろうか。

本址は平安時代9世紀前半に位置づけられる。

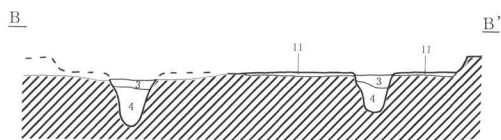
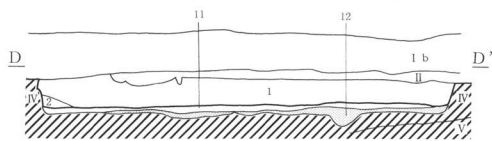
### (11) H11号住居址

本住居址は、あ・い-59～61Grに位置する。住居南部を暗渠排水で破壊され、中央部は安全対策で未調査部分である。北東コーナー付近をH19号住居址に壊されている。

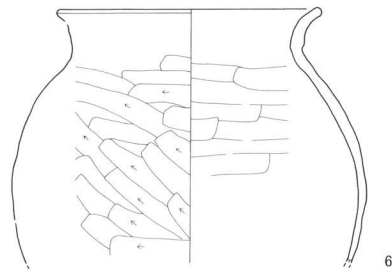
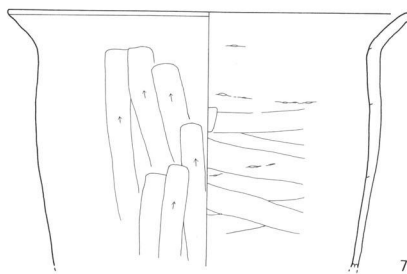
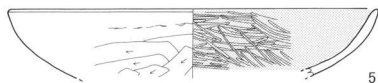
形態は隅丸方形を呈す。検出規模は北壁4.6m(復元4.8m)、東壁4.6m(復元4.8m)、南壁5m、西壁4.8mで、最深の壁残高は住居北西コーナーで30cmを測る。主軸方位はN-8°-Wを示す。P2～P3が主柱穴で柱間2.7mを測り、P2は長径56cm短径50cmのほぼ円形で深さは63cm、P2は径約48



- 1層 黒褐色土 (10YR2/3)  
砂が主。砂質土。固く締まる。  
小礫 (0.5~2cm) 多量。
- 2層 黒褐色土 (10YR3/2)  
砂が主。砂質土。
- 3層 黒褐色土 (10YR3/2)  
砂質土。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/3)  
砂質土。
- 5層 黒褐色土 (10YR3/1)  
黒色粘質土ブロック少量。小礫・焼土粒子を含む。
- 6層 黒色土 (10YR1.7/1)  
炭化物多量、焼土粒子を含む。
- 7層 暗赤褐色土 (5YR3/3)  
焼土。
- 8層 黒褐色土 (5YR3/1)  
黒色土多量、粘土ブロック微量。
- 9層 黒褐色土 (10YR3/2)  
粘土ブロック多量を含む。
- 10層 極暗赤褐色土 (5YR2/4)  
粘土ブロック少量、焼土粒子微量。
- 11層 黒褐色土 (10YR2/2)  
砂が主。砂質土。小礫 (0.5~3cm) 多量。
- 12層 黒褐色土 (10YR2/3)  
砂質土。黄色砂粒子含む。



標高703.6m  
(1:80) 2m



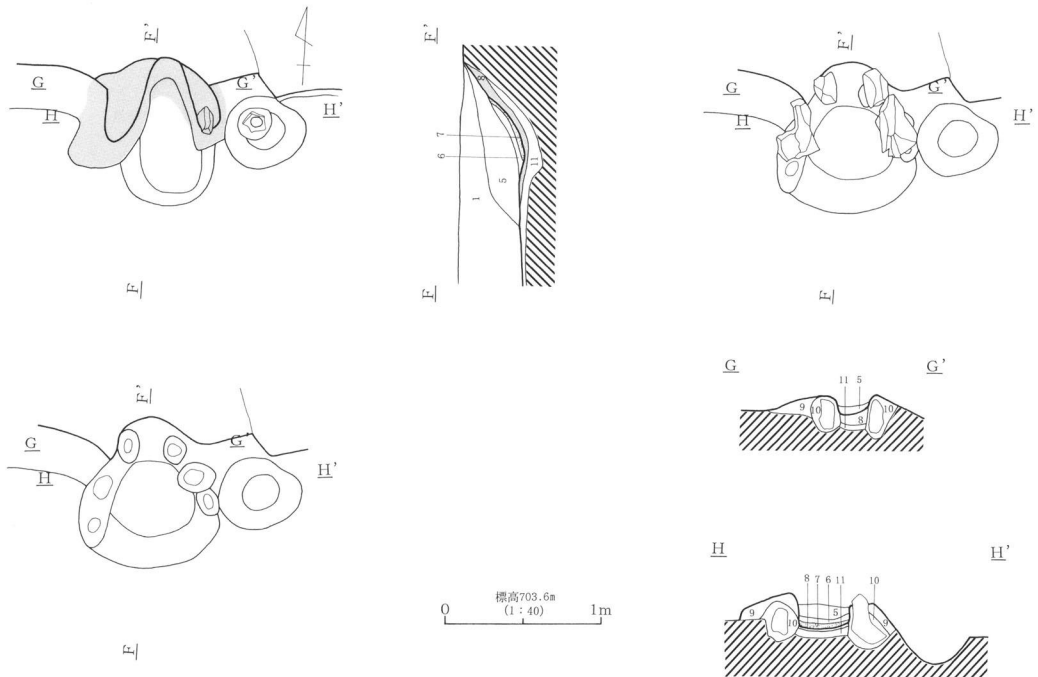
0 (1:4) 10cm

第20図 H11号住居址実測図および出土遺物実測図

第10表 H11号住居址出土遺物観察表

cm

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	須恵器	蓋	(18.4)	—	<1.8>	口クロナデ	口クロナデ	回転実測	フク土
2	須恵器	甕	—	—	—	当具痕	タタキ	断面実測	IV区
3	須恵器	甕	—	—	—	当具痕	タタキ	断面実測	フク土
4	須恵器	甕	—	—	—	当具痕→ナデ	タタキ	断面実測	攪乱
5	土師器	坏	(22.6)	—	<4.2>	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	カマド
6	土師器	甕	16.2	—	<15.5>	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	P1
7	土師器	甕	(24.8)	—	<15.5>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	カマド、攪乱



第21図 H11号住居址カマド実測図

cm深さ48cmを測る。P4・P5は掘方から確認された。カマドの東脇のP1には、底部欠損する土師器甕（第20図6）が置かれ貯蔵穴であろうか。

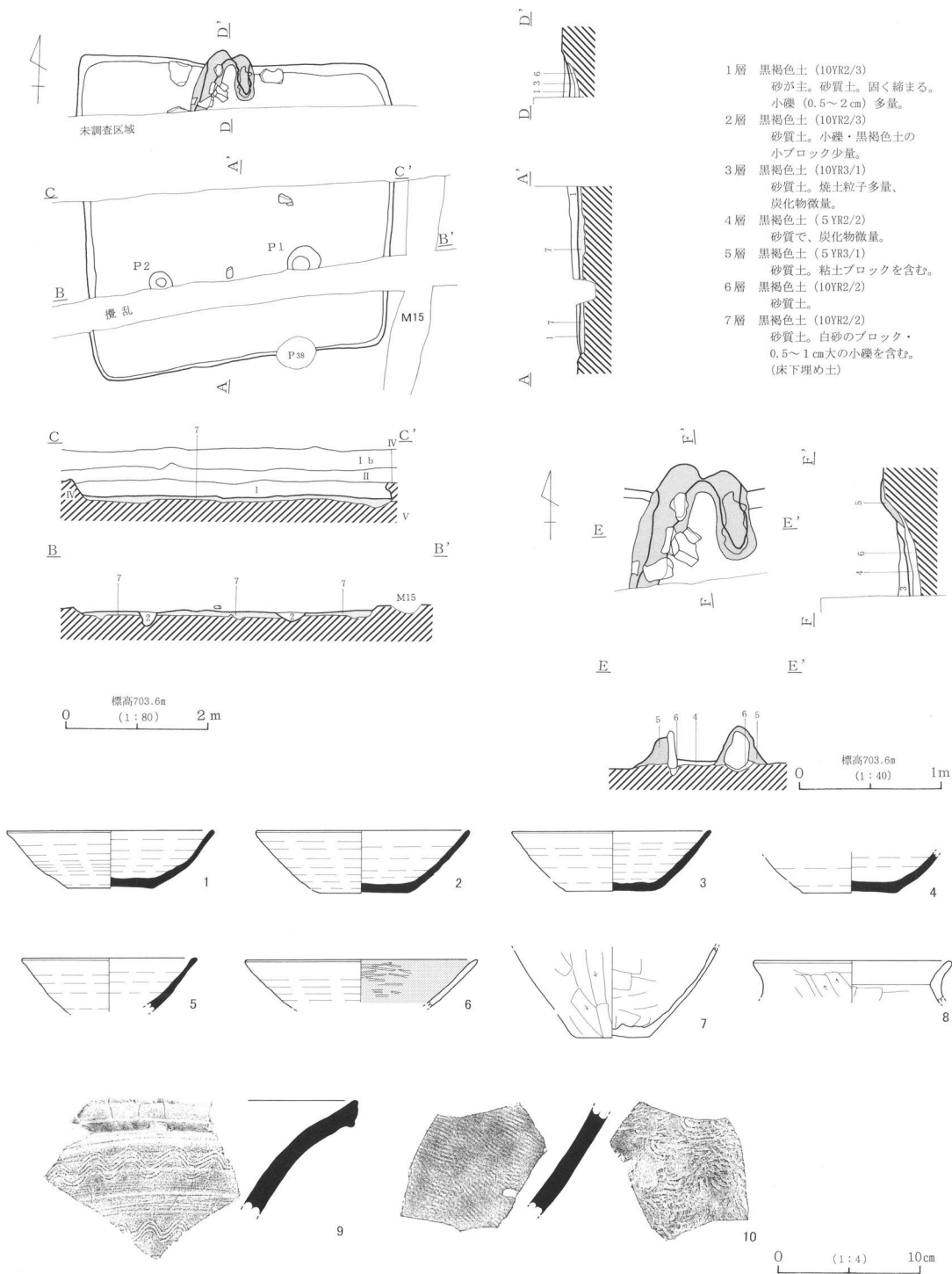
掘方は住居中央部付近が10cm前後、周辺は2～5cmと浅めに掘られている。主に黒褐色の砂質土が埋められていた。床面は平坦であるが軟弱である。

カマドは北壁に設置されていた。両袖・煙道の一部と火床が残る。石芯を黒褐色の粘質土で被覆して構築されている。石材は熔結凝灰岩・安山岩であった。

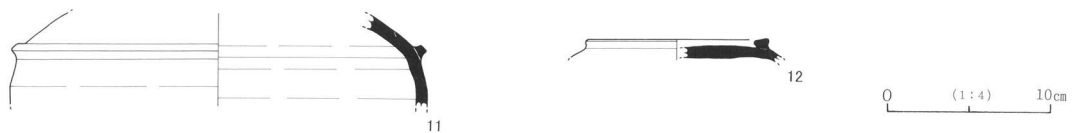
出土遺物には、須恵器、土師器がある。5・7はカマド、6はP1、2はIV区、他は覆土一括出土である。1は須恵器蓋でかえりを有する。5は内面黒色処理される土師器坏。6は土師器壺、7は口縁部に最大径を持つ土師器甕である。

本址は、8世紀中葉に位置づけられよう。





第22図 H12号住居址実測図および出土遺物実測図



第23図 H12号住居址出土遺物実測図

第11表 H12号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	須恵器	坏	14.6	5.9	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り(右)	完全実測	カマド
2	須恵器	坏	(15.0)	6.5	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り(右)	完全実測	カマド
3	須恵器	坏	(14.0)	6.7	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り(右)	完全実測	Ⅱ区床
4	須恵器	坏	-	6.8	<2.8>	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り(右)	完全実測、外・火だすき痕	確認面
5	須恵器	坏	(12.4)	-	<3.8>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	カマド
6	土師器	坏	(16.4)	-	<3.4>	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ	回転実測	カマド
7	土師器	甕	-	5.4	<6.4>	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	フク土
8	土師器	甕	(14.0)	-	<3.0>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	確認面
9	須恵器	甕	-	-	-	ロクロナデ	櫛描波状文	断面実測	カマド
10	須恵器	甕	-	-	-	当具痕	平行タタキ	断面実測	カマド
11	須恵器	甕	-	-	<5.8>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測、内外・自然釉付着	I区
12	須恵器	高台付坏 (転用硯)	(11.2)	-	<1.4>	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り	回転実測、底部炭付着	I区

### (12) H12号住居址

本住居址は、あ・い-62・63Grに位置する。住居址南部を暗渠排水で破壊され、中央部は安全対策で未調査部分である。南壁中央付近をP38に壊されている。

形態は隅丸方形を呈す。検出規模は北壁4.2m、東壁4m、南壁3.9m、西壁4.6mで、最深の壁残高は北壁で25cmを測る。

主軸方位はN-2°-Wを示す。P1~P2が支柱穴で柱間2mを測り、P1は径32cmのほぼ円形で深さは22cm、P2は径46cm深さ15cmを測る。

掘方は5~10cmと全体に浅めに掘られている。主に黒褐色の砂質土が埋められていた。床面は平坦であるが埋め土が砂質のためか軟弱である。

カマドは北壁に設置されていた。両袖・煙道の一部と火床が残る。石芯を黒褐色の砂質土と粘土で被覆して構築されている。石材は熔結凝灰岩・安山岩であった。

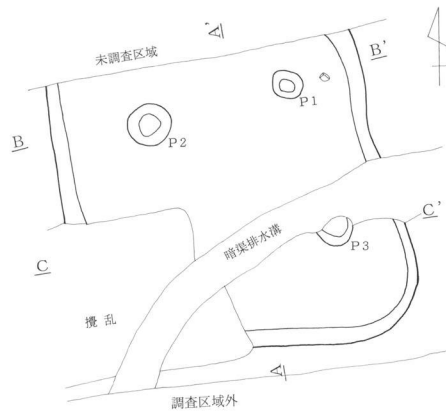
出土遺物には須恵器、土師器がある。1・2・5・6・9・10はカマド、3は中央の床面、11・12はI区、他は覆土一括出土である。

1~5は須恵器坏で、1~4の底部に回転糸切り痕がみえる。9・10は須恵器甕である。11は須恵器四耳壺、12は須恵器高台付坏であるが底部外面滑らかで炭が付着しており、転用硯とみられる。6は土師器坏か碗で、内面黒色処理を施される。7・8は土師器の武蔵甕である。

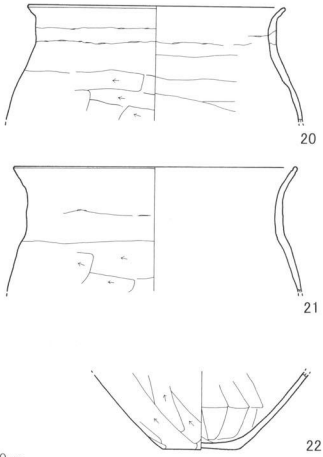
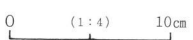
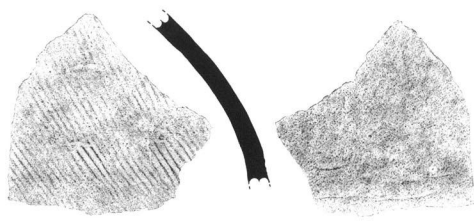
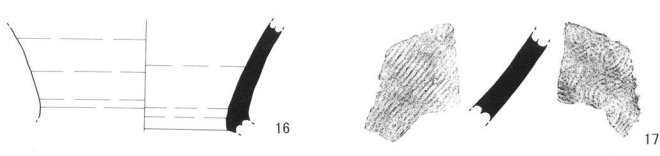
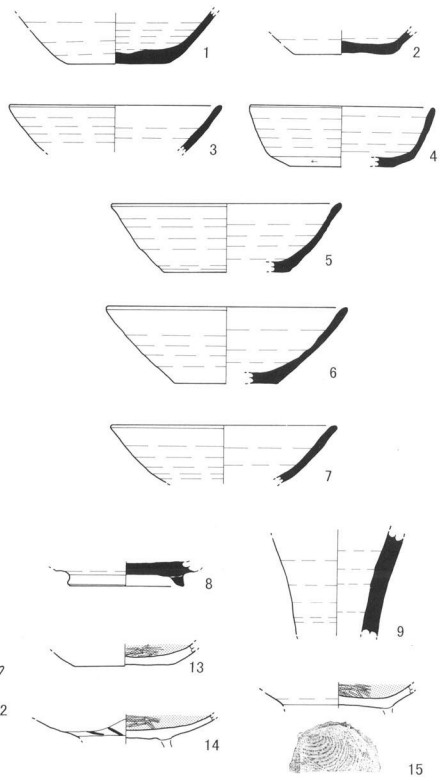
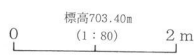
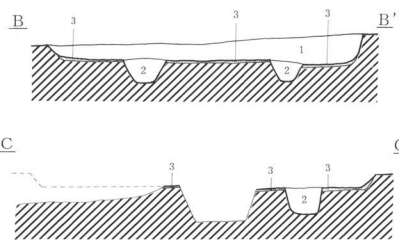
本址は平安時代9世紀前半に位置づけられる。

### (13) H13号住居址

本住居址は、い・う-64・65Grに位置する。住居址南部を暗渠排水、南西部を攪乱で破壊されている。H19号住居址と西壁部分でM19号溝状遺構と中央から東側が重複している。いずれよりも本址が新しい。北壁部分は、安全対策で未調査である。



- 1層 黒褐色土 (10YR3/2)  
炭化物微量、小礫 (0.5~1 cm) 少量。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2)  
炭化物、小礫 (0.5~1 cm) 含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2)  
砂質土。



第24図 H13号住居址実測図および出土遺物実測図

第12表 H13号住居址出土遺物観察表

cm

No.	種別	器種	法 量			成 形・調 整・文 様		備 考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面		
1	須恵器	坏	-	6.6	<3.2>	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り(右)	完全実測	Ⅱ区
2	須恵器	坏	-	6.2	<1.6>	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り(右)	完全実測、外・火だすき痕	Ⅱ区
3	須恵器	坏	(13.2)	-	<2.9>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区
4	須恵器	坏	(11.4)	(6.4)	(3.7)	ロクロナデ	体部下端底部・1回転ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
5	須恵器	坏	(14.4)	(8.0)	(4.2)	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り	回転実測	Ⅰ区
6	須恵器	坏	(15.0)	(6.4)	(4.7)	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り(右)	回転実測、外・火だすき痕	Ⅱ区
7	須恵器	坏	(14.0)	-	<3.6>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区
8	須恵器	高台坏	-	(7.2)	<1.5>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付	回転実測	Ⅳ区
9	須恵器	壺	-	-	<6.5>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅳ区
10	土師器	坏	(14.4)	(6.0)	(4.0)	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り(右)	回転実測	Ⅱ区
11	土師器	坏	-	-	<2.5>	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ	破片実測、墨書	Ⅳ区
12	土師器	坏	(14.4)	-	<3.0>	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区
13	土師器	坏	-	(6.4)	<1.4>	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ	回転実測	Ⅲ区
14	土師器	碗	-	-	<1.8>	ヘラミガキ、黒色処理	底部回転ヘラケズリ→高台貼付(欠損)	回転実測、外・墨書	Ⅱ区
15	土師器	碗	-	-	<1.5>	ヘラミガキ、黒色処理	底部回転糸切り(右)→高台貼付(欠損)	回転実測、ヘラ記号あり	Ⅱ区
16	須恵器	甕	-	-	<6.8>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区
17	須恵器	甕	-	-	-	円心円文の当具痕	平行タタキ	断面実測	Ⅰ区
18	須恵器	甕	-	-	-	当具痕→ナデ	平行タタキ	断面実測	Ⅱ区
19	須恵器	甕	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ、突帯貼付	断面実測	Ⅱ区
20	土師器	甕	(16.0)	-	<7.0>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区、P1
21	土師器	甕	(17.6)	-	<7.7>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区床、Ⅲ区
22	土師器	甕	-	(4.6)	<4.8>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区

形態は隅丸方形を呈すると思われる。検出規模は、東壁3.6m、南壁検出部2m、西壁検出部1.8mで、最深の壁残高は東壁で36cmを測る。南北に主軸を想定すると、方位はN-15°-Wを示す。P1~P3が支柱穴で東西・南北の柱間1.8mを測り、P1は長径40cm短径36cmのほぼ円形で深さは30cm、P2は径52cmの円形深さ27cmを測る。P3は径46cmの円形で深さ34cmを測る。掘方は5~10cmと全体に浅めに掘られている。主に黒褐色の砂質土が埋められていた。床面は平坦である。周溝はみとめられない。

1・2・16・18がⅡ区床面から5cm上、20がP1、他は覆土一括出土で、Ⅱ区からの出土が多い。1~6は須恵器坏で、1・2・5・6の底部に回転糸切り痕がみえる。8は須恵器高台付坏で、7は酸化焰焼成の須恵器坏である。10~15は、内面黒色処理される。11は、判読不明の墨書。20・21は、口縁部「コ」の字状の土師器武蔵甕である。4は体部下位・底部ヘラケズリで混入である。

出土遺物は、聖原遺跡奈良平安時代V期に比定され、本址は平安時代9世紀前半に位置づけられる。

#### (14) H14号住居址

本住居址は、う・え-73Grに位置する。D15号土坑に北東壁部分を破壊される。D19・33・34号土坑とH16号住居址と重複し、本址が新しい。

形態は隅丸長方形と思われる。検出規模は、北壁残存部2.2m(復元3m)、東壁検出部1.6m、西壁検出部2.8mで、最深の壁残高は北壁で17cmを測る。

主軸方位はN-88°-Eを示す。規則的な柱穴はない。P1は長径50cm短径40cm深さは22cmを測る。P1とカマド間に2個土坑状の落ち込みがあった。東側からは炭が多量に出土した。西側は長径100cm以上短径90cm深さ30cmを測る。内部最下層はロームブロック多量に含み、人為的堆積とみられる。上部に炭化物多量含む11層と多量の炭化物にロームブロックが混じる堆積10層がある。底面直上から第25図の灰釉陶器小瓶が出土した。カマド西側の床面上に多量の灰と炭の堆積がみられた。



灰釉陶器小瓶 (H14 号住居址付属 D 1 出土)

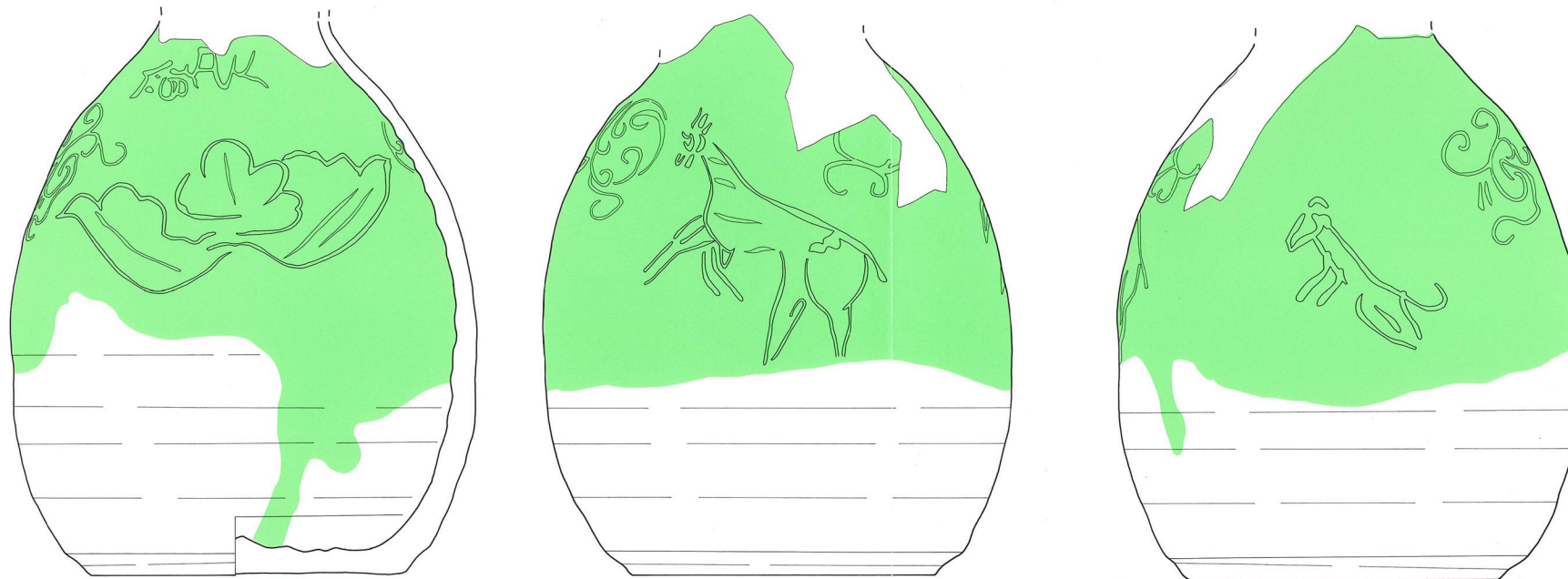
底径 5.3cm

残存高 9.5cm

灰釉漬け掛け

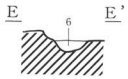
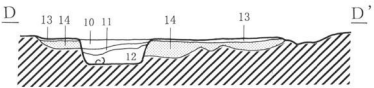
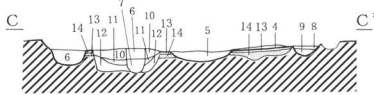
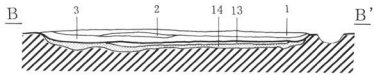
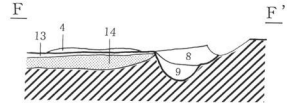
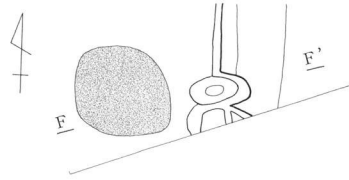
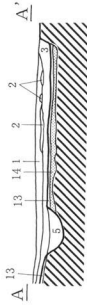
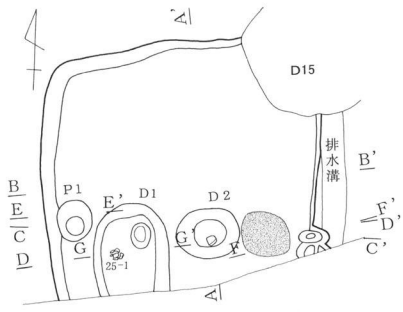
底部右回転糸切り

施釉範囲の胴部上半に馬(鹿)・  
雲・花・文字?(記号?)・雲・  
馬(鹿)・雲が印刻されている。



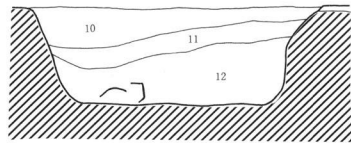
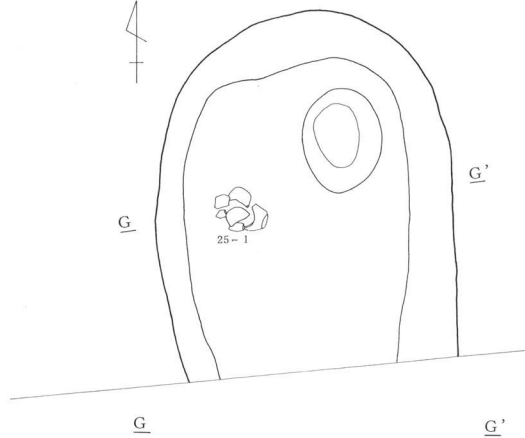
0 (1:1) 2.5cm

第25図 H14号住居址出土遺物実測図



標高702.90m  
(1:80) 2m

標高702.90m  
(1:40) 1m



標高702.90m  
(1:20) 0.5m

- 1層 黒褐色土 (10YR3/1)  
パミス・黄色ローム粒子微量。
- 2層 黒色土 (10YR2/1)  
炭 (灰を含みネトットした炭)。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/3)  
黄色ロームブロック多量。パミス少量含む。
- 4層 黒色土 (10YR2/1)  
炭 (灰を含みネトットした炭)。2層に似る。
- 5層 黒褐色土 (10YR2/3)  
炭多量、焼土ブロック・パミス含む。
- 6層 黒褐色土 (10YR2/3)  
パミス多量、炭化物を含む。
- 7層 黒色土 (10YR2/1)  
パミス少量。
- 8層 黒褐色土 (10YR2/2)  
炭・灰・焼土粒子多量に含む。
- 9層 黒色土 (10YR2/1)  
炭化物・焼土ブロック・黄色ローム粒子含む。
- 10層 暗褐色土 (10YR3/3)  
炭化物多量、黄色ロームブロックを含む。

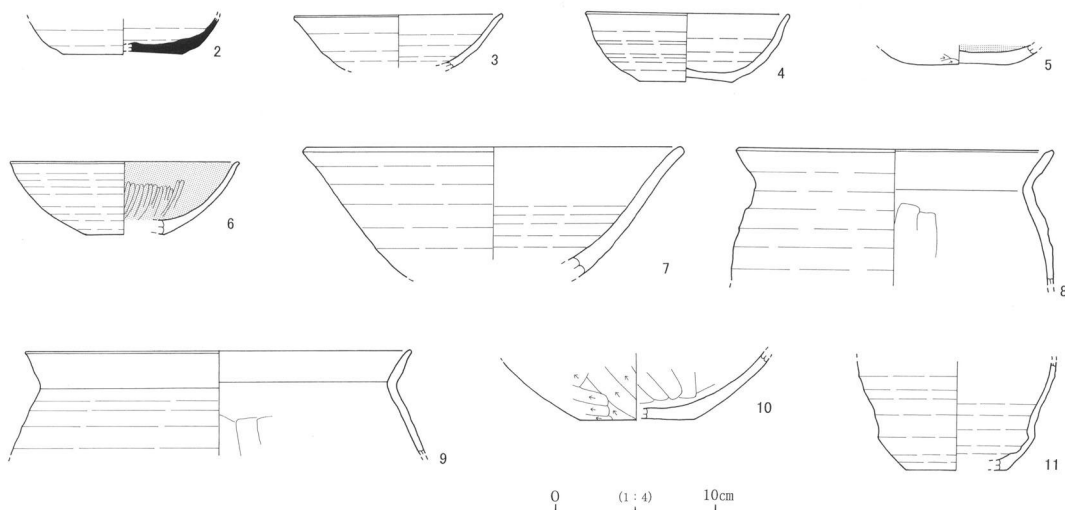
- 11層 黒色土 (10YR2/1)  
炭化物多量に含む。
- 12層 暗褐色土 (10YR3/4)  
黄色ロームブロック多量、炭化物微量に含む。
- 13層 暗褐色土 (10YR3/3)  
黄色ローム粒子、黄色ロームブロック含む。
- 14層 黒褐色土 (10YR2/3)  
黄色ロームブロック、パミスを含む。

第26図 H14号住居址実測図

第13表 H14号住居址出土遺物観察表

cm

No	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	灰釉陶器	小瓶	—	5.3	<9.4>	ロクロナデ	ロクロナデ、施釉(つけがけ)、底部付近ヘラケズリ、底部回転糸切り(右)	完全実測	D1
2	須恵器	坏	—	(7.4)	<2.2>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅲ区
3	土師器	坏	(13.0)	—	<3.4>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	フク土
4	土師器	坏	(12.6)	(5.8)	4.3	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り(左)	回転実測	Ⅳ区
5	土師器	坏	—	(6.4)	<1.2>	ミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	検出面
6	土師器	坏	(14.1)	(4.8)	4.5	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	フク土
7	土師器	鉢	(23.6)	—	<8.0>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	カマド
8	土師器	甕	(17.6)	—	<8.2>	胸部ヘラナデ	ロクロナデ	回転実測	フク土
9	土師器	甕	(23.9)	—	<6.5>	胸部ヘラナデ	ロクロナデ	回転実測	D2
10	土師器	甕	—	(7.1)	<4.1>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	フク土
11	土師器	甕	—	(6.2)	<6.7>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	P1



第27図 H14号住居址出土遺物実測図

掘方は全体に浅いがカマドからP1にかけて深く、ロームブロック含をむ黒褐色土が埋められている。その上面にはほぼ全面に敲き床が認められ、平坦である。

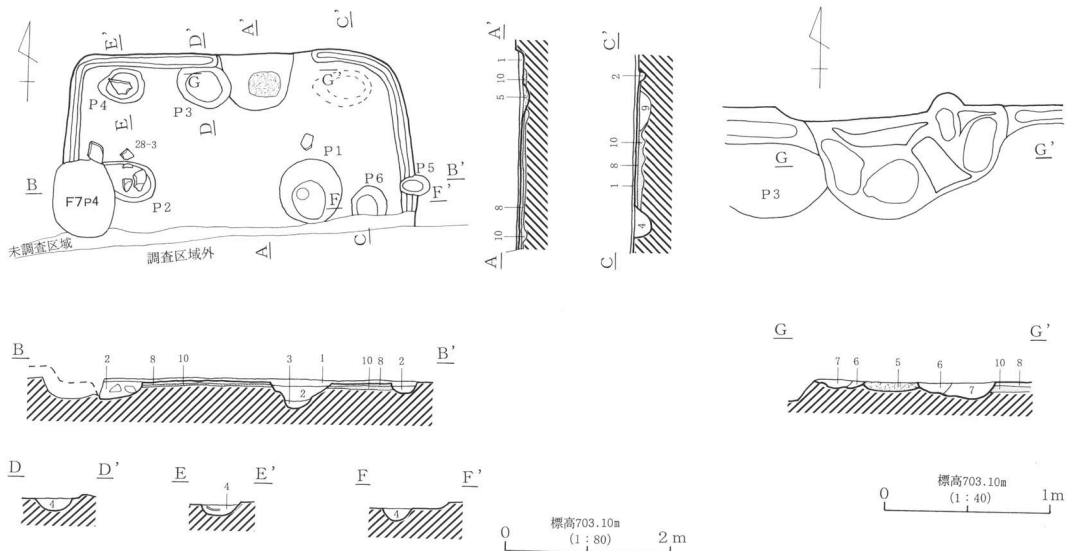
カマドは東壁に設置され、石芯を想定させる袖部のピットが検出された。周溝はみとめられない。

出土遺物には須恵器、土師器、灰釉陶器がある。1がD1、9がD2、7がカマド、11がP1、他は覆土出土。2は須恵器坏、3～6は土師器坏、5・6は内面黒色処理、2・4は底部回転糸切り5は回転糸切り後ヘラケズリされる。7は大型の土師器鉢で口径23.6cmを測る。8・9・11は土師器ロクロナデで8・9は胸部に最大径がある。いずれも被熱の影響であろうか、固さが際だっている。3・4・9・10・11には、灰が付着している。第25図1の灰釉陶器小瓶は、底径5.3cm残存高9.4cmを測る。施釉は漬けがけで施釉前に動物2頭、印刻花文、雲文、不明文が印刻されている。

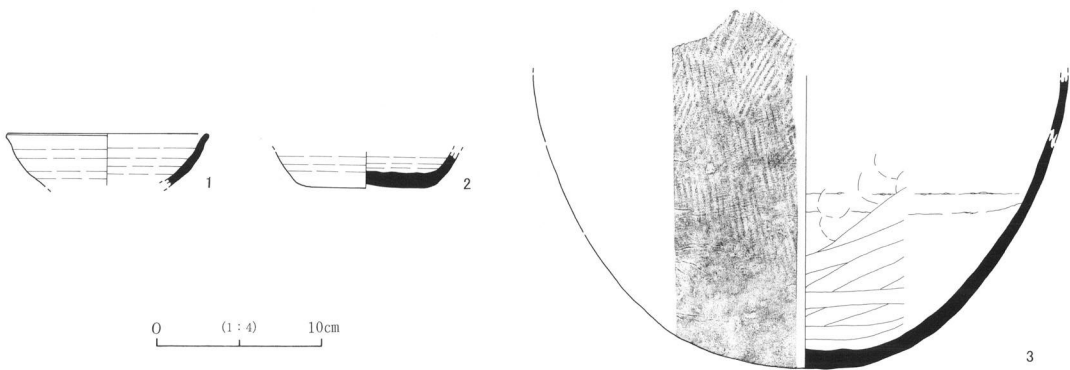
第14表 H15号住居址出土遺物観察表

cm

No	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	須恵器	坏	(12.0)	—	<3.2>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区
2	須恵器	坏	—	(7.1)	<2.1>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部ヘラケズリ	回転実測	フク土
3	須恵器	甕	—	(14.5)	<17.6>	当具痕→ヘラナデ	胸部タタキ	完全実測	Ⅱ区



- |   |  |
|---|--|
| 1層 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物多量、焼土粒子・黄色ロームブロック微量。 | 6層 黒褐色土 (10YR3/1) 粘土ブロック多量、炭化物多量を含む。       |
| 2層 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物多量、パミス微量。            | 7層 黒褐色土 (10YR2/3) 黄色ロームブロック、炭化物、焼土粒子少量を含む。 |
| 3層 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物少量、パミス多量を含む。         | 8層 黒褐色土 (10YR2/3) ロームブロック、パミス含む。(蔽き床)      |
| 4層 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物多量、黄色ローム粒子微量、焼土粒子含む。 | 9層 黒褐色土 (10YR2/3)                          |
| 5層 赤褐色土 (5YR4/8) 焼土。(火床)                  | 10層 黒褐色土 (10YR2/3) ロームブロック、炭化物少量。(床下埋め土)   |

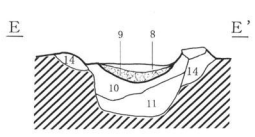
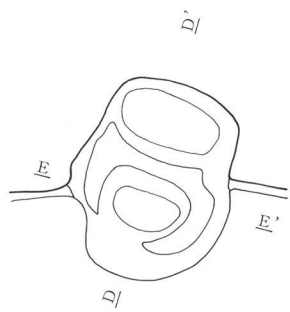
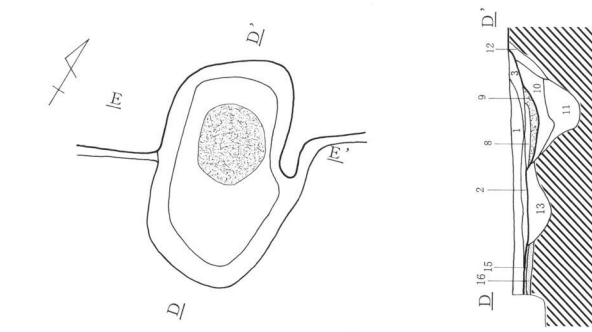


第28図 H15号住居址実測図および出土遺物実測図

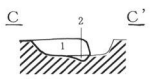
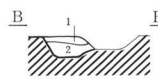
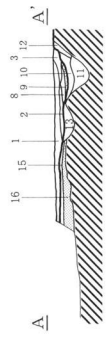
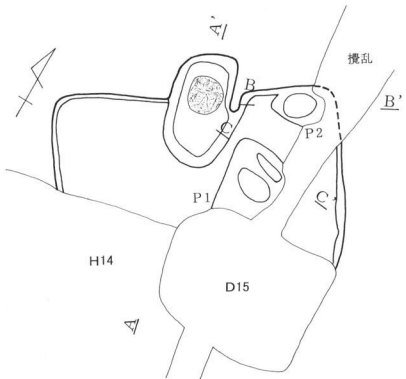
出土遺物は聖原遺跡奈良平安時代VI期に比定される。本址は9世紀後半に位置づけられる。

### (15) H15号住居址

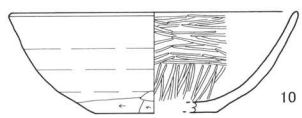
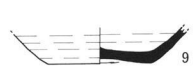
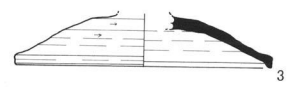
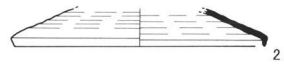
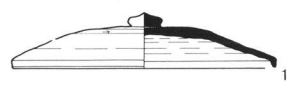
本住居址は、う・え-69・70Gr に位置する。F 7 P4に西壁一部分を破壊される。南半分は調査区域外に延びる。形態は隅丸方形と思われる。検出規模は、北壁3.8m、東壁検出部1.8m、西壁検出部1.2mで、残存状態良好でなく、壁残高は2～5cmであった。主軸方位はN-2°-Wを示す。ピットは7個(P7は床下から)があるが、明確な柱穴はない。本址より新しいものもあろう。掘方は全体に浅く、その上面にはほぼ全面に蔽き床が認められ、平坦である。カマドは北壁に設置されていたことが、焼土が堆積した火床の存在から想定できる。周溝がカマドを除く壁下にみとめられた。



標高703.00m  
(1:40) 1m



標高703.00m  
(1:80) 2m

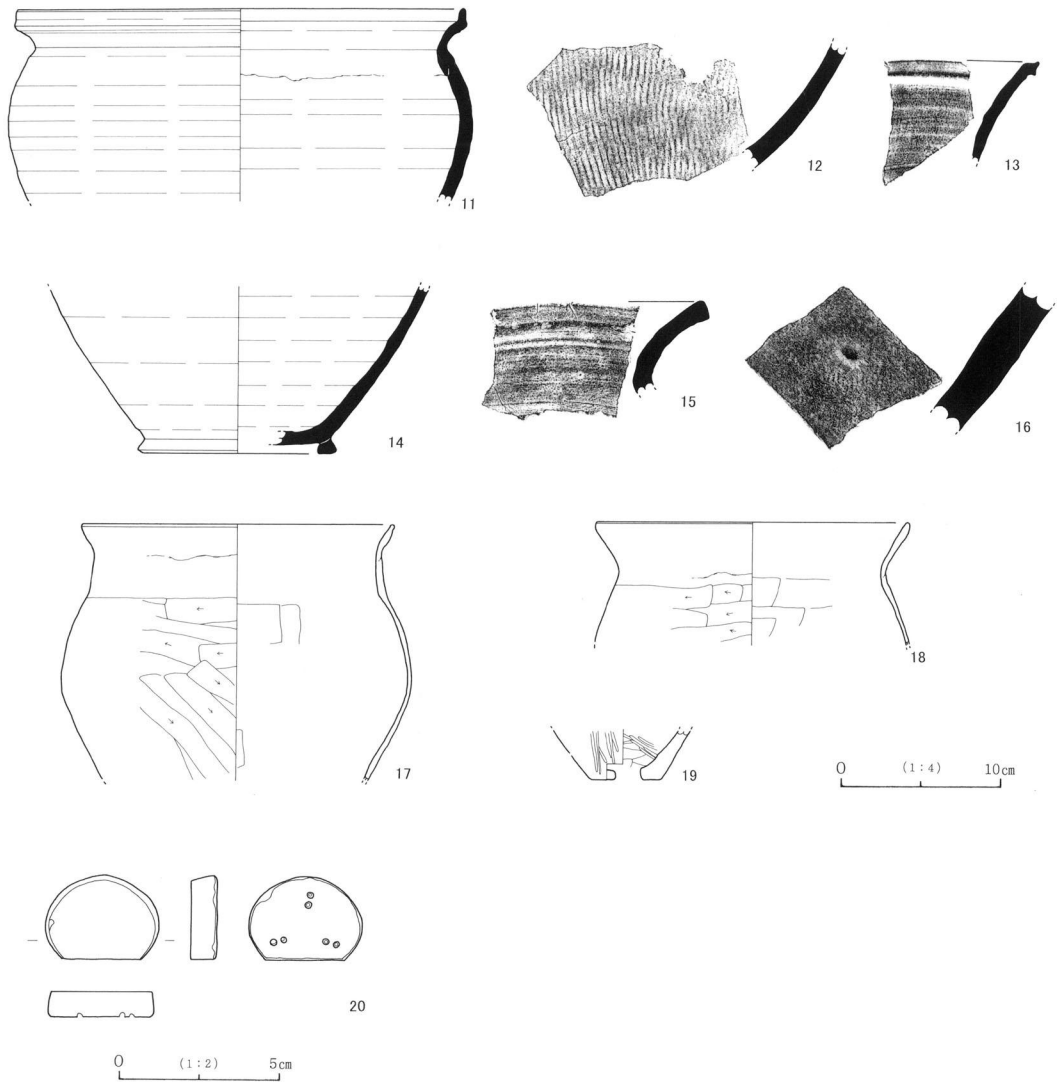


0 (1:4) 10cm

- 1層 黒褐色土 (10YR3/1) 炭化物多量、パミス微量。
- 2層 にぶい赤褐色土 (5YR4/3) ローム・粘土・焼土ブロック、炭含む。
- 3層 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 焼土粒子微量。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土粒子・炭化物微量。
- 5層 黒褐色土 (10YR2/2) パミス微量。
- 6層 黒褐色土 (10YR3/2) パミス少量。
- 7層 暗褐色土 (10YR3/3) 黄色ロームを含む。
- 8層 にぶい赤褐色土 (5YR5/4) 灰を主とし、焼土を含む。
- 9層 赤褐色土 (2.5YR4/8) 焼土 (火床)
- 10層 黒褐色土 (5YR2/1) 炭化物少量、焼土粒子微量。
- 11層 黒褐色土 (7.5YR3/3) 炭化物少量、粘土ブロックを含む。
- 12層 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黄色ロームブロック・炭化物微量。
- 13層 黒褐色土 (5YR3/1) 炭化物多量。
- 14層 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘土ブロック・ローム粒子含む。
- 15層 黒褐色土 (10YR2/3) 黄色ローム・パミス少量、炭化物微量。上面固く締まる。(敲き床)
- 16層 黒褐色土 (10YR3/2) パミス少量。(床下埋め土)

第29図 H16号住居址実測図および出土遺物実測図





第30図 H16号住居址出土遺物実測図

出土遺物は須恵器が図示できた。2は酸化焰焼成の須恵器坏で底部へラケズリされる。口縁部「く」の字状に外反する土師器甕もみられる。少ない遺物で明確ではないが、奈良時代の所産であろうか。

#### (16) H16号住居址

本住居址は、う-72・73Grに位置する。北東コーナーから南壁にかけて攪乱溝に、南側大半をH14・D15に破壊される。D19寄りは新しい。形態は隅丸方形と思われる。検出規模は、北壁検出部3.2m、東壁検出部1.6m、西壁検出部1.2mで、残存状態良好でなく、壁残高は2～9cmであった。主軸方位はN-32°-Wを示す。ピットは2個あるが、明確な柱穴はない。P1はカマド脇にあり貯蔵穴であろうか。掘方は中央から東側と南側が深く黒褐色土が埋められていた。その上面にはほぼ

第15表 H16号住居址出土遺物観察表

cm

No	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	須恵器	蓋	(16.4)	-	3.4	ククロナデ	ククロナデ、天井部回転ヘラケズリ	回転実測	カマド
2	須恵器	蓋	(16.0)	-	(2.3)	ククロナデ	ククロナデ	回転実測、内外・火だすき痕	カマド、カマド付近
3	須恵器	蓋	(15.8)	-	(3.2)	ククロナデ	ククロナデ、天井部回転ヘラケズリ	回転実測、内外・火だすき痕	カマド
4	須恵器	坏	13.7	6.5	4.0	ククロナデ	ククロナデ、底部回転糸切り(右)	完全実測	P2
5	須恵器	坏	-	5.9	(3.0)	ククロナデ	ククロナデ、底部回転糸切り(右)	完全実測	カマド付近
6	須恵器	坏	-	(6.6)	3.5	ククロナデ	ククロナデ、底部回転糸切り(右)	回転実測	カマド
7	須恵器	坏	-	(6.0)	(2.5)	ククロナデ	ククロナデ、底部回転糸切り	回転実測、内外・スス付着	カマド
8	須恵器	坏	-	(6.4)	(2.8)	ククロナデ	ククロナデ、底部回転糸切り	回転実測、内外・火だすき痕	カマド
9	須恵器	坏	-	(6.4)	(2.2)	ククロナデ	ククロナデ、底部回転糸切り	回転実測、内外・火だすき痕	カマド付近
10	土師器	坏	(18.0)	(7.9)	(6.2)	ヘラミガキ	ククロナデ、体部下端・底部ヘラケズリ	回転実測	カマド付近
11	須恵器	甕	(28.0)	-	(12.0)	ククロナデ	ククロナデ	回転実測	カマド付近、P1
12	須恵器	-	-	-	-	当具痕→ナデ	平行タタキ	断面実測	カマド
13	須恵器	-	-	-	-	ククロナデ	ククロナデ	断面実測	カマド
14	須恵器	壺	-	(12.4)	(10.4)	ククロナデ	ククロナデ、底部回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	カマド付近
15	須恵器	甕	-	-	-	ククロナデ	ククロナデ	断面実測	カマド付近
16	須恵器	-	-	-	-	当具痕→ナデ	平行タタキ	断面実測	カマド付近
17	土師器	甕	(19.4)	-	(16.0)	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	カマド、カマド付近
18	土師器	甕	(19.6)	-	(7.7)	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	カマド
19	須恵器	甕	-	4.4	(3.1)	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	ホリ方
No	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
20	丸とち	蛇紋岩	-	2.6	3.5	0.8	14.35	-	カマド

全面に固く締められた敲き床が認められ、平坦である。カマドは北壁に設置されていたが、ほとんど形をとどめていない。火床下の掘方は深く30cmを測る。出土遺物には須恵器、土師器、石製品がある。4がP2、19が掘方、他はすべてカマドおよびカマド付近から出土した。1～3は須恵器蓋、4～9は須恵器坏ですべて底部回転糸切り、10は土師器鉢で口径18cm、体部下端と底部がヘラケズリされる。17・18は土師器武蔵甕で、17は「コ」の字状口縁を持つ。11・13・15は須恵器甕11は広口で短い口縁を有す。14は須恵器壺であろう。20は石製の丸軀で、縦(表2.4cm、裏2.5cm)横(表3.3cm、裏3.4cm)厚さ0.8cm重さ14.34gを測る。

出土遺物は聖原遺跡奈良平安時代V期に比定される。本址は9世紀前半に位置づけられる。

### (17) H17号住居址

本住居址は、い・う-65・66Grに位置する。H13と攪乱に東壁の上部を、西壁の多くを攪乱で壊されている。形態は隅丸方形と思われる。検出規模は、北壁4.1m、東壁検出部3.4m、西壁検出部3.6mで、最深の壁残高は北壁で70cmを測る。主軸方位はN-6°-Wを示す。P1～P4が主柱穴で南北の柱間3.2m東西の柱間1.8mを測る。北壁の外にあるP5・P6も上屋を支える柱穴であろう。

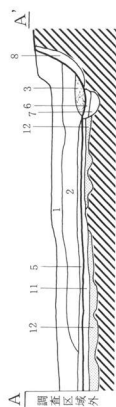
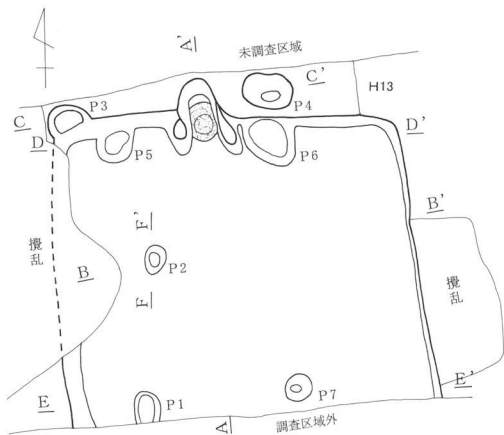
掘方は10cm前後で主ににぶい黄褐色土が埋められていた。床面は平坦で敲きの床は2～10cmと厚い。

カマドは北壁に設置されていた。両袖・煙道の一部と火床が残る。掘方の小ピットから石芯がうかがえる。白色粘土含む黒褐色土と暗褐色土で被覆して構築されたであろう。

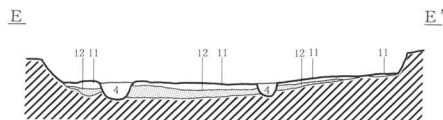
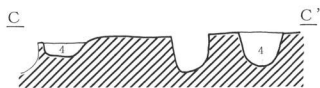
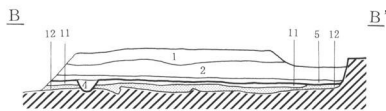
第16表 H17号住居址出土遺物観察表

cm

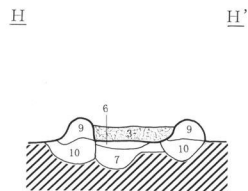
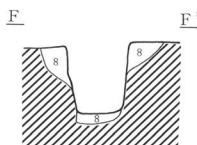
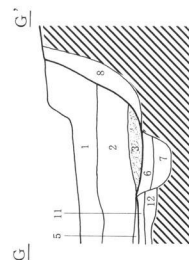
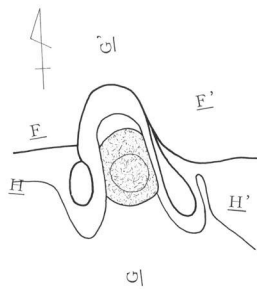
No	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	部位	外面		
1	須恵器	蓋	(18.0)	-	(2.6)	ククロナデ	ククロナデ、天井部回転ヘラケズリ	回転実測	フク土
2	須恵器	坏	-	(8.1)	(1.7)	ククロナデ	ククロナデ	回転実測、内外・火だすき痕	Ⅲ区
3	須恵器	坏	-	(8.6)	(1.4)	ククロナデ	ククロナデ、底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
4	須恵器	坏	-	(8.4)	(4.5)	ククロナデ	ククロナデ、底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区
5	土師器	坏	(14.0)	-	(3.1)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	フク土
6	土師器	鉢	-	-	(3.4)	ヘラナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅲ区
7	土師器	甕	(19.6)	-	(4.2)	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	フク土
8	土師器	甕	(16.8)	-	(10.3)	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区、Ⅲ区
9	灰釉陶器	-	-	-	-	ククロナデ	ククロナデ	回転実測	Ⅱ区



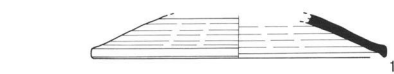
- 1層 黒褐色土 (10YR2/3)  
炭化物・パミス微量。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/3)  
炭化物・パミス・少礫含む。
- 3層 極暗赤褐色土 (5 YR2/4)  
焼土粒子・焼土ブロック多量。  
黒色土・炭化物ブロックと灰  
を含む。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/3)  
黒色土の小ブロック・炭少量。
- 5層 黒色土 (10YR1.7/1)  
有機物が腐食したような粘質あり。
- 6層 暗赤褐色土 (5 YR3/4)  
炭化物・焼土ブロック・焼土多量。
- 7層 極暗赤褐色土 (5 YR2/4)  
黄色ロームブロック・黒色土  
ブロック含む。
- 8層 暗褐色土 (10YR3/4)  
焼土ブロック微量、黒色土  
ブロック含む。
- 9層 黒褐色土 (10YR2/3)  
少礫、白色粘土ブロック少量含む。
- 10層 暗褐色土 (10YR3/4)  
少礫・黄色ロームブロック・黒色土  
ブロック含む。
- 11層 黒褐色土 (10YR2/2)  
黄色ローム粒子・パミス少量、  
黒色土の小ブロック含む。(敲き床)
- 12層 にふい黄褐色土 (10YR4/3)  
黄色ローム粒子・黒色土の小ブロック含む。  
(床下埋め土)



0 標高703.50m  
(1:80) 2m

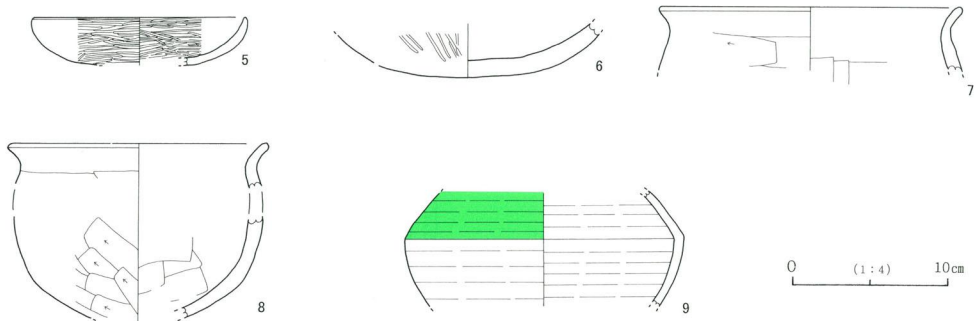


0 標高703.50m  
(1:40) 1m



0 (1:4) 10cm

第31図 H17住居址実測図および出土遺物実測図



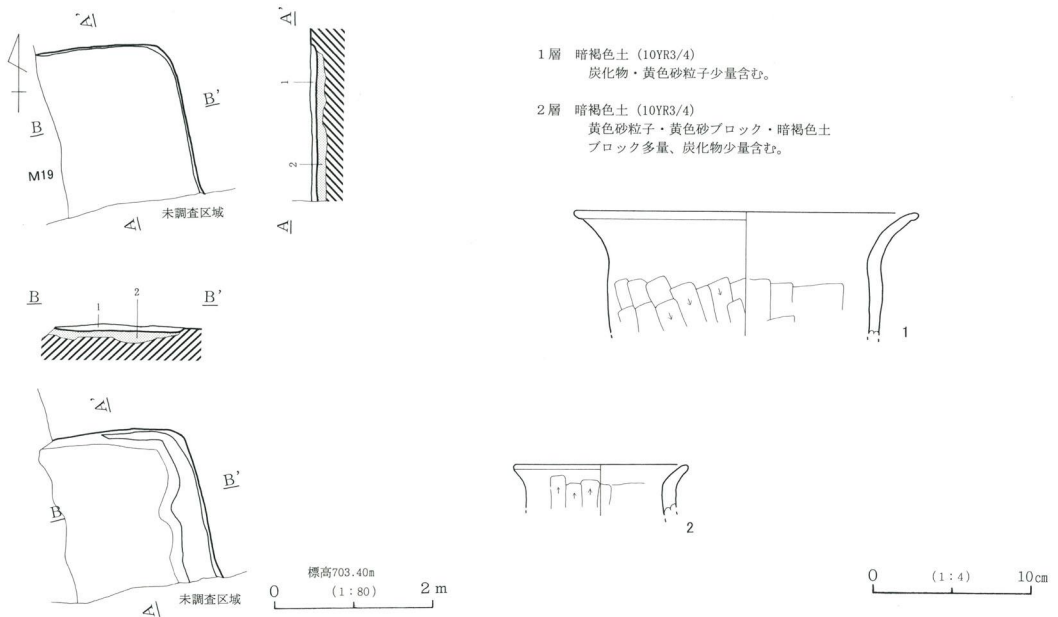
第32図 H17住居址出土遺物実測図

出土遺物には須恵器、土師器がある。9が2層上部、他はすべて覆土一括出土である。1は須恵器蓋、2～4は須恵器坏で2・3が底部回転ヘラケズリ、4は手持ちヘラケズリされる。5は土師器坏で体部外面と底部・内面がヘラミガキされる。7は土師器甕で、6は土師器壺で胴部下から底部ヘラケズリ後ヘラミガキされる。8は土師器鉢。9は混入品とみられ、灰釉陶器長頸瓶になろうか。

出土遺物は聖原遺跡奈良平安時代I期に比定される。本址は8世紀前半に位置づけられる。

### (18) H18号住居址

本址は、い・うー64Grに位置する。H13号住居址とM19号溝状遺構と重複し、いづれよりも古い。カマド・柱穴等みられないが一応住居址として扱った。検出規模は北壁検出部1.6m、東壁検出部1.9

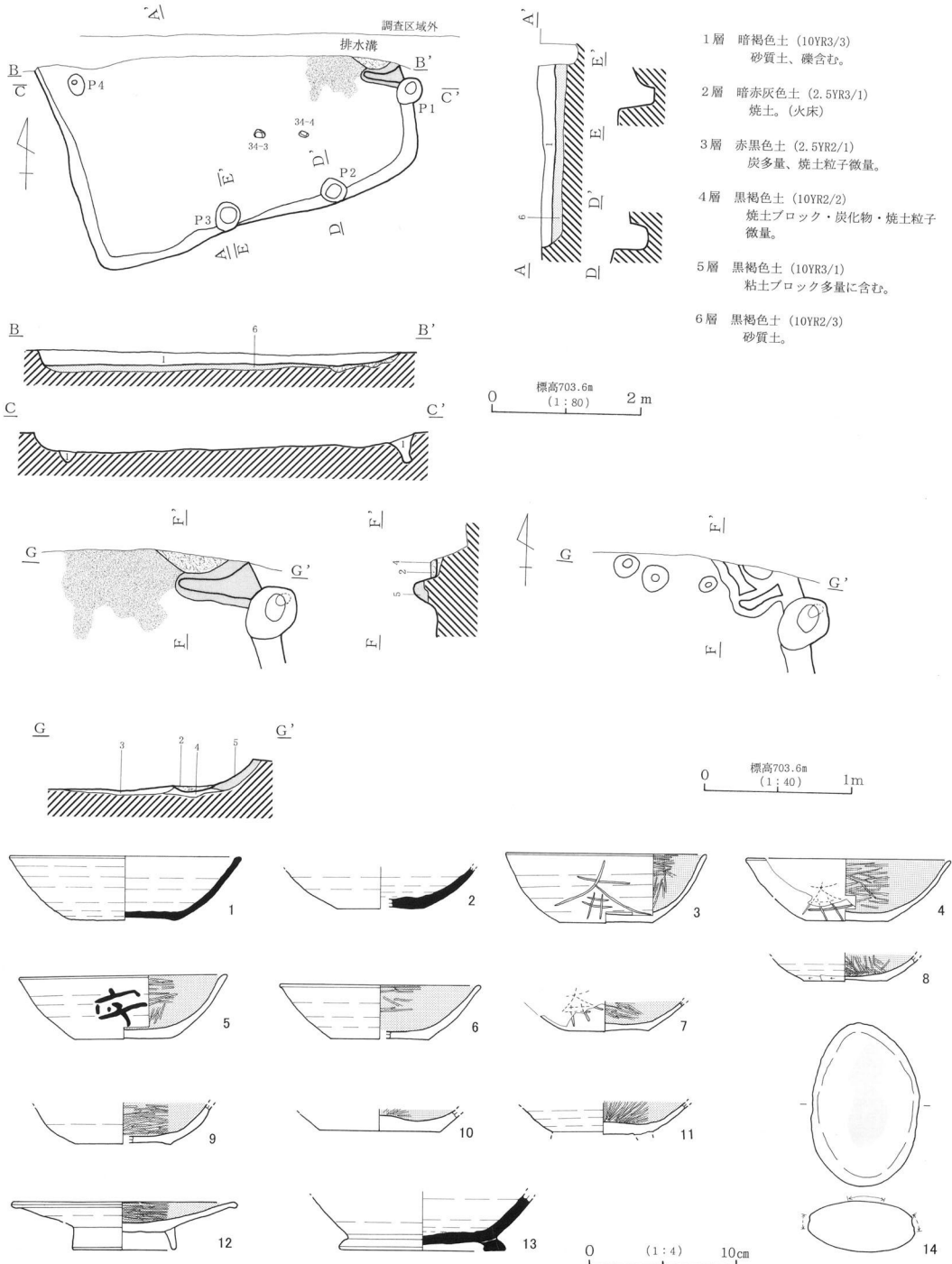


第33図 H18住居址実測図および出土遺物実測図

第17表 H18号住居址出土遺物観察表

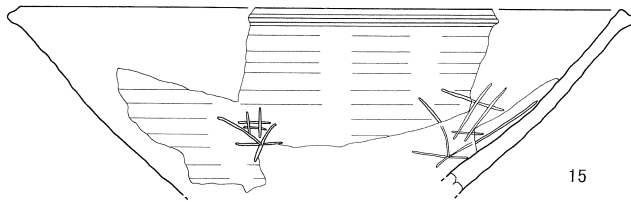
No	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	部位	外面		
1	土師器	甕	(21.6)	—	<7.8>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	南区・ホリ方
2	土師器	甕	(11.0)	—	<3.2>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	南区・ホリ方

m、最深の壁残高は北壁で7cmを測る。掘方は10cm~20cmで暗褐色土が埋められていた。  
 出土遺物少なく、1・2の土師器甕が図示できた。古墳時代後期に位置づけられよう。



第34図 H19住居址実測図および出土遺物実測図





15

0 (1:4) 10cm

第35図 H19住居址出土遺物実測図

第18表 H19号住居址出土遺物観察表

cm

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	須恵器	坏	(15.6)	(7.2)	4.3	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り(右)	回転実測	東区
2	須恵器	坏	-	(5.8)	<2.8>	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り(右)	回転実測	西区
3	土師器	坏	13.5	6.2	4.6	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切り(右)	完全実測、刻書「奔」	東区
4	土師器	坏	(13.7)	5.6	4.1	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切り(右)	完全実測、刻書「奔」	東区
5	土師器	坏	(14.0)	(6.6)	4.2	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切り	回転実測、墨書	東区
6	土師器	坏	(13.5)	(6.6)	(3.6)	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切り	回転実測	東区
7	土師器	坏	-	5.7	<2.0>	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切り(右)	完全実測、刻書「奔」	西区、東区
8	土師器	坏	-	(5.4)	<1.7>	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切り→体部下端	回転実測	西区
9	土師器	坏	-	(6.4)	<2.7>	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切り	回転実測	床
10	土師器	坏	-	(8.0)	<1.5>	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切り	回転実測	床
11	土師器	碗	-	-	<2.2>	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切り(右)、高台貼付(欠損)	完全実測	西区
12	土師器	高台付皿	(15.2)	7.0	3.2	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切り→高台貼付	完全実測	東区
13	須恵器	壺	-	(11.2)	<3.9>	ロクロナデ	ロクロナデ、高台貼付	回転実測	攪乱
15	土師器	鉢	(32.0)	-	<9.5>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測、刻書「奔」	東区
No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
14	磨石	輝石安山岩		10.9	7.3	3.4	358.20	正面にすり面	東区

(19) H19号住居址

本住居址は、A・あ-59・60Grに位置する。H11・H24と重複し、本址が新しい。形態は隅丸方形と思われる。検出規模は東壁検出部1.3m、南壁4.3m、西壁検出部2.8mで、最深の壁残高は西壁で23cmを測る。主軸方位はN-69°-Eを示す。P1~P3の壁柱穴は、上端からの深さP1が42cm、P2が46cm、P3が48cmを、西壁中央下のP4は深さ24cm測る。掘方は10cm~15cmで黒褐色の砂質土が埋められていた。カマドは東壁に設置されていた。袖部は地山を一部掘り残し構築している。

出土遺物には須恵器、土師器、石器がある。3~5・9・10・12・15が主に東区の床面、他は覆土一括出土。1・2は底部回転糸切りの須恵器坏、3~10は内面黒色処理が施される底部回転糸切りの土師器坏、8は回転糸切り後体部下端と底部外周が手持ちヘラケズリされる。11は土師器碗、12は土師器高台付坏、15は大型の土師器鉢で口径32cmを測る。13は須恵器壺。5は「守」の墨書、3・4・7・15には「奔」が刻書される。

出土遺物は聖原遺跡奈良平安時代V期に比定される。本址は9世紀前半に位置づけられる。

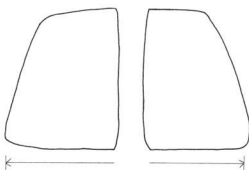
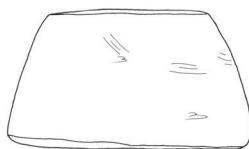
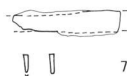
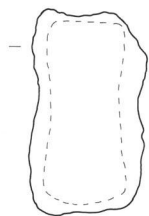
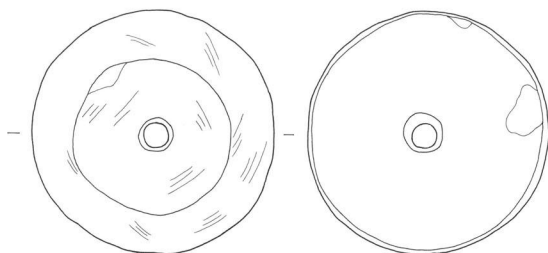
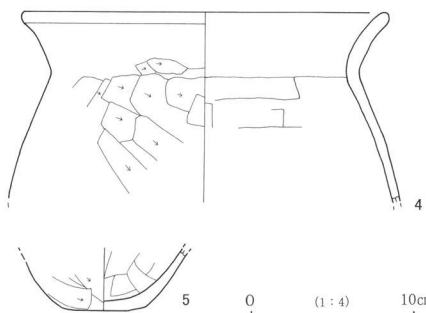
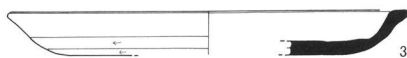
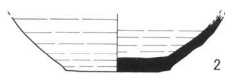
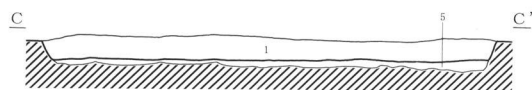
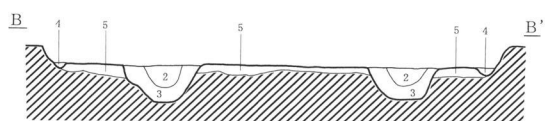
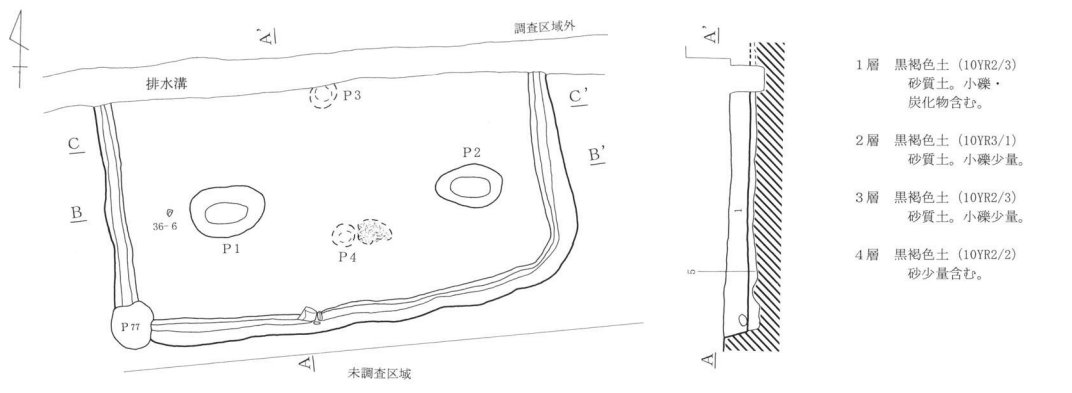
(20) H20号住居址

本住居址は、A・あ-61・62Grに位置する。P77に南西角を壊されている。北側半分が調査区域

第19表 H20号住居址出土遺物観察表

cm

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	須恵器	坏	17.4	13.6	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ、底部ヘラケズリ→高台貼付	完全実測	I区、II区
2	須恵器	坏	-	(6.4)	<3.5>	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り	回転実測、内外・火だすき痕	III区
3	須恵器	盤	(24.6)	(19.8)	<2.7>	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸ケズリ	回転実測	III区
4	土師器	甕	(22.4)	-	<11.7>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	I区
5	土師器	甕	-	5.2	<3.8>	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	II区
No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
6	鉄斧	鉄							III区
7	刀子	鉄		<4.9>	<1.0>	<0.2>			III区
8	紡錘車	土製		7.4	4.8	4.3	242.9	孔径1.2	IV区



第36図 H20住居址実測図および出土遺物実測図

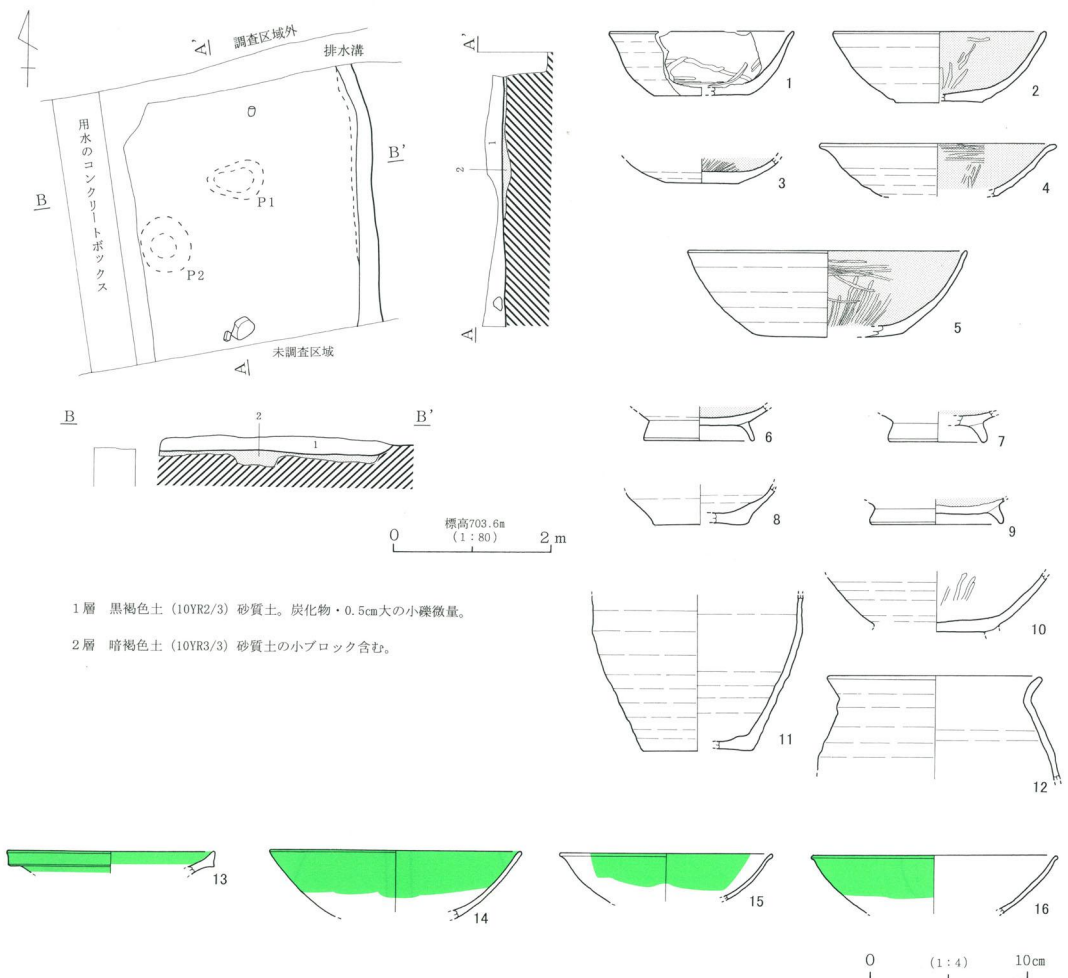
外に延びる。形態は隅丸方形と思われる。検出規模は東壁検出部2.4m、南壁5.4m、西壁検出部2.8mで、最深の壁残高は西壁で23cmを測る。南北軸を主軸とすると方位はN-8°-Wを示す。柱穴P1・P2が南壁に平行に配置され、柱間3m、深さP1が45cm、P2が42cmを測る。床下から2個ピットが検出され、深さP3が18cm、P4が31cmを測る。掘方は5cm~20cmで黒褐色の砂質土が埋められていた。周溝が全周する。P4東脇に焼土がみられた。

出土遺物には須恵器、土師器、鉄器、石器がある。1が東壁下床面・4がほぼ中央床面、6がP1西脇床面、8が南壁下床面から、他は覆土一括出土。1底部ヘラケズリ後高台貼付の須恵器坏、3須恵器の高盤になろうか。4・5は土師器甕、4は「く」の字状口縁を持つ。6は錆化が進み判然としないが袋状の鉄斧であろう。7は刀子。8は土製の紡錘車。2は底部回転糸切りの須恵器坏で混入品であろう。

出土遺物は聖原遺跡奈良平安時代Ⅱ期に比定され、本址は奈良時代に位置づけられる。

### (21) H21号住居址

本住居址は、あ・い-66・67Grに位置する。北が調査区域外、南側が未調査区に延び、西側を用水



第37図 H21住居址実測図および出土遺物実測図

第20表 H21号住居址出土遺物観察表

cm

No	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	坏	(11.6)	(6.0)	4.1	線刻文	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測	フク土
2	土師器	坏	(13.4)	(6.4)	4.5	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	フク土
3	土師器	坏	-	(4.6)	<1.6>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	フク土
4	土師器	坏	(14.9)	-	<3.3>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	フク土
5	土師器	坏	(17.5)	(9.6)	5.5	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測	フク土
6	土師器	坏	-	6.9	<2.2>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り(左)→高台貼付	完全実測	I区
7	土師器	坏	-	(6.0)	<1.9>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部高台貼付	回転実測	南側
8	土師器	甕	-	(6.0)	<2.5>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	南側
9	土師器	坏	-	8.4	<1.6>	ミガキ→黒色処理	底部回転糸切り(左)→高台貼付	完全実測	I区
10	土師器	坏	-	(6.0)	<3.4>	ミガキ	ロクロナデ	回転実測	フク土
11	土師器	甕	-	(6.9)	<9.8>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	フク土
12	土師器	甕	13.5	-	<6.5>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	フク土
13	灰釉陶器	長頸瓶	(13.2)	-	<1.4>	施釉	施釉	回転実測	フク土
14	灰釉陶器	坏	(15.9)	-	<4.3>	施釉	施釉	回転実測	フク土
15	灰釉陶器	坏	(13.4)	-	<3.0>	施釉	施釉	回転実測	フク土
16	灰釉陶器	坏	(15.6)	-	<3.7>	施釉	施釉	回転実測	II区

に破壊される。東壁検出部3.3mで、最深の壁残高は23cmを測る。カマド柱穴等確認できなかった。床下から2個ピットが検出された。掘方は床全体におよばない。床はやや起伏があり軟弱であった。出土遺物には土師器、灰釉陶器がある。1～5は土師器坏、2～5は内面黒色処理、1には文様にもとれるヘラによる沈線がある。1～3・5は底部回転糸切り。6・7・9は内面黒色処理される高台付坏または碗、10は碗。8・11・12は小型の土師器ロクロ甕。13は灰釉陶器瓶、14～16は灰釉陶器碗。東濃系であろう。出土遺物は聖原遺跡奈良平安時代Ⅶ期に比定され、本址は平安時代10世紀前半に位置づけられる。

(22) H22号住居址

本住居址は、A・あ-54・55Grに位置する。H26号・H8号住居址より古い。北側の大半が調査区域外に延び、H26号住居址に東側を破壊される。検出規模は東壁検出部0.4mで、南壁4.8m西壁検出部3m最深の壁残高は西壁で19cmを測る。検出範囲にはカマド柱穴等確認できなかった。4個ピットが検出され、P1の柱痕は楕円形で、長径32cm短径16cm東西に長い楕円形、材は割材か。間仕切りに関わるかと思われる溝がP1の西にある。掘方は壁際が深い、全体層序の粘質強い黒褐色土層中に止まる。床はしっかりした敲床で平坦である。出土遺物には須恵器、土師器がある。2は検出面、3は床面、他は床より5cmほどから出土した。1は体部下端ヘラケズリされる須恵器坏、2は底部ヘラ調整後高台が貼付される須恵器高台付坏、3～6は土師器坏、4～6は内面黒色処理、9は土師器甕であろうか。4は混入品。出土遺物は聖原遺跡奈良平安時代I期に比定され、本址は奈良時代前半に位置づけられる。

(23) H23号住居址

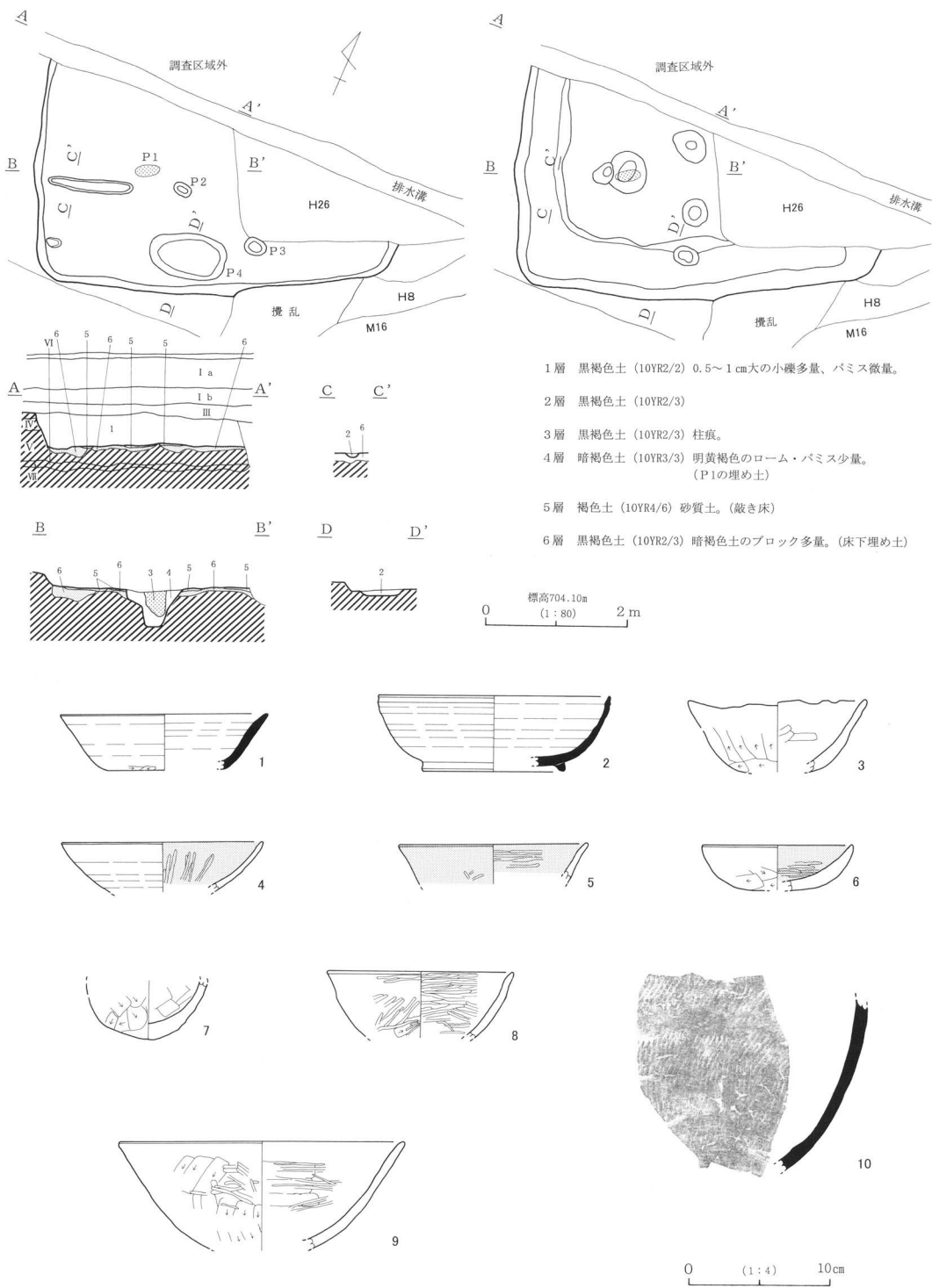
本住居址は、あ-64・65Grに位置する。M19号溝状遺構に西側大半を壊されている。検出規模は東壁検出部3.4m、西壁検出部3m、南壁は5mを測りそうである。北東・南東コーナーが窺え、東西に長い隅丸長方形となるであろう。主軸方位はN-14°-Wを示す。最深の壁残高は東壁で56cmを測る。

P1～P4は台形に配置され、いずれも柱痕が未確認であるが柱穴となろうか。P1が22cm P2が19cm P3が33cm P4が9cmの深さ、P5は深さ47cm。掘方は10～25cmでにぶい黄褐色の砂質土が埋められていた。

第21表 H22号住居址出土遺物観察表

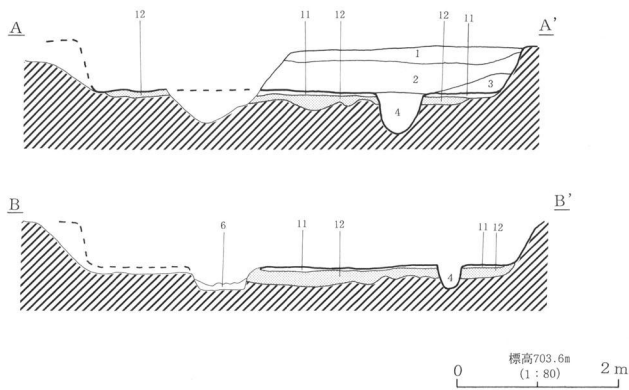
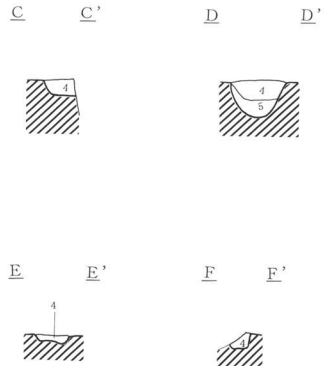
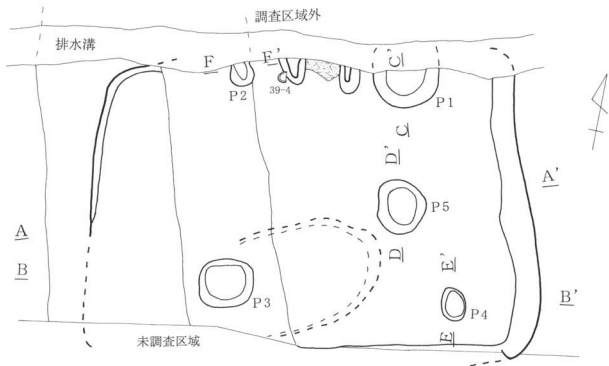
cm

No	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	須恵器	坏	(14.4)	(7.8)	<3.9>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	東区ホリ方
2	須恵器	高台付坏	(16.4)	(10.1)	5.3	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付	回転実測	検出面
3	土師器	坏	(12.7)	-	<5.0>	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	西区床
4	土師器	坏	(14.1)	-	<3.5>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	北側
5	土師器	坏	(13.3)	-	<2.8>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→黒色処理	回転実測	南側・ホリ方
6	土師器	坏	(10.7)	(5.7)	<3.2>	ミガキ→黒色処理	ナデ→底部ヘラケズリ→ミガキ、体部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ	回転実測	西区
7	土師器	鉢	-	3.7	<4.1>	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	西区
8	土師器	坏	(13.1)	-	<4.6>	ミガキ	ヘラミガキ	回転実測	西区
9	土師器	鉢	(19.9)	-	<7.6>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	西区

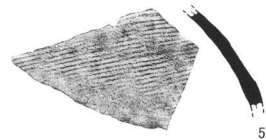
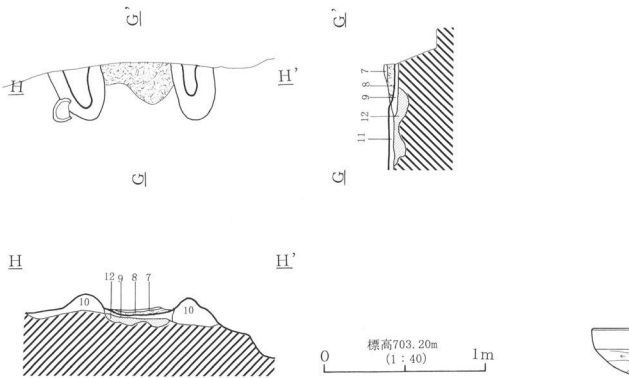


第38図 H22住居址実測図および出土遺物実測図

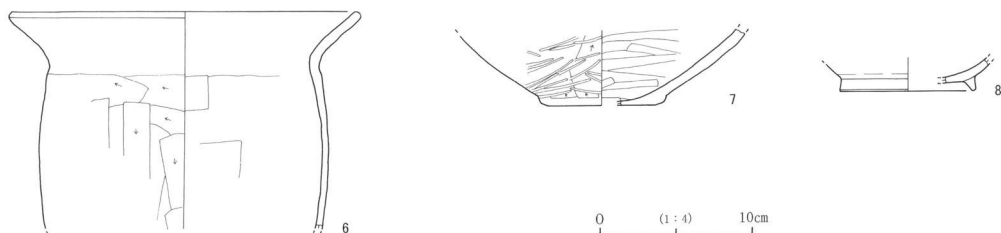




- 1層 黒褐色土 (10YR2/3)  
砂質土。小礫含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR3/2)  
砂質で炭化物含む。
- 3層 暗褐色土 (10YR3/3)  
砂質土。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/2)  
砂質土。炭化物微量。
- 5層 黒色土 (10YR2/1)  
砂質土。黄色粒子少量含む。
- 6層 黒褐色土 (10YR2/2)  
黄色ローム・黒色土ブロック含む。
- 7層 黒色土 (10YR2/1)  
炭多量、焼土微量。
- 8層 暗赤褐色土 (5 YR3/4)  
焼土。(火床)
- 9層 暗褐色土 (7.5YR3/3)  
砂質土。炭化物・焼土粒子微量。
- 10層 暗褐色土 (10YR3/4)  
砂質土。粘土ブロック多量。
- 11層 暗褐色土 (10YR4/3)  
砂質土。炭化物微量。
- 12層 にぶい黄褐色土 (10YR5/4)  
砂質土。黒色土ブロック含む。



第39図 H23住居址実測図および出土遺物実測図



第40図 H23住居址出土遺物実測図

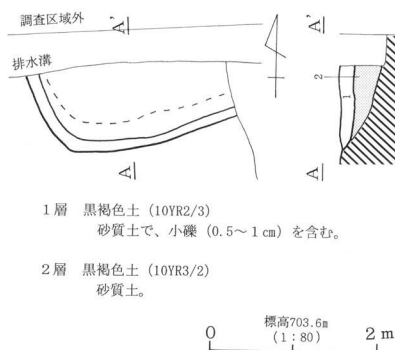
第22表 H23号住居址出土遺物観察表

cm

No	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	坏	(11.4)	(11.0)	3.4	ナデ	口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ	回転実測	カマド
2	土師器	坏	-	-	<3.0>	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	カマド
3	土師器	甕	-	(4.8)	<6.9>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	北側
4	土師器	坏	(12.2)	-	4.8	ミガキ→黒色処理	口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ	完全実測	Ⅱ区
5	須恵器	甕	-	-	-	当具痕	タタキ	断面実測	検出面
6	土師器	甕	(23.0)	-	<14.2>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	カマド
7	土師器	壺	-	(8.0)	<4.9>	ヘラナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	ホリ方
8	灰釉陶器	碗	-	(9.0)	<2.1>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	確認面

床は層厚5cm前後の敲き床で、平坦である。カマドは北壁に設置されていた。

出土遺物には須恵器、土師器がある。5・8は検出面、1・2・6はカマド、4はカマド脇床面、7は掘方、3は覆土から出土した。1・2・4は土師器坏で2・4は内面黒色処理される。3・6は外面ヘラケズリされる土師器甕、6は「く」の字状口縁を持つ。7は土師器壺。8は検出面出土で混入品であろう。出土遺物は聖原遺跡古墳時代Ⅳ期に比定される。本址は古墳時代7世紀に位置づけられる。



第41図 H24住居址実測図

#### (24) H24号住居址

本址はA-60・61Grに位置する。H19号住居址よりも古い。カマド・柱穴等みられないが一応住居址として扱った。検出規模は南壁検出部2m、西壁検出部1m、最深の壁残高は西壁で15cmを測る。掘方は20cmで黒褐色の砂質土が埋められていた。出土遺物なく、H19号住居址よりも古いとしかいえない。

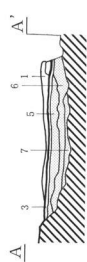
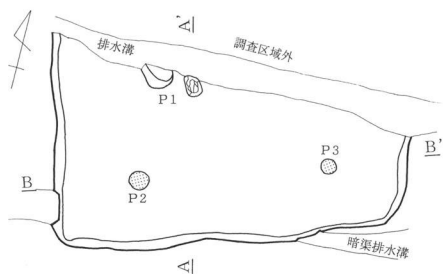
#### (25) H25号住居址

本住居址は、A-52・53Grに位置する。H7号住居址より新しい。検出規模は東壁検出部1m、南壁4.2m、西壁検出部2.5mを測る。南北の軸方位はN-10°-Wを示す。最深の壁残高は西壁で17cmを測る。主柱穴P1・P2の柱痕は径25cm、柱間2.4mを測る。掘方は20~30cmで黒色土・黒褐色土が埋められ、2~6cmの敲き床がみられた。西壁下のぞき周溝が回る。出土遺物には須恵器、土師器がある。1は須恵器蓋、2・3・5・6・9は底部回転糸切りされる須恵器坏、4は検出面出土で混入品、底部ヘラケズリされる。10~13は土師器武蔵甕で11・12は「コ」の字状口縁を持つ。

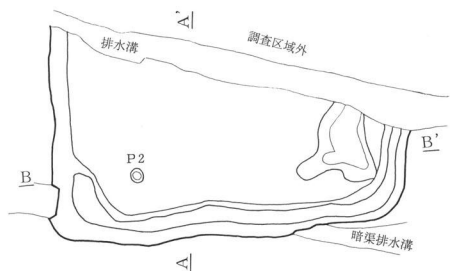
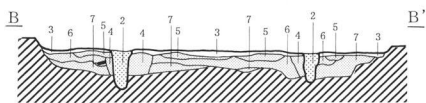
出土遺物は聖原遺跡古墳時代Ⅴ期に比定され、本址は平安時代9世紀前半に位置づけられる。

#### (26) H26号住居址

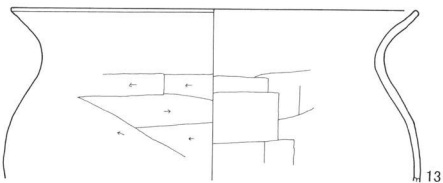
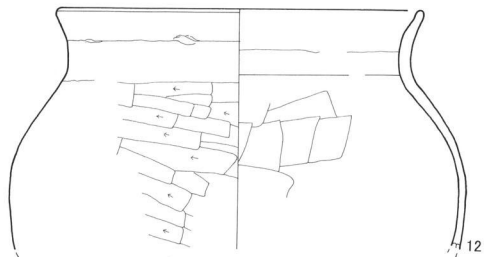
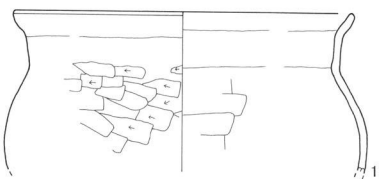
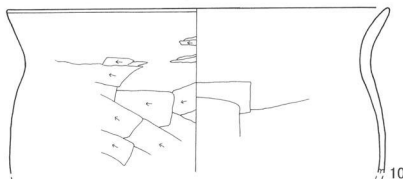
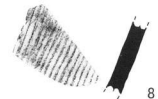
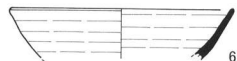
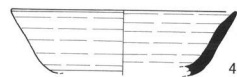
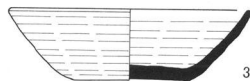
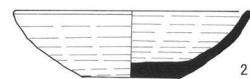
本住居址は、A-53・54Grに位置する。大半が調査区域外に延びる。検出規模は、南壁検出部3.2



- 1層 黒色土 (10YR2/1) パミス・小礫微量含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/3) 柱痕。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2) 固い。暗褐色土を帯状に含む。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/2) 黄褐色土の小ブロック多量に含む。(ピット埋め土)
- 5層 黒色土 (10YR2/1) パミス・炭・黒褐色土の小ブロック少量。(床下埋め土)
- 6層 黒褐色土 (10YR2/2) パミス・炭少量。(床下埋め土)
- 7層 黒褐色土 (10YR3/1) 黄褐色土の小ブロック多量。(床下埋め土)



標高703.6m  
(1:80) 2m



0 (1:4) 10cm

第42図 H25住居址実測図および出土遺物実測図

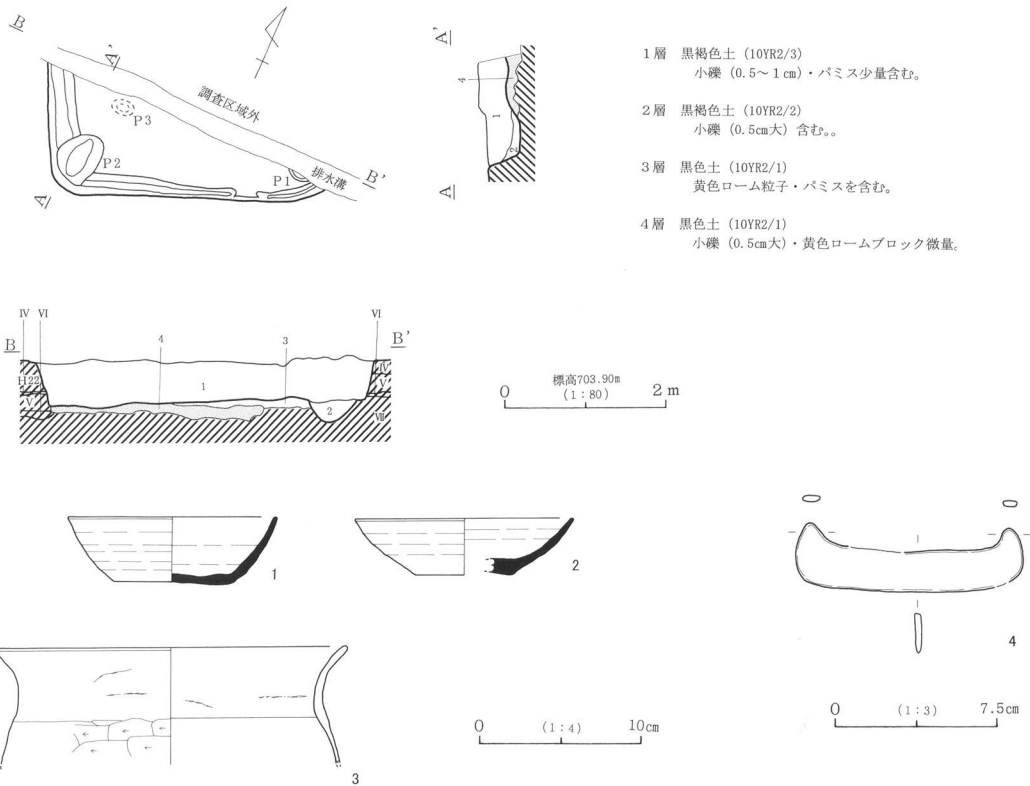
第23表 H 25号住居址出土物観察表

cm

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	須恵器	蓋	(16.0)	—	(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ、天井部ヘラケズリ	回転実測、外・火だすき痕	東区・ホリ方
2	須恵器	坏	14.8	6.0	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り	完全実測	西区・東区・ホリ方
3	須恵器	坏	(15.0)	(7.0)	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り	回転実測	東区
4	須恵器	坏	(14.0)	—	(3.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	検出面
5	須恵器	坏	—	(7.6)	(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ、底部・体部下端・ヘラケズリ	回転実測	南区
6	須恵器	坏	(13.8)	—	(3.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	ペルト・東
7	須恵器	壺	—	—	—	ナデ	タタキ	断面実測	南区
8	須恵器	壺	—	—	—	ナデ	タタキ	断面実測	南区
9	須恵器	坏	13.8	7.4	3.6	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り(右)	完全実測、完形	東区・ホリ方
10	須恵器	甕	—	—	—	当具痕	タタキ	断面実測	検出面
11	土師器	甕	—	—	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測、	カマド
12	土師器	壺	—	—	—	ヘラナデ	ヘラケズリーヘラミガキ	回転実測	ホリ方
13	灰釉陶器	碗	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	攪乱

m、西壁検出部1.5mを測る。南北の軸方位はN-20°-Wを示す。最深の壁残高は西壁で30cmを測る。ピットが3個検出されたが、柱穴ははっきりしない。掘方は10~20cmで黒色土が埋められ、2~8cmの敲き床が南東コーナー付近にみられた。南壁下一部をのぞき周溝が回る。

出土遺物には須恵器、土師器、鉄器がある。1・4が掘方、2が床面3がP1から出土した。1・2は底部回転糸切りの須恵器坏、4は土師器武蔵甕で、「コ」の字状口縁を持つ。4は苧引金具。出土遺物は聖原遺跡古墳時代V期に比定され、本址は平安時代9世紀前半に位置づけられる。



第43図 H 26住居址実測図および出土遺物実測図

第24表 H26号住居址出土遺物観察表

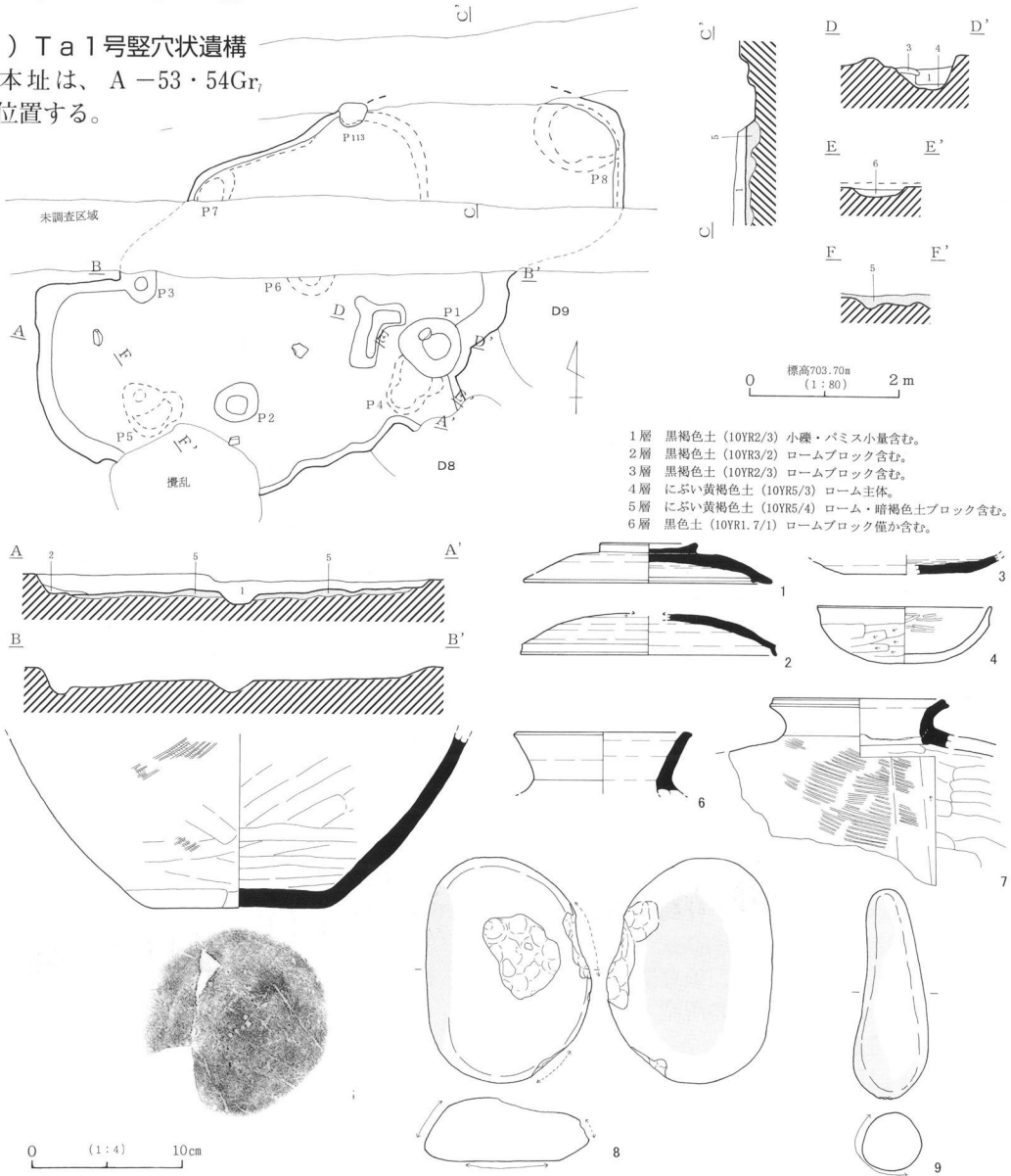
cm

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様				備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面		外面			
1	須恵器	坏	12.8	7.0	4.0	口クロナデ→火襷		口クロナデ→底部回転糸切り(右)→火襷		完全実測	東区
2	須恵器	坏	(13.4)	(5.8)	3.5	口クロナデ		口クロナデ→底部回転糸切り→火襷		回転実測	床
3	土師器	甕	(21.7)	—	<7.3>	ナデ		ヘラケズリ→口縁部横ナデ		回転実測	P1
No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見			出土位置
4	麻引金具	鉄		10.5	3.15	0.40					東区

## 第2節 竪穴状遺構

### (1) T a 1号竪穴状遺構

本址は、A-53・54Gr<sub>7</sub>に位置する。



第44図 T a 1号竪穴状遺構実測図および出土遺物実測図

第25表 T a 1号竪穴状遺構出土遺物観察表

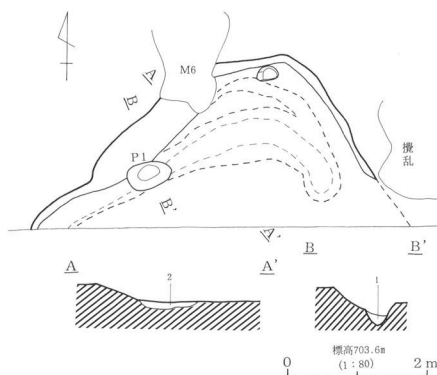
cm

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様				備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面		外面			
1	須恵器	蓋	(16.5)	—	2.6	ロクロナデ		ロクロナデ		完全実測、自然釉付着	北東コーナー付近
2	須恵器	蓋	(17.0)	—	<2.7>	ロクロナデ		天井部回転ヘラケズリ		回転実測	フク土
3	須恵器	坏	—	(8.2)	<1.2>	ロクロナデ		ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ		回転実測	フク土
4	土師器	坏	(11.6)	(11.2)	3.8	ヘラミガキ		口縁横ナデ、体部ヘラケズリ		回転実測	フク土
5	須恵器	甕	—	(12.0)	<11.5>	ヘラナデ		タタキ→ヘラナデ		回転実測	北東コーナー付近
6	須恵器	壺	(11.8)	—	<4.1>	ロクロナデ		ロクロナデ		回転実測	フク土
7	須恵器	横瓶	11.2	—	<12.5>	当具痕→ロクロナデ		タタキ、ロクロナデ		完全実測	検出面
No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置	
8	磨・敲石	輝石安山岩		14.95	11.0	4.2	1159.80	左側面・裏面にすり面、右側面に敲打痕		I区	
9	磨・敲石	輝石安山岩		13.8	5.0	3.7	369.1	正面・裏面にすり面、下端部に敲打痕		フク土	

概ね長方形だが北東と南西に方形の張り出し部を付けたような形態のため複数の重複も考えられるが、調査時点では、単独の遺構としてとらえた。底面は少し西側が低いがほぼ平坦である。5～15cmの掘方でにぶい黄褐色土が埋められていた。D 8・D 9より古い。P 113は本址にともなうものかもしれない。P 2・P 3と共に上屋を支える柱穴の可能性もある。P 1は径70cm深さ40cmを測り、西側に底面より高さ15cmのL字状のマウンドがある。P 1が貯蔵穴なら蓋に関するものといえようか。

出土遺物には須恵器、土師器がある。1・2が須恵器蓋、1は皿状のつまみが貼付されかえりを有す。3は底部回転ヘラケズリされる須恵器坏、7は須恵器横瓶。

出土遺物は聖原遺跡古墳時代I期に比定され、本址は奈良時代前半に位置づけられる。



1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒子含む。  
2層 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック・バミス含む。

## (2) T a 2号竪穴状遺構

第45図 T a 2号竪穴状遺構実測図

本址は、あ・い-42・43Grに位置する。M 6に北側

一部東・南側は攪乱の影響を受けていた。北辺と東辺の形状に沿うように、テラスを持つ溝状の掘方がみられた。P 1は深さ35cmで柱穴であろうか。出土遺物なく所産時期等不明である。

## 第3節 掘立柱建物址

### (1) F 1号掘立柱建物址

本址は、あ・い-13・14Grに位置する。H 6号住居址を切って構築されている。南北-1間、東西-1間の側柱式の形態である。柱間は南北3m、東西3.6mである。南北の軸方位はN-15°-Wを示す。ピットは円形で、径は40～60cm、深さP 1が17cm、P 2が30cm、P 3が37cm、P 4が32cmを測る。

出土遺物は、弥生後期壺片、須恵器甕・高台付坏片、土師器甕片の小片であった。時期は不明であるが、弥生時代後期後半以降の所産ではある。

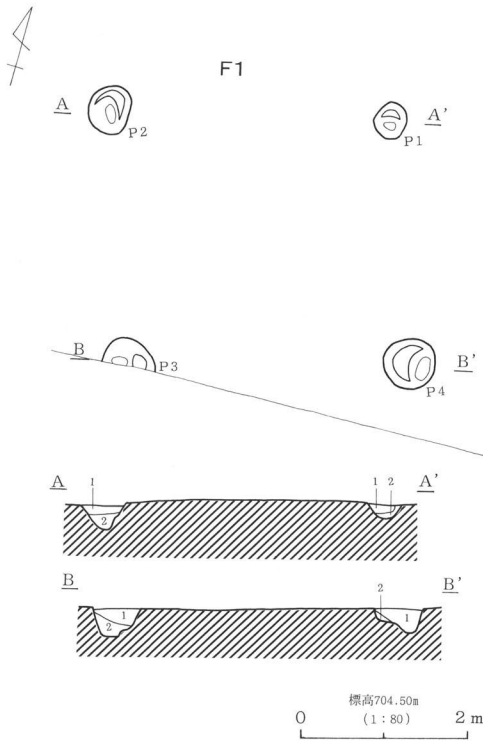
### (2) F 2号掘立柱建物址

本址は、い-15・16Grに位置する。H 1号住居址を切って構築されている。2基のピットが検出された。調査区の南に延びる。P 1は8の字形で深さ40cm、P 2は楕円形で長径90cm短径60cm深さ36cmを測る。弥生後期壺片、土師器甕片が出土した。時期は不明。

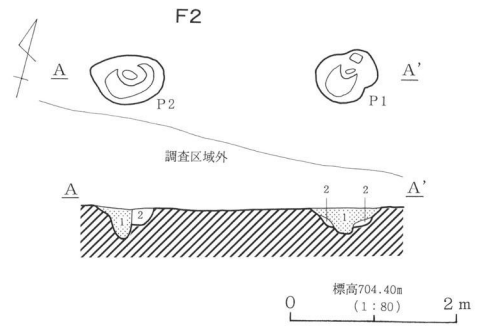
### (3) F 3号掘立柱建物址

本址は、あ-16Grに位置する。F 4号掘立柱建物址に切られている。P 7より新しい。2基のピットが検

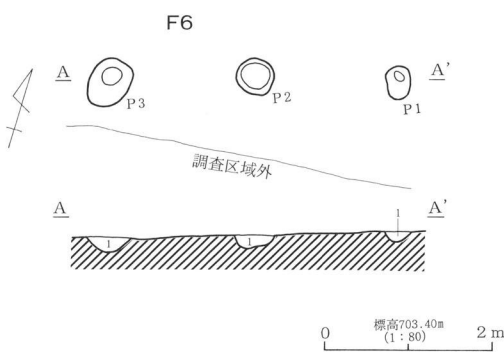




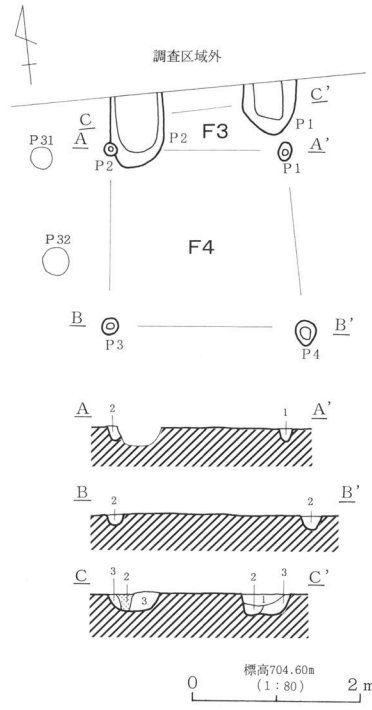
- F1**
- 1層 黒褐色土 (10YR3/2)  
ローム粒子・パミス含む。
  - 2層 黒褐色土 (10YR3/2)  
明黄褐色ロームブロック・パミス含む。



- F2**
- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)  
柱痕。
  - 2層 黒褐色土 (10YR2/3)  
ロームブロック・パミス含む。

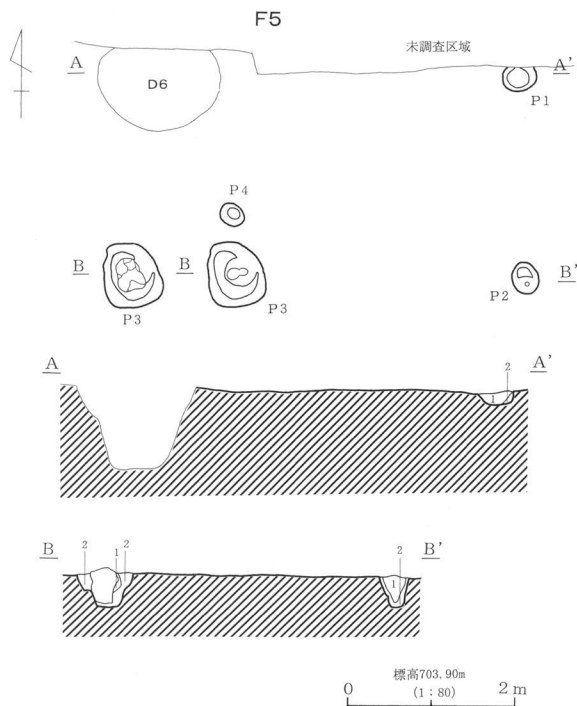


- F6**
- 1層 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・小礫 (0.5~1cm大)  
少量含む。



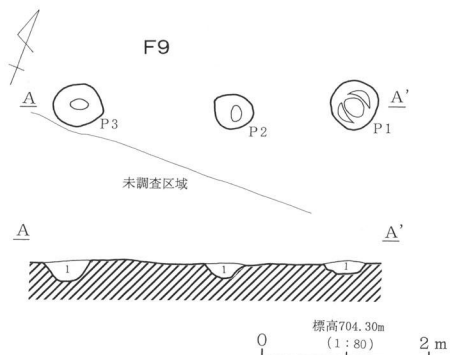
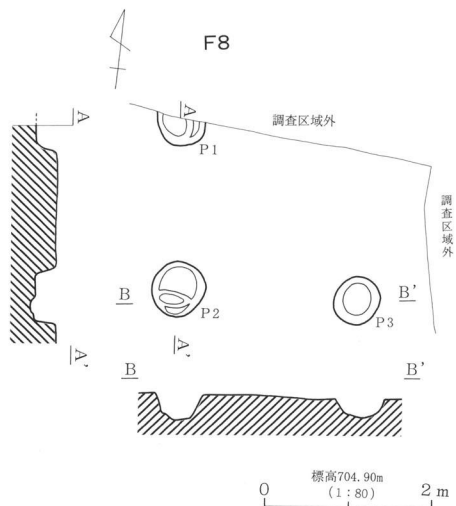
- F3**
- 1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子・パミス含む。
  - 2層 黒褐色土 (10YR2/2) 柱痕。
  - 3層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒子・パミス多量に含む。
- F4**
- 1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子・パミス含む。
  - 2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒子・パミス・炭の粒子を含む。

第46図 F1・F2・F3・F4・F6号掘立柱建物址実測図



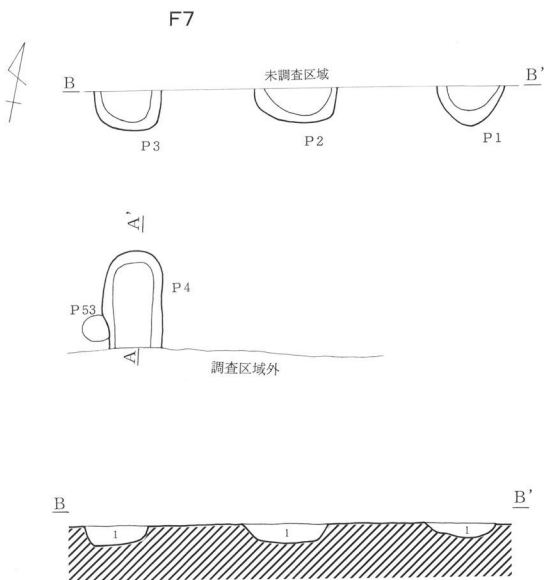
F5

- 1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子・パミス含む。  
2層 黒褐色土 (10YR2/2) ロームブロック僅かに含む。



F9

- 1層 黒褐色土 (10YR2/3)  
砂質土。砂多量に含む。



F7

- 1層 黒色土 (10YR2/1)  
砂質土。パミス多量に含む。  
2層 黒褐色土 (10YR2/3)  
黄色ロームブロックを含む。

第47図 F5・F7・F8・F9号掘立柱建物址実測図

出された。調査区の北に延びる。P1は深さ23cm、P2は深さ39cmを測る。出土遺物なく所産時期等不明である。

#### (4) F4号掘立柱建物址

本址は、あ・い-16・17Grに位置する。F3号掘立柱建物址を切って構築されている。南北-1間、東西-1間の側柱式形態である。柱間は南北2.1m、東西2.1・2.3mである。南北の軸方位はN-5°-Wを示す。ピットはほぼ円形で、P1が長径20cm短径16cm深さ16cm、P2が径16cm深さ17cm、P3が径18cm深さ11cm、P4が径26cm深さ17cmを測る。出土遺物なく所産時期等不明である。

#### (5) F5号掘立柱建物址

本址は、あ・い-34・35Grに位置する。D10号土坑の一部を切って構築されている。北に延びるとみられる。未調査区の北側から検出されたP107は、本址のピットかともみれる。柱間は南北2.4m、東西3.4mである。南北の軸方位はN-5°-Wを示す。ピットはほぼ円形で、P1が長径40cm短径32cm深さ19cm、P2が長径36cm短径32cm深さ31cm、P3が長径76cm短径60cm深さ41cm、P4が長径30cm短径26cm深さ22cmを測る。P3の礎石は、底面に達する大きな礫である。出土遺物なく所産時期等不明である。

#### (6) F6号掘立柱建物址

本址は、い-60Grに位置する。3基のピットが検出されたが、調査区の南に延びるとみられ全容は不明。柱間は東西1.7m、P1は楕円形で長径40cm短径30cm深さ12cm、P2は円形で径40cm深さ16cm、P3は楕円形で長径60cm短径48cm深さ23cmを測る。土師器甕小片が出土した。時期は不明。

#### (7) F7号掘立柱建物址

本址は、い-60Grに位置する。4基のピットが検出されたが、調査区の南に延びるとみられ全容は不明。H15号住居址より新しく、P53より古い。柱間は東西2m南北2.4mを測る。ピットの形態は、P4のように隅が角張る楕円形になろうか。深さはP1が16cm、P2が23cm、P3が22cmを測る。土師器甕小片が出土した。時期は奈良時代以降。

#### (8) F8号掘立柱建物址

本址は、A-16・17Grに位置する。3基のピットが検出されたが、調査区の北と東に延びるとみられ全容は不明。柱間は東西2m南北2mを測る。ピットはほぼ円形で径60cm前後、深さはP1が35cm P2が30cm P3が19cmを測る。出土遺物ない。時期不明。

#### (9) F9号掘立柱建物址

本址は、A-31Grに位置する。3基のピットが検出されたが掘立柱建物址とするのが妥当か曖昧である。柱間は、東西1.8m・1.4mを測る。ピットはほぼ円形で径40cm~60cm、深さはP1が26cm P2が18cm P3が14cmを測る。出土遺物ない。時期不明。

## 第4節 土坑

#### (1) D3号土坑

本址はい-9Grに位置する。形態は円形であろう。規模は径2.04m深さ1.7mを測る。断面の形状や堆積状況等D4号土坑に似る。木柵は見られなかったが、井戸と思われる。出土遺物無く時期不明。

#### (2) D4号土坑

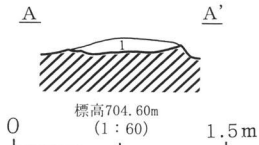
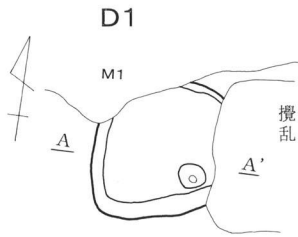
本址はい-12Grに位置する。形態は方形で、規模は上端2.46m・底面1m深さ2.3mを測る。底面近くには幅12cm厚さ1.5cmの板・幅4cmの角材が出土した。井戸の木柵であろう。出土遺物は弥生時代後期土器片、土師器片、須恵器片のいずれも小片13点があったのみである。時期の決定には困難である。

#### (3) D14号土坑

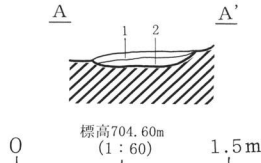
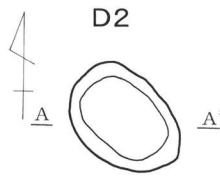
本址は、い-56Grに位置する。形態は方形で、検出された1辺は1.3m深さ2~10cmを測る。図示した「武蔵甕」が底面下10cmほどに据え置かれていた。

#### (4) D27号土坑

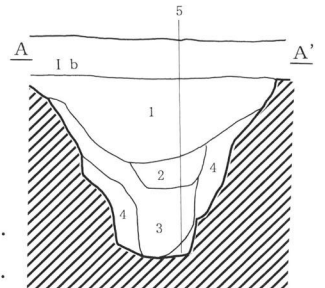
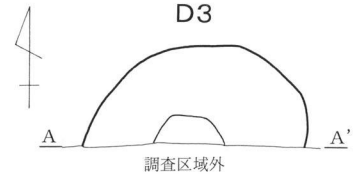
本址は、い・う-68Grに位置する。形態は楕円形であろう。規模は検出部長軸1.2m・短軸0.7m、深さ16cmを測る。52-27・28の弥生時代後期壺が出土した。壺棺墓であろうか。



D1 1層 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物粒子・焼土多量に含む。

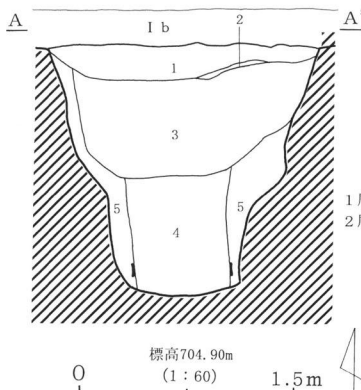
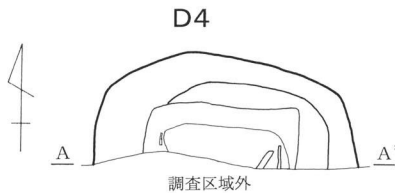


D2 1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子・パミス少量含む。  
2層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子・パミス多量に含む。

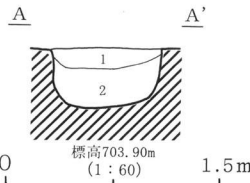
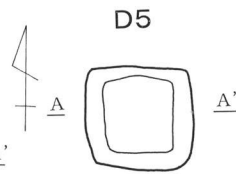


D3 1層 黒褐色土 (10YR3/2) 焼土粒子・1cm大パミス・炭化物

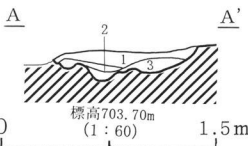
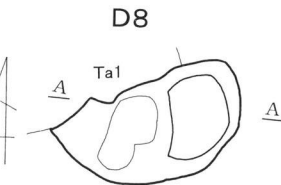
2層 黒褐色土 (10YR2/3) 黒色土ブロックを多量に含む。  
3層 黒褐色土 (10YR2/3) 2層より黒色土ブロックを多く含む。  
4層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子・パミスを多く含む。  
5層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒子・パミスを多量に含む。



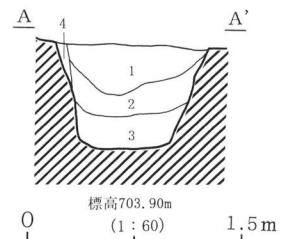
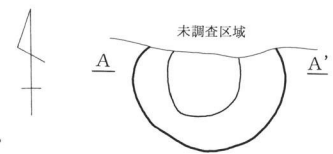
D4 1層 黒褐色土 (10YR3/2) パミス1cm大・炭化物・焼土粒子を含む。  
2層 褐灰色土 (10YR6/1) 灰が主。  
3層 黒褐色土 (10YR2/3) パミス多量に含む。ロームブロック炭化物を含む。  
4層 黒色土 (10YR1.7/1) ローム粒子を含み、パミスを多量に含む。しまりない。  
5層 黒褐色土 (10YR2/3) パミス・ロームブロック多量に含む。



D5 1層 黒褐色土 (10YR2/3) 小礫・パミスを含む。  
2層 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物粒子を多量、パミス・ローム粒子含む。粘性あり。

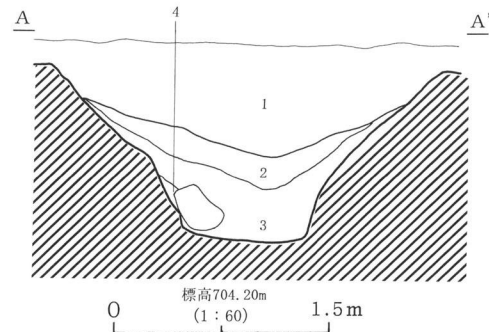
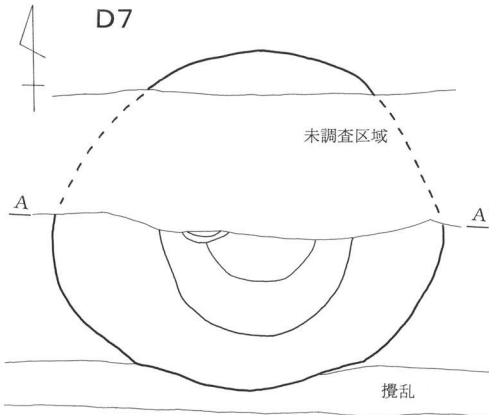


D8 1層 黒褐色土 (10YR2/3) ややシルト質。  
2層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子・パミス含む。  
3層 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック多量に含む。



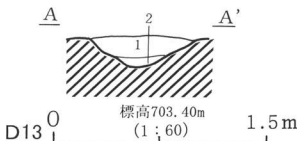
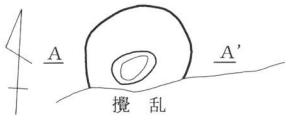
D6 1層 黒褐色土 (10YR2/3) ロームブロック僅か、パミス含む。  
2層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物層あり、焼土粒子含む。  
3層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子・パミス含む。  
4層 黒褐色土 (10YR2/2) 全体層序第V層の黒色土ブロック含む。

第48図 土坑実測図 (D1・D2・D3・D4・D5・D6・D8)

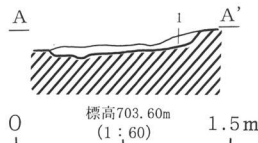
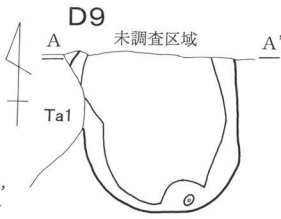


- D7**
- 1層 黒褐色土 (10YR2/3) パミス1cm大を含む。
  - 2層 黒褐色土 (10YR2/3) 1層より黒み強く、下面に炭化物・灰層あり。パミス・ロームブロックを含む。
  - 3層 黒褐色土 (10YR2/2) とにぶい黄褐色土 (10YR5/4) の互層。黒褐色土中に炭化物・焼土を含む。
  - 4層 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物・焼土を含む。

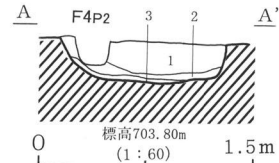
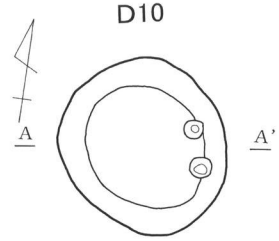
**D13**



- D13**
- 1層 黒褐色土 (10YR2/2) 砂質土。0.5~3cm大の小礫含む。
  - 2層 黒褐色土 (10YR2/3) 砂質土。

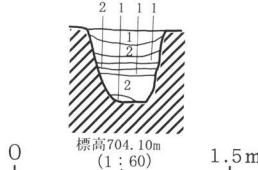
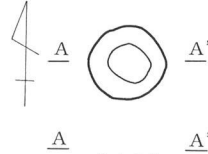


- D9**
- 1層 黒褐色土 (10YR2/3) ロームブロックを含み、しまりある。



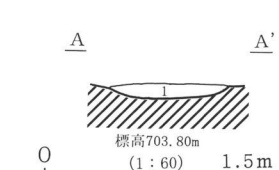
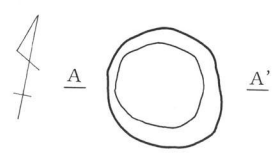
- D10**
- 1層 黒褐色土 (10YR2/2) ロームブロックを僅かにパミス・ローム粒子を含む。下面に炭化物含む。
  - 2層 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック多量含む。
  - 3層 黒色土 (10YR1.7/1) ローム粒子僅かに含む。

**D11**



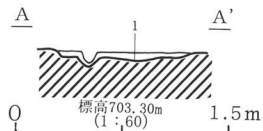
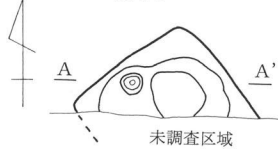
- D11**
- 1層 黒褐色土 (10YR2/2) とにぶい黄褐色土 (10YR5/4) の混在層。
  - 2層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子・黒色土の細ブロックを含む。

**D12**



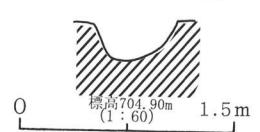
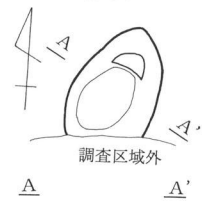
- D12**
- 1層 黒色土 (10YR1.7/1) パミス含む。

**D14**

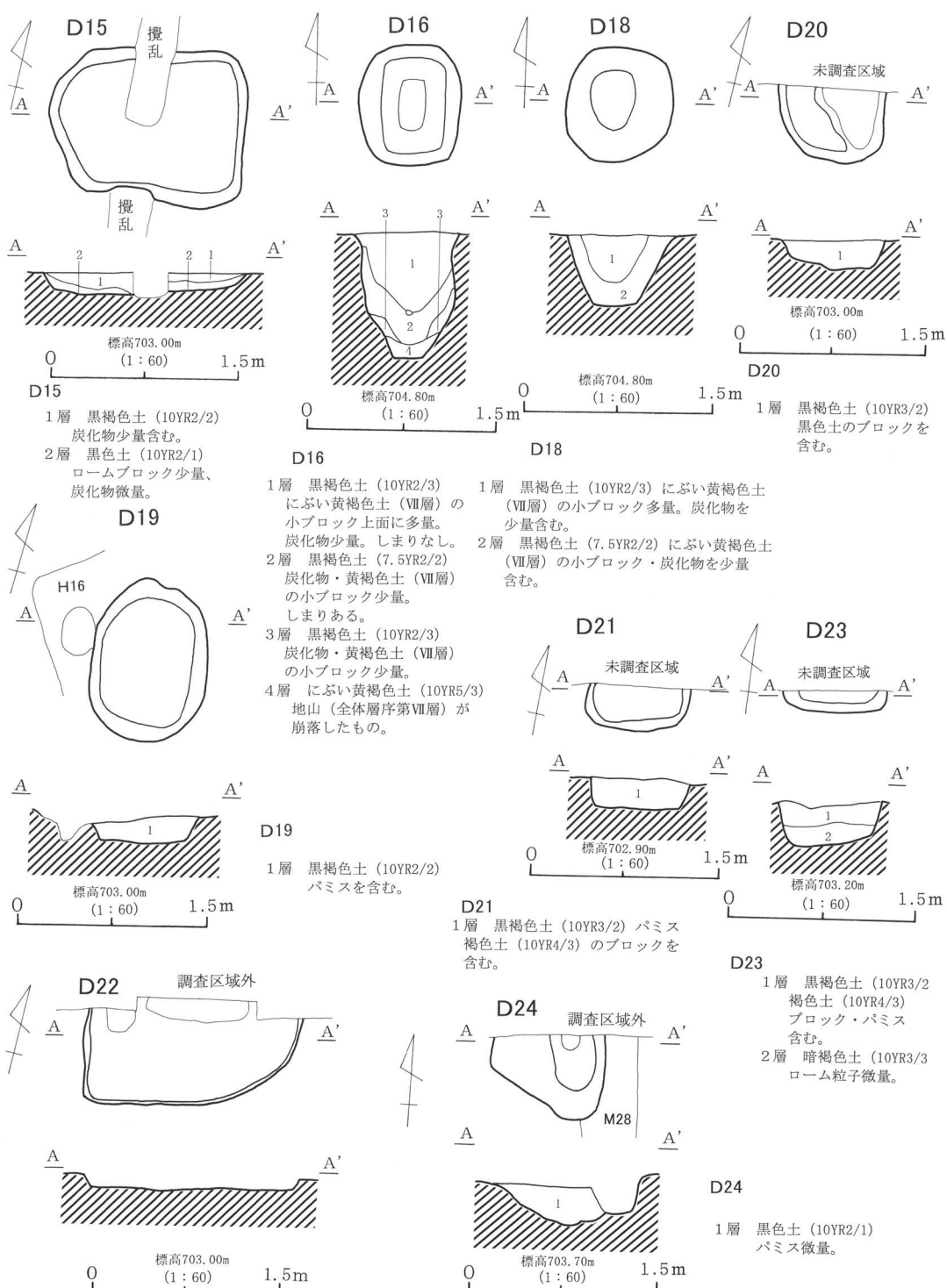


- D14**
- 1層 黒褐色土 (10YR2/3) 砂質土。

**D17**



第49図 土坑実測図 (D7・D9・D10・D11・D12・D13・D14・D17)



**D15**  
1層 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物少量含む。  
2層 黒色土 (10YR2/1) ロームブロック少量、炭化物微量。

**D16**  
1層 黒褐色土 (10YR2/3) にぶい黄褐色土 (VII層) の小ブロック上面に多量。炭化物少量。しまりなし。  
2層 黒褐色土 (7.5YR2/2) 炭化物・黄褐色土 (VII層) の小ブロック少量。しまりある。  
3層 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物・黄褐色土 (VII層) の小ブロック少量。  
4層 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 地山 (全体層序第VII層) が崩落したもの。

**D18**  
1層 黒褐色土 (10YR2/3) にぶい黄褐色土 (VII層) の小ブロック多量。炭化物を少量含む。  
2層 黒褐色土 (7.5YR2/2) にぶい黄褐色土 (VII層) の小ブロック・炭化物を少量含む。

**D19**  
1層 黒褐色土 (10YR2/2) パミスを含む。

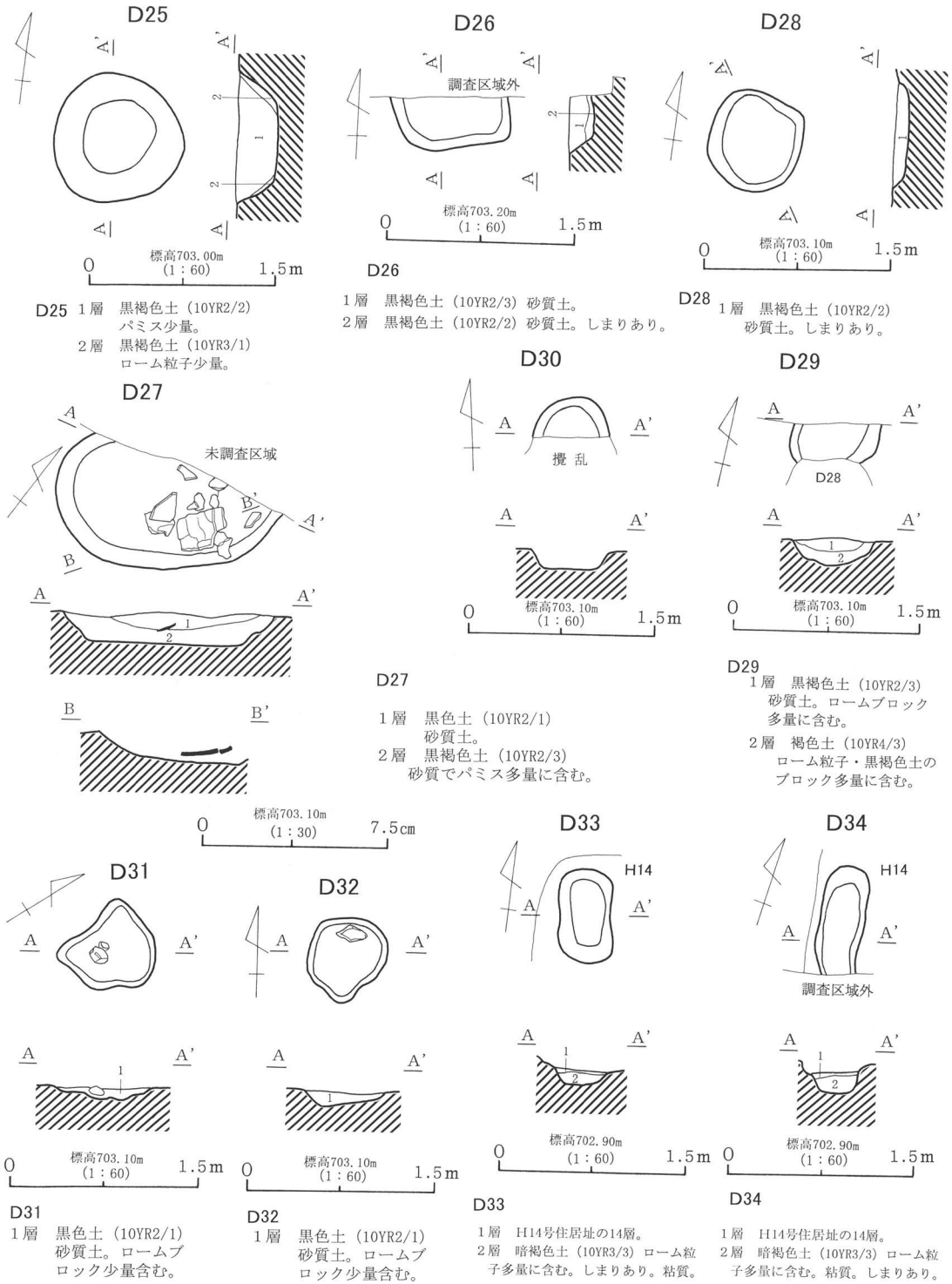
**D21**  
1層 黒褐色土 (10YR3/2) パミス褐色土 (10YR4/3) のブロックを含む。

**D23**  
1層 黒褐色土 (10YR3/2) 褐色土 (10YR4/3) ブロック・パミス含む。  
2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒子微量。

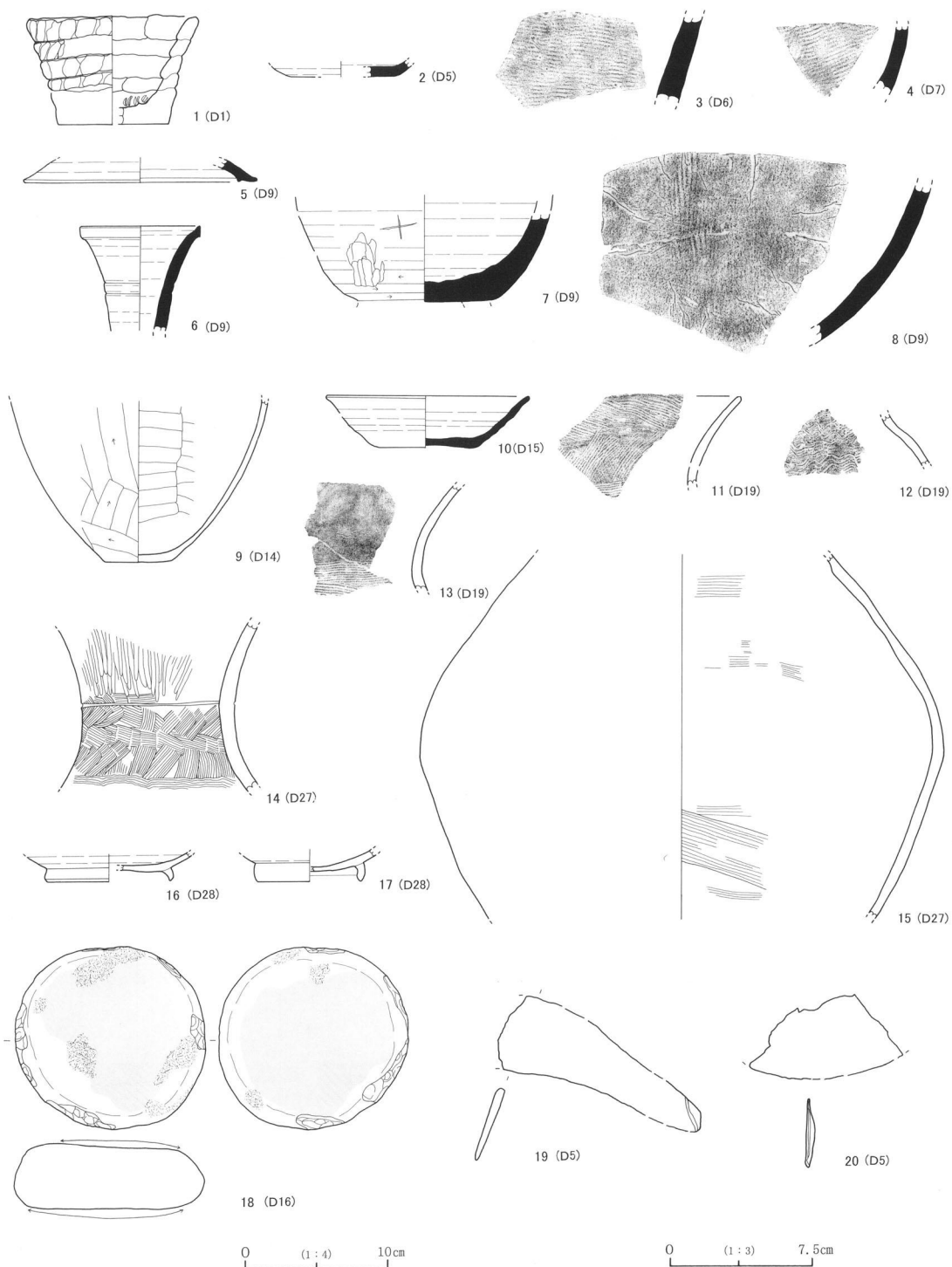
**D24**  
1層 黒色土 (10YR2/1) パミス微量。

第50図 土坑実測図 (D15・D16・D18・D19・D20・D21・D22・D23・D24)





第51図 土坑実測図 (D25・D26・D27・D28・D29・D30・D31・D32・D33・D34)



第52图 土坑出土遗物实测图

第26表 土坑出土遺物観察表

cm

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	弥生	鉢	12.0	(7.8)	7.5	手握	手握	完全実測, 手掘土器	D1, あ1, 2, 3, 5, 6層
2	須恵器	坏	-	(6.8)	(1.1)	ロクロナデ	ロクロナデ		D5
3	須恵器	甕	-	-	-	ヘラナデ	平行タタキ		断面実測 D6
4	須恵器	甕	-	-	-	ロクロナデ	平行タタキ		断面実測 D7
5	須恵器	蓋	(16.4)	-	(1.6)	ロクロナデ	ロクロナデ		回転実測 D9
6	須恵器	壺	(8.4)	-	(7.3)	ロクロナデ	ロクロナデ		回転実測 D9・北西
7	須恵器	壺	-	9.2	(7.4)	ロクロナデ	ロクロナデ→回転ヘラキリ→体部下端回転ヘラクスリ→高台貼付		完全実測 D9・南
8	須恵器	甕	-	-	-	ヘラナデ	平行タタキ		断面実測 D9・北西
9	土師器	甕	-	4.6	(11.3)	ヘラナデ	ヘラクスリ		完全実測 D14・ホリ方
10	須恵器	坏	(14.2)	6.5	3.7	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り(左)		完全実測 D15・北東
11	弥生	甕	-	-	-				断面実測 D19
12	弥生	甕	-	-	-				断面実測 D19
13	弥生	壺	-	-	-				断面実測 D19
14	弥生	壺	-	-	(12.0)	ヘラミガキ	櫛描斜走文→横走沈線文、ヘラミガキ		回転実測 D27
15	弥生	壺	-	-	(25.6)	ハケ目	ヘラミガキ		回転実測 D27
16	灰釉陶器	碗	-	(8.6)	(1.9)	ロクロナデ→灰釉	ロクロナデ→灰釉		回転実測 D28・南
17	灰釉陶器	碗	-	(7.4)	(2.2)	ロクロナデ→灰釉	ロクロナデ→灰釉		回転実測 D28・北
No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
18	磨・敲石	花崗岩		12.8	13.3	4.8		正面・裏面に磨面、上下端部・左右側面に敲打痕、被熱あり	D16
19	鎌	鉄		(11.5)	(4.2)	(0.5)			D5
20	不明			(8.0)	(4.1)	(0.15)			D5

第27表 土坑一覧表

遺構名	検出位置	平面形	長軸長	短軸長	深さ	備考	遺構名	検出位置	平面形	長軸長	短軸長	深さ	備考
D1	い2	方形	120	(110)	20	弥生 手握 壺 高坏 鉢 甕	D18	A20	円形	120	114	77	
D2	い2	円形	114	84	16	弥生 壺 甕	D19	う73	楕円形	170	124	28	弥生 壺 土師器 甕
D3	い9	円形	186	(90)	170		D20	い70	円形	(80)	116	36	
D4	い12	方形	246	(100)	230	須恵器 坏 甕 弥生 壺 鉢 土師器 甕 坏	D21	い69	方形	108	(46)	26	
D5	い32	方形	100	94	59	須恵器 坏 土師器 内黒坏 酸化焰焼成 坏 蓋	D22	あ69	不整形	230	(114)	17	
D6	あ35	円形	140	(90)	103	須恵器 甕	D23	あ69	方形	110	(26)	44	
D7	あ36	円形	180	154	163	灰釉瓶 須恵器 甕 坏 土師器 内黒坏 弥生 高坏 壺 甕	D24	い44	不整形	(90)	120	36	
D8	い41	楕円形	180	100	32		D25	う72	円形	140	140	43	
D9	あ41	楕円形	(150)	140	18	須恵器 坏 壺 甕 坏 土師器 坏 弥生 土坏 壺	D26	い60	隅丸方形?	124	(60)	27	
D10	い34	円形	160	150	44		D27	い-う-68	楕円形	120	70	16	弥生 壺
D11	い36	円形	72	70	69		D28	う68	不整形	110	110	17	灰釉陶器碗?
D12	い37	円形	120	110	12		D29	う68	円形	96	(40)	25	
D13	う-63-64	円形	100	(80)	30		D30	う68	円形?	82	(44)	23	
D14	い56	方形	70	70	12	土師器 甕	D31	う-え-71	不整形	88	82	18	
D15	う-え-73	方形	210	160	35	須恵器 坏	D32	う-え-71	不整形	90	82	18	
D16	A20	方形	126	100	135	敲石	D33	え73	楕円形	100	56	30	
D17	あ-い-18	楕円形	(110)	80	38		D34	え73	楕円形	(120)	56	26	

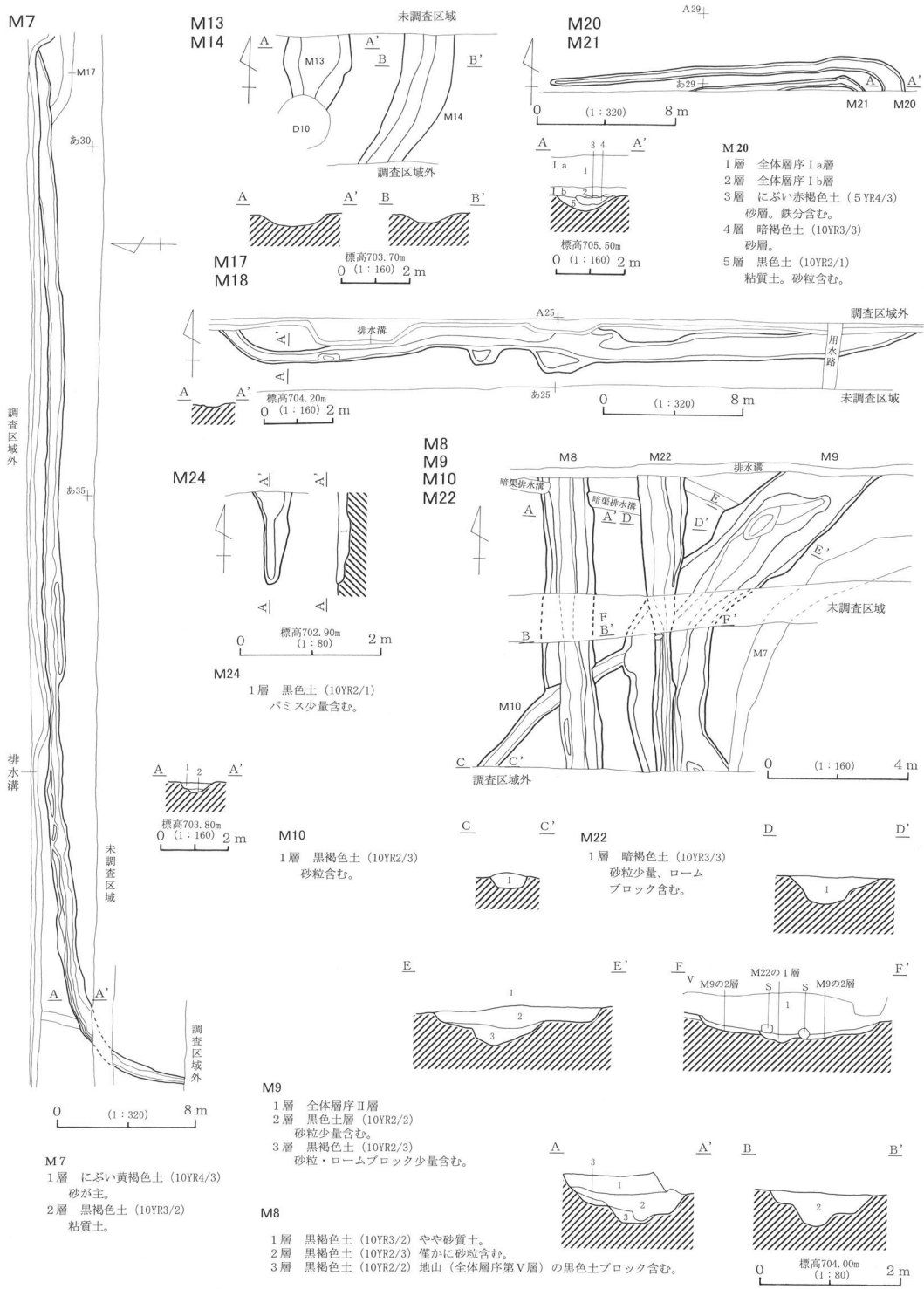
## 第5節 溝状遺構

22条の溝が検出された。調査区東側の標高が高く南西に漸次低い地形である。局所的にはグリット2~8列、36~48列付近で全体層序V層の黒色土が薄く低地状になる。ここに溝状遺構が集中している。自然流路やM17・18・6は近世~近代の用水路である。M1~M3は縄文時代後期と弥生時代後期の土器が多量に出土した。M19は断面「U」字形で底面に平行する凹みが見られる。底面は一部非常に固く締まる部分が南北に延びる。道路址であろうか。古墳時代後期のH18・H23号住居址より新しく、平安時代(9世紀前半)のH13号住居址より古い。獣骨も出土している。

### M1・M2・M3土層説明

- 1層 全体層序I b層
- 2層 全体層序II層
- 3層 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト質土。
- 4層 灰黄褐色土(10YR4/2) 砂層。
- 5層 黒色土(10YR1.7/1) 焼土粒子・パミス微量含む。土器多量出土。
- 6層 黒褐色土(10YR2/2) パミス・ローム粒子含む。
- 7層 黒色土(10YR1.7/1) 黒色土層。粘質強。パミス少量含む。
- 8層 暗褐色土(10YR3/3) 砂礫層。パミス・ローム粒子多量に含む。
- 9層 ぶい黄褐色土(10YR4/3) 砂礫層。
- 10層 黒色土(10YR1.7/1) 黒色土層。パミス僅か含む。
- 11層 ぶい黄褐色土(10YR4/3) 砂礫層。
- 12層 黒褐色土(10YR2/2) パミス・ローム粒子含む。
- A層 灰黄褐色土(10YR4/2) 砂礫層。
- B層 灰黄褐色土(10YR4/2) 砂礫層。



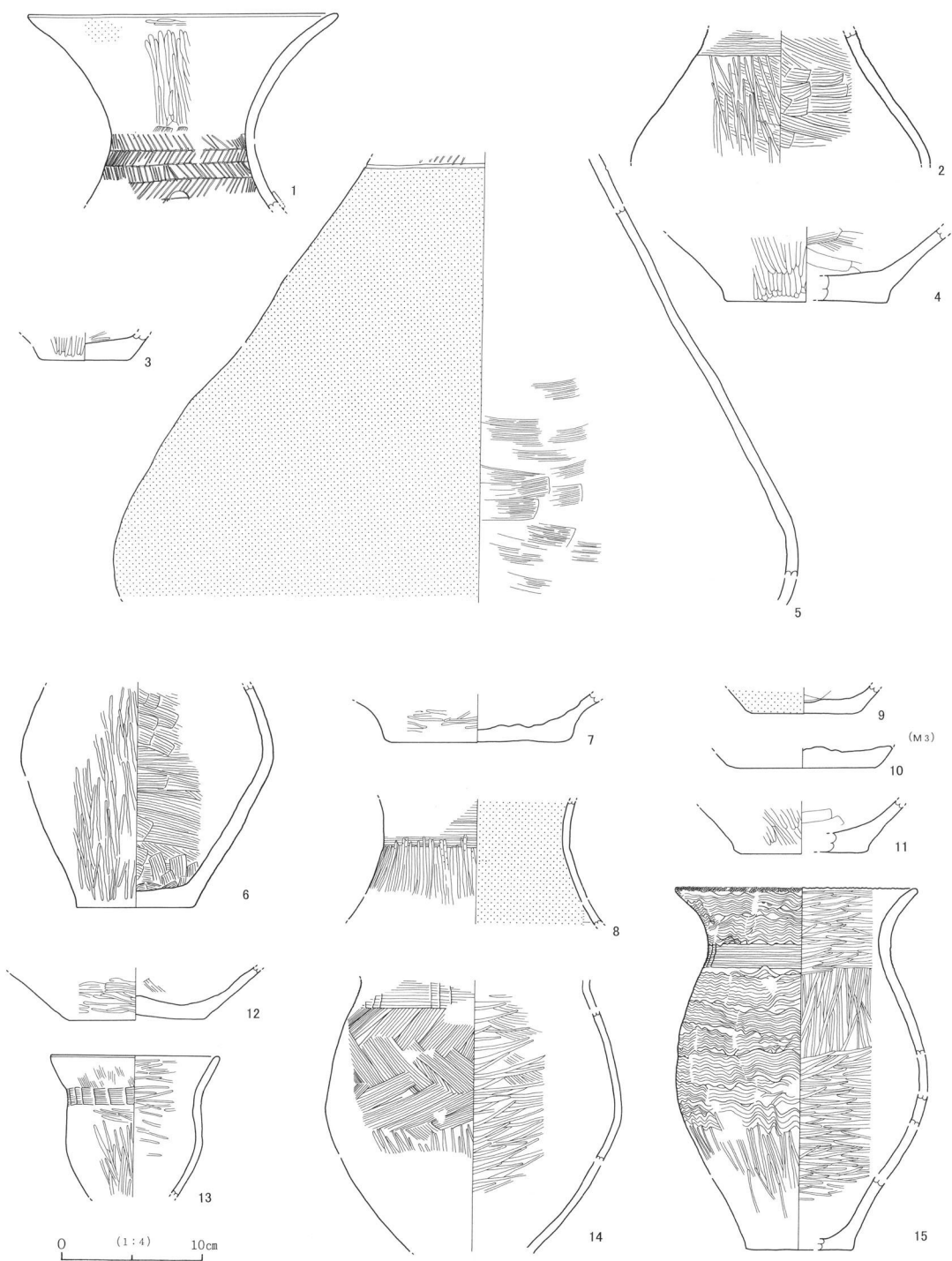


第54図 溝状遺構実測図 (M7・M8・M9・M10・M13・M14・M17・M18・M20・M21・M22)

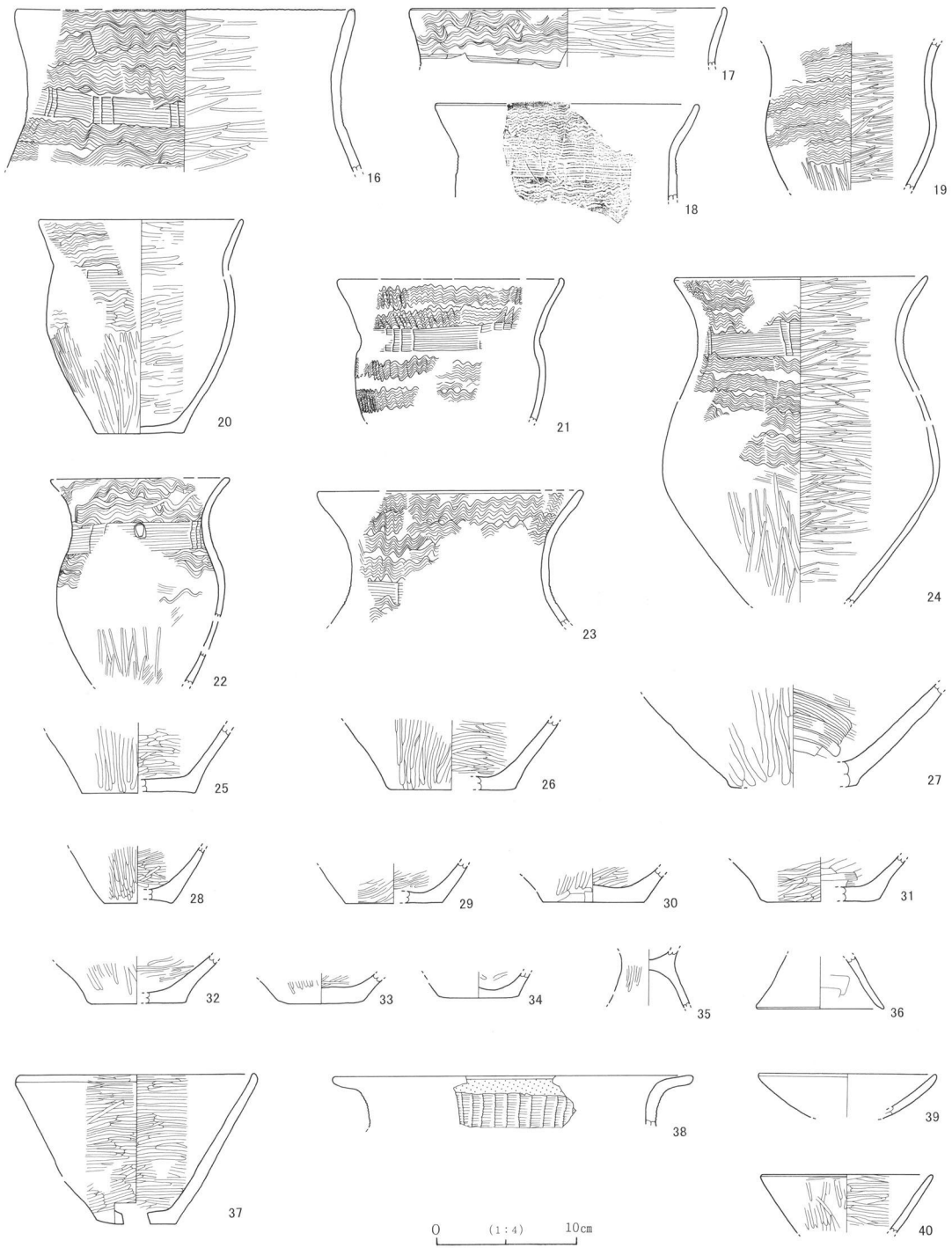


第55图 M1·M2号沟状遗构出土遗物实测图

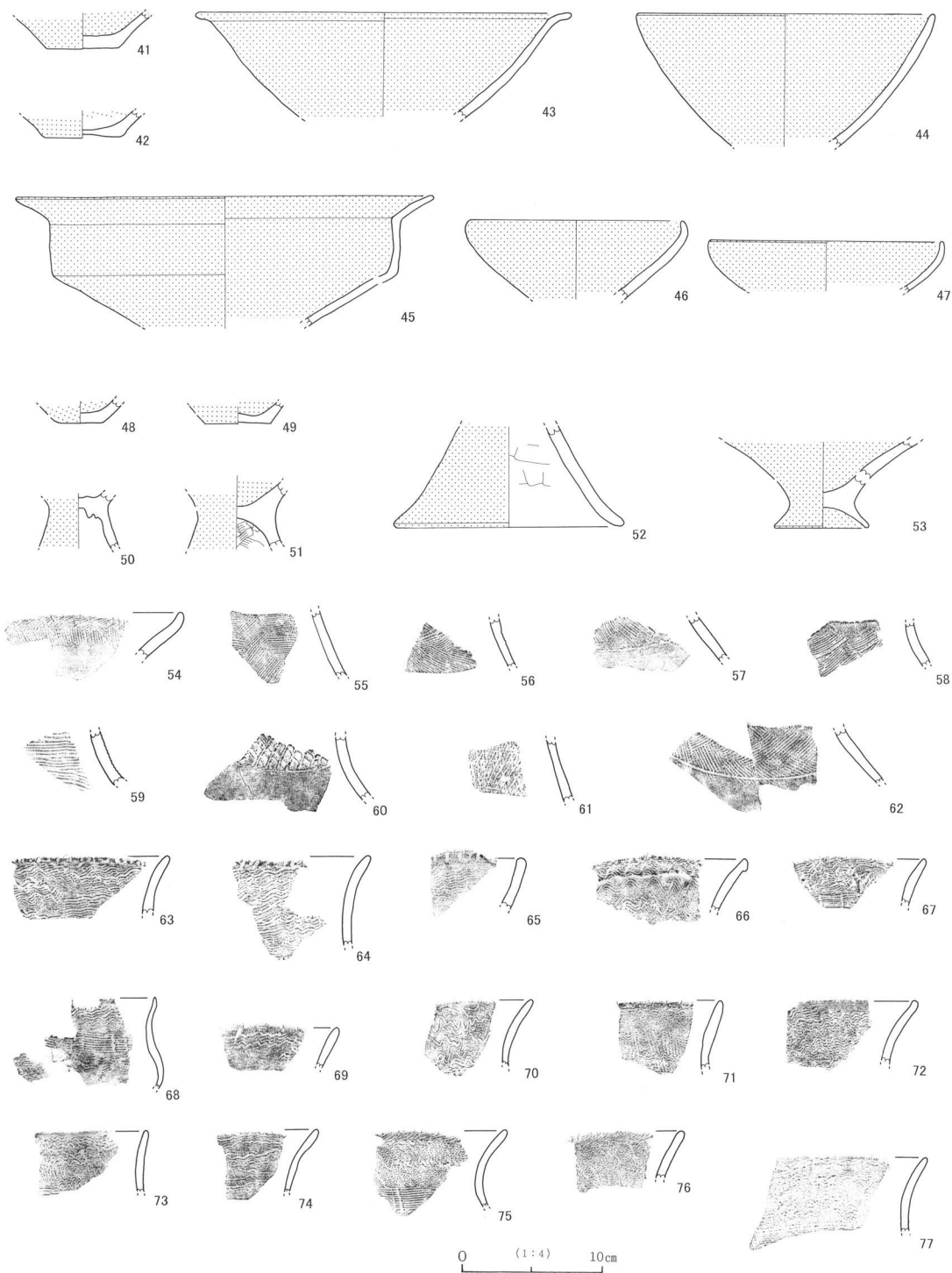




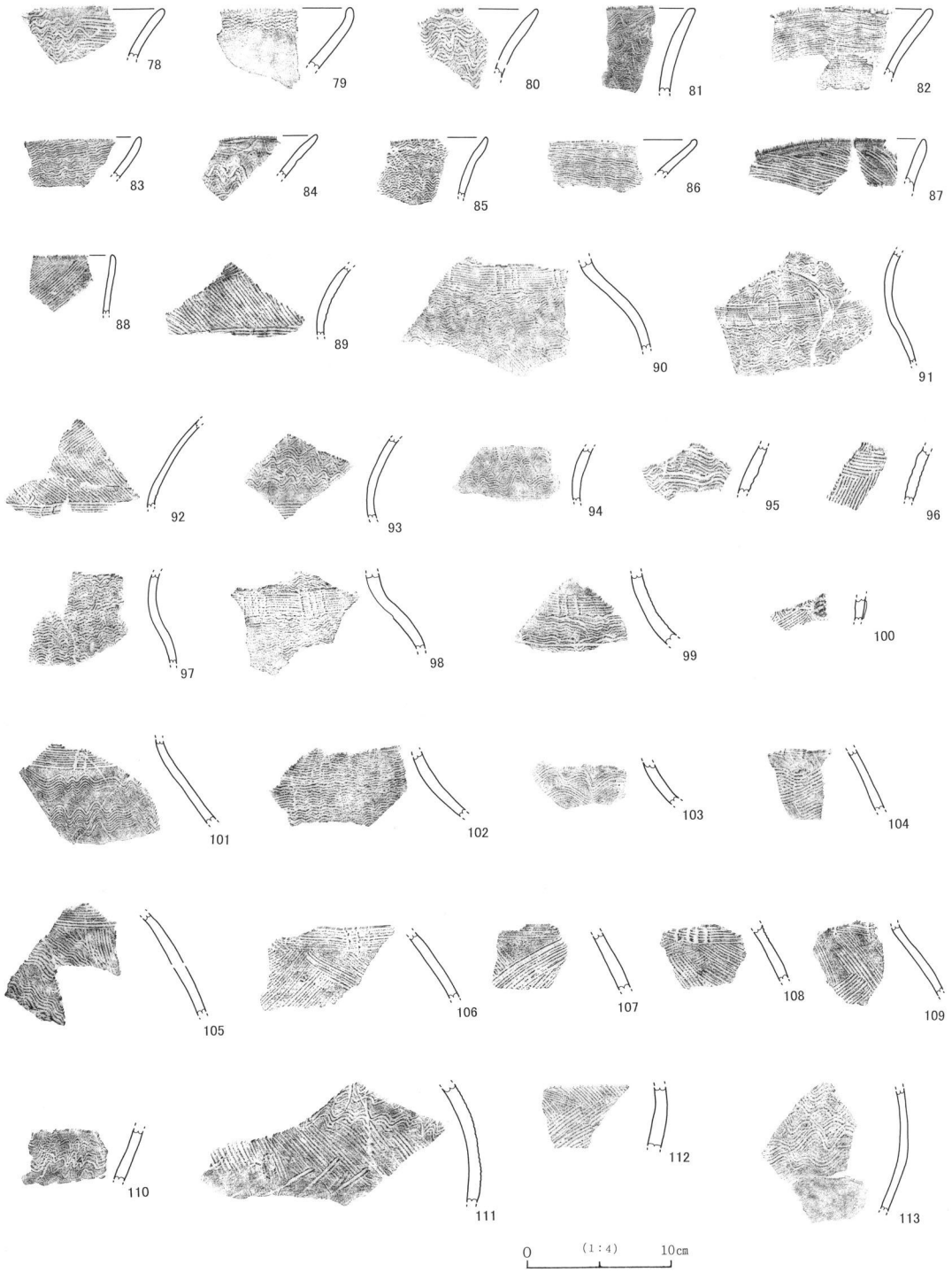
第56图 M1·M2号沟状遺構出土遺物実測図



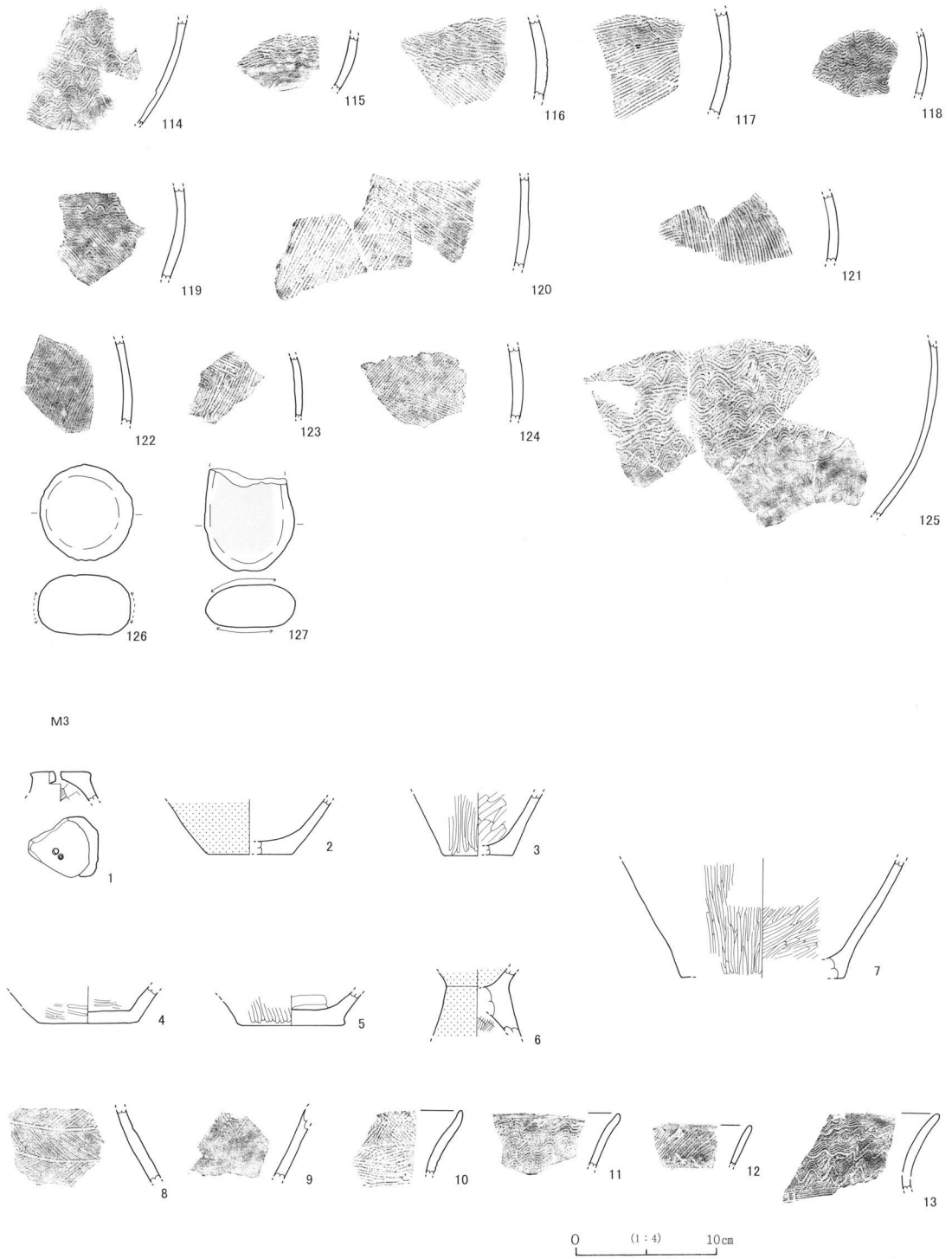
第57图 M1·M2号沟状遺構出土遺物実測図



第58图 M1·M2号沟状遺構出土遺物実測図

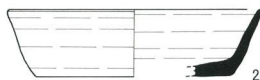
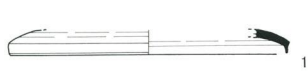


第59图 M1·M2号溝状遺構出土遺物実測図

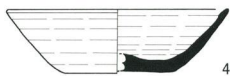


第60图 M1·M2·M3号沟状遗构出土遗物实测图

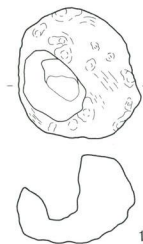
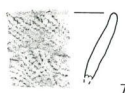
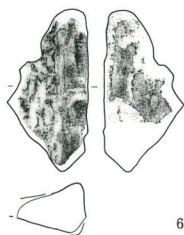
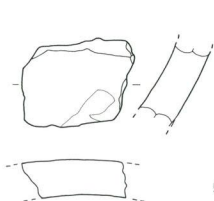
M6



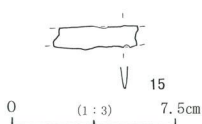
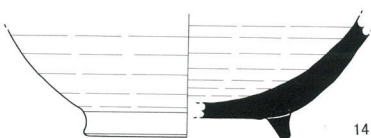
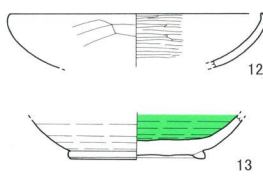
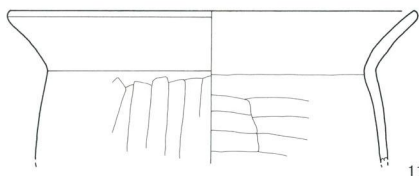
M7



M8



M19

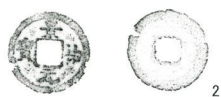


0 (1:4) 10cm

(M6)



(M8)



(M9)



(M17)



(M17)



(M18)

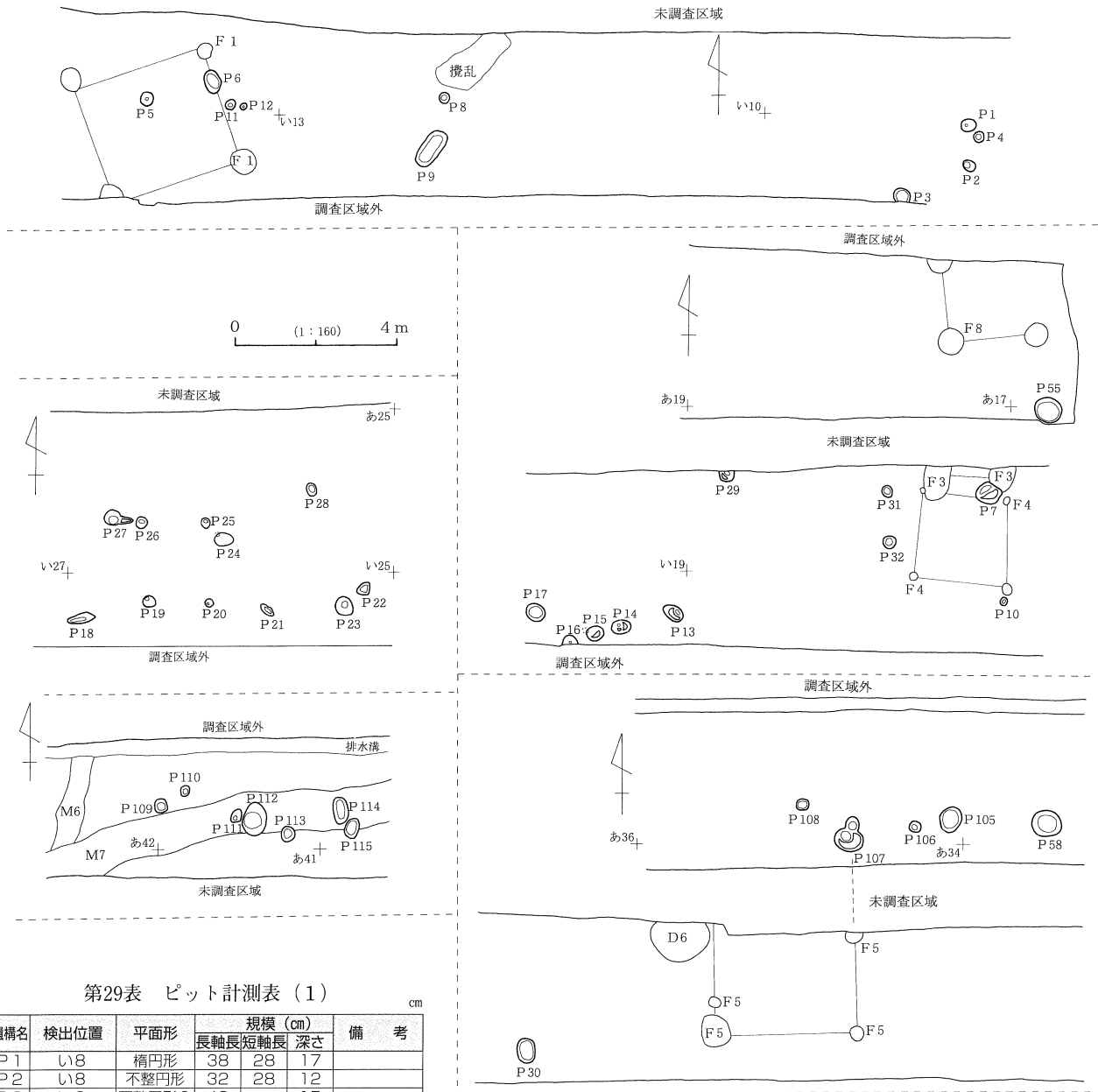


0 (1:2) 5cm

第61图 M6·M7·M8·M9·M17·M18·M19号溝状遺構出土遺物実測図







第29表 ピット計測表 (1)

遺構名	検出位置	平面形	規模 (cm)			備考
			長軸長	短軸長	深さ	
P1	い8	楕円形	38	28	17	
P2	い8	不整形円形	32	28	12	
P3	い9	不整形円形?	40	-	15	
P4	い8	円形	26	26	6	
P5	あ13	円形	20	20	10	
P6	あ13	楕円形	56	40	11	
P7	あ17	不整形円形	66	56	28	
P8	あ-11・12	円形	24	24	18	
P9	あ11・い12	隅丸長方形	100	46	17	
P10	い17	不整形円形	18	14	8	
P11	あ13	円形	24	24	12	
P12	あ13	円形	16	14	3	
P13	い19	楕円形	54	30	22	
P14	い19	楕円形	44	32	67	
P15	い19	円形	40	38	26	
P16	い19	円形?	34	-	20	
P17	い19	円形	48	42	8	
P18	い26	楕円形	64	22	17	
P19	い26	楕円形	30	26	35	
P20	い26	円形	20	18	15	
P21	い25	不整形楕円形	38	14	9	
P22	い25	隅丸三角形	30	32	17	
P23	い25	不整形円形	50	44	13	
P24	う26	楕円形	44	32	43	
P25	う26	円形	22	20	15	
P26	う26	円形	26	24	26	

第62図 ピット群実測図

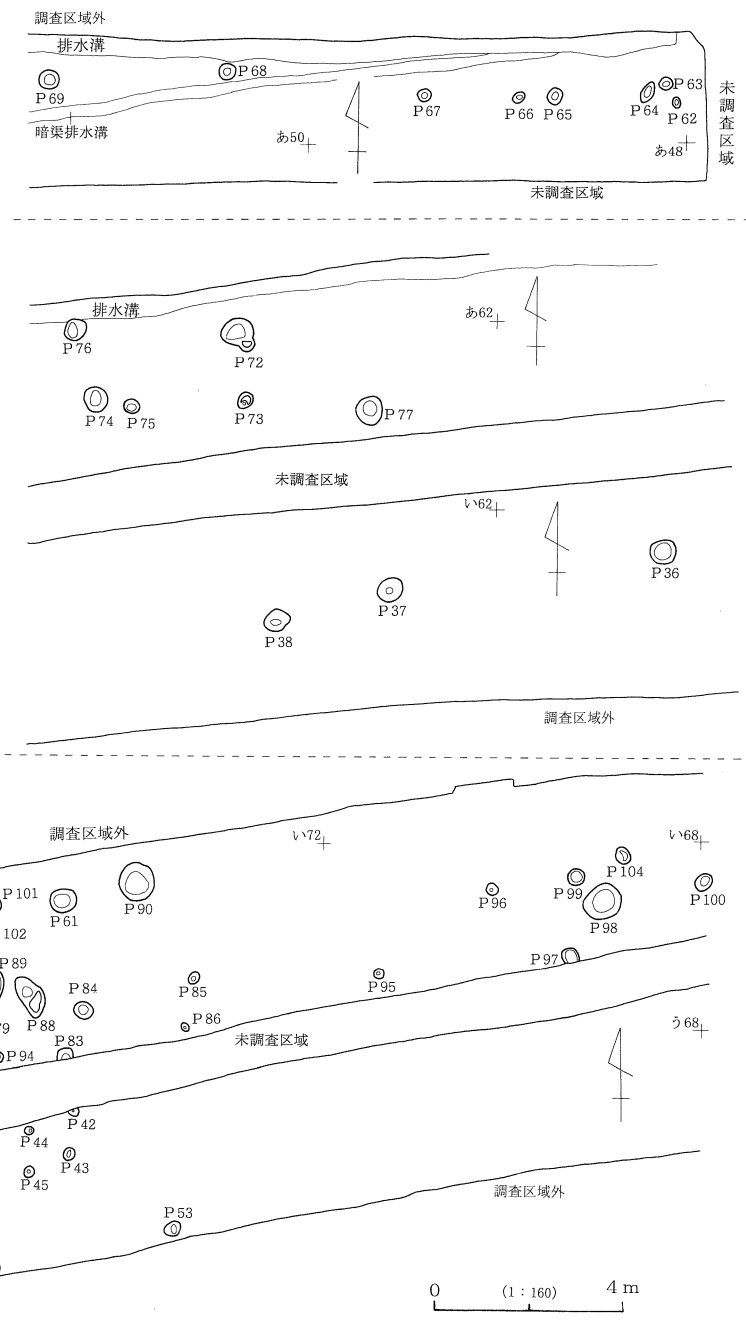
P27	う26	8の字形	40	40	18	
P28	う25	楕円形	30	26	21	
P29	あ18	楕円形?	-	40	36	
P30	あ36	楕円形	60	44	8	
P31	あ17	円形	28	28	13	
P32	あ17	円形	32	32	11	
P33	あ58	楕円形	34	26	18	土師器甕
P34	あ59	円形	38	36	20	
P35	う72	楕円形	88	60	16	土師器甕
P36	い61	円形	58	54	42	須恵器坏
P37	い62	不整形円形	56	46	50	須恵器坏 土師甕 内黒坏
P38	い62	不整形円形	54	44	27	土師器甕
P39	う-73・74	不整形円形	54	54	35	
P40	う74	不整形楕円形	44	30	18	
P41	う73	楕円形	80	56	35	
P42	う71	円形?	24	-	20	
P43	う71	楕円形	30	22	11	
P44	う71	不整形円形	22	18	12	
P45	う71	円形	24	20	12	

第30表 ピット計測表 (2)

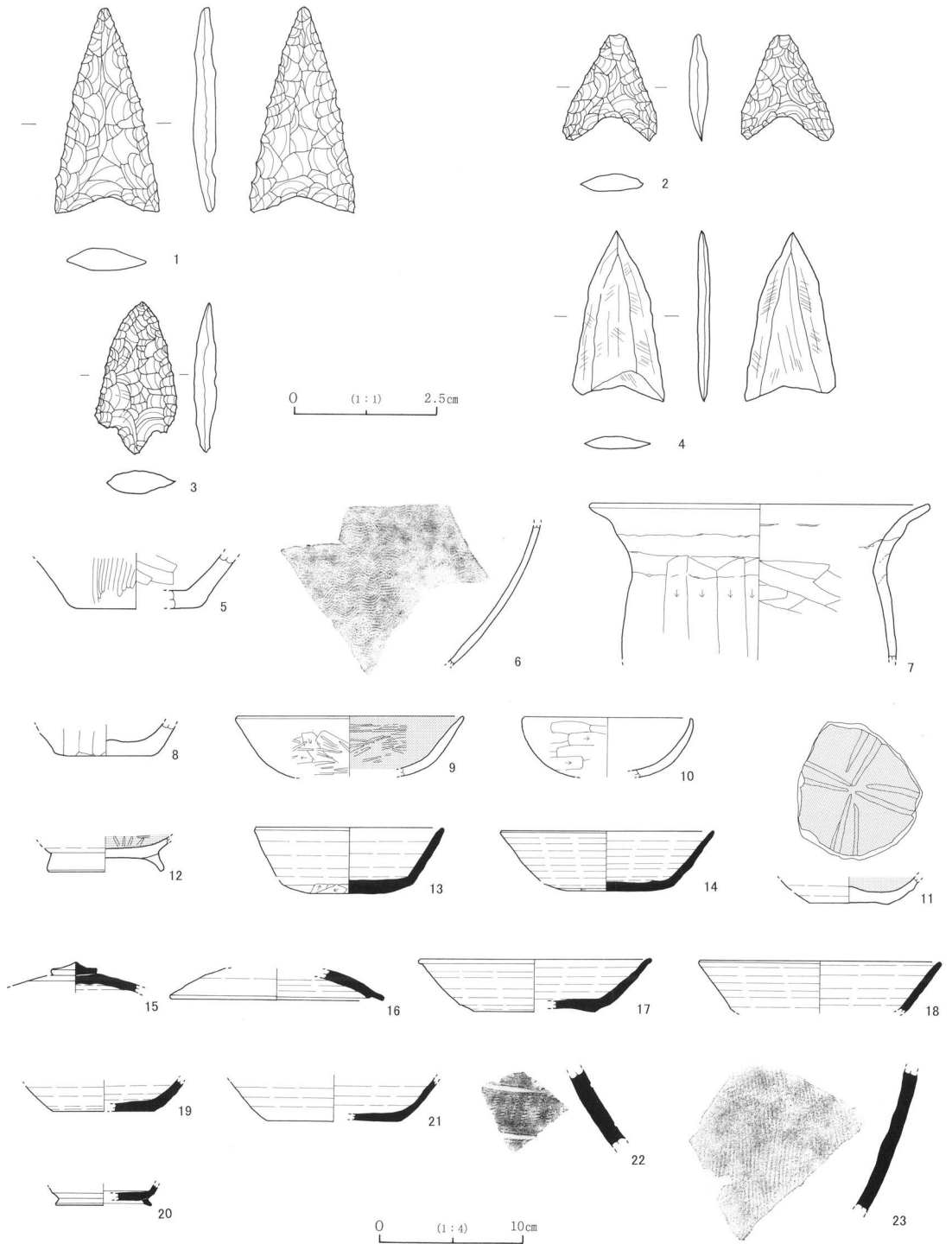
遺構名	検出位置	平面形	長軸長	短軸長	深さ	備考
P46	う71	円形	40	36	22	
P47	え71	円形	44	42	18	
P48	え72	円形	30	28	3	
P49	え72	楕円形	40	30	6	
P50	え71	楕円形	24	20	3	
P51	い73	楕円形	82	62	14	
P52	い73	不整楕円形	80	74	18	土師器甕
P53	え70	不整円形	34	34	14	
P54	い73	楕円形	46	36	6	
P55	あ17	不整円形	68	60	28	須恵器甕 蓋 土師器甕
P56	い72	不整円形	34	30	24	
P57	い72	不整円形	40	38	24	弥生甕
P58	A33	不整円形	72	60	7	土師器甕
P59	い72	楕円形	66	48	16	
P60	い71	楕円形	60	48	10	
P61	い71	円形	56	48	6	
P62	A48	楕円形	28	18	14	
P63	A48	楕円形	30	26	12	
P64	A48	楕円形	46	26	10	
P65	A48	円形	34	30	23	
P66	A48	楕円形	28	20	10	
P67	A49	楕円形	30	24	10	
P68	A50	円形	34	34	51	土師器甕
P69	A51	円形	40	40	21	
P70	う72	不整円形	60	60	25	
P71	い72	楕円形	54	40	15	
P72	あ63	8の字形	80	70	31	
P73	あ63	楕円形	34	26	26	
P74	あ64	円形	50	50	56	
P75	あ63	楕円形	36	28	28	
P76	あ64	円形	48	48	38	
P77	あ62	不整円形	60	56	36	
P78	い71	円形	34	34	17	
P79	い71	円形	32	30	16	
P80	い71	円形	28	28	8	
P81	い72	円形	24	24	16	土師器甕
P82	い72	円形	24	24	22	
P83	う71	楕円形?	-	32	13	
P84	い71	円形	40	36	12	
P85	い70	楕円形	26	20	10	
P86	い70	楕円形	20	12	20	
P87	い72	楕円形	94	60	34	
P88	い71	楕円形	94	50	27	土師器甕
P89	い71	楕円形	76	60	14	
P90	う-70-71	円形	80	80	20	
P91	う72	円形?	-	34	17	
P92	い72	楕円形	42	24	9	
P93	う71	不整楕円形	30	22	14	
P94	う71	円形	22	22	20	
P95	い69	円形	24	18	17	
P96	い69	円形	30	28	12	
P97	い68	楕円形?	-	32	13	
P98	い68	不整円形	84	72	14	土師器甕
P99	い68	円形	36	36	7	
P100	い-67-68	不整円形	40	34	15	
P101	い71	楕円形	50	38	29	

遺構名	検出位置	平面形	長軸長	短軸長	深さ	備考
P102	い71	楕円形	66	-	16	
P103	い72	楕円形	64	46	19	
P104	い68	不整円形	36	30	19	
P105	A34	楕円形	64	50	28	
P106	A34	円形	28	28	10	
P107	A34	8の字形	86	70	34	
P108	A34	楕円形	32	24	7	
P109	A41	隅丸長方形	36	28	17	
P110	A41	楕円形	28	22	8	
P111	A41	楕円形	32	24	18	

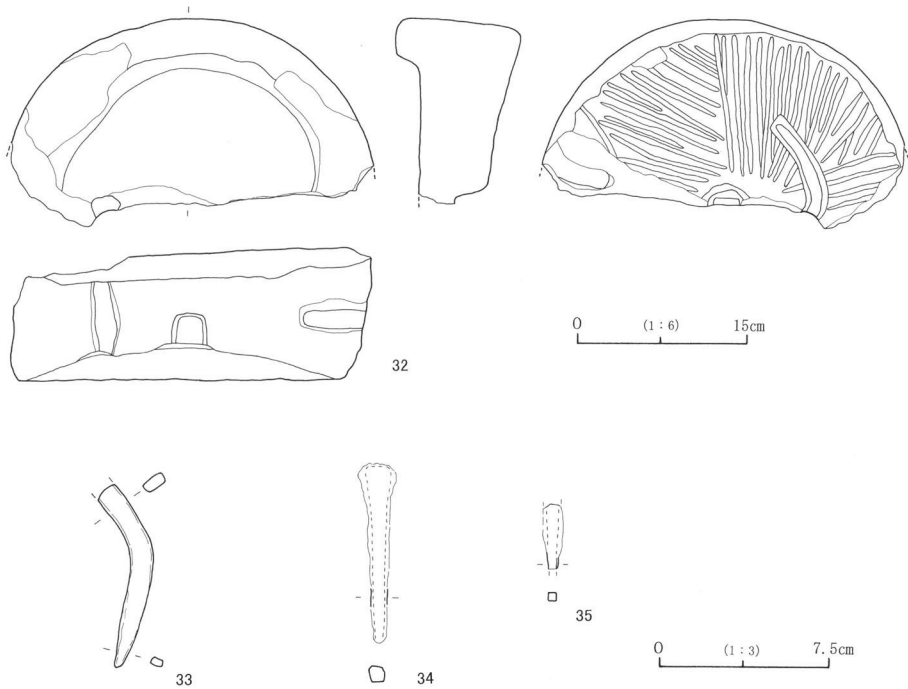
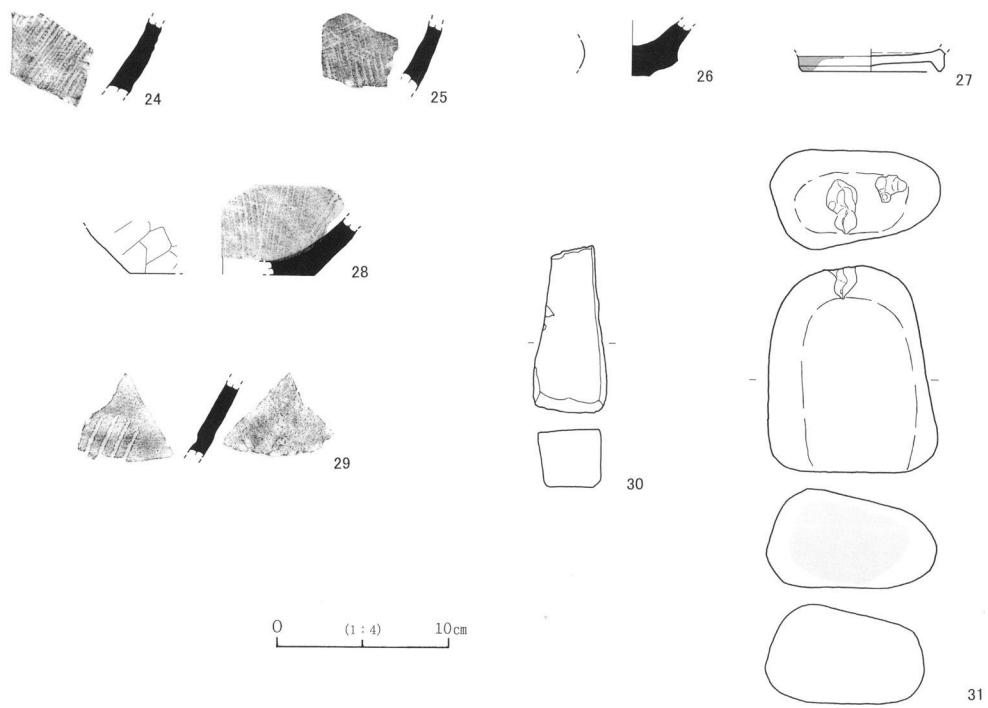
遺構名	検出位置	平面形	長軸長	短軸長	深さ	備考
P112	A41	不整楕円形	82	60	30	
P113	A41	円形	36	36	14	
P114	A40	楕円形	66	36	17	
P115	A40	不整楕円形	46	36	9	
P116	う-73-74	円形	60	60	38	弥生鉢 壺 甕 土師器甕
P117	う74	楕円形?	-	80	20	土師器甕 内黒 須恵器甕 坏 弥生甕



第63図 ピット群実測図



第64図 グリット出土および表採遺物実測図



第65図 グリット出土および表採遺物実測図

第31表 グリット出土遺物観察表

cm

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様				備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面		外面			
5	弥生	甕	—	(9.4)	(3.8)	ヘラナデ		ヘラミガキ		回転実測	あ28
6	弥生	甕	—	—	—						検出面
7	土師器	甕	—	—	<10.9>	ヘラナデ		ヘラケズリ		回転実測	A53, A54
8	土師器	甕	—	7.2	(2.2)	ヘラナデ		ヘラケズリ		完全実測	A33
9	土師器	坏	—	—	(4.2)	ヘラミガキ、黒色処理		ヘラケズリ→ヘラミガキ		回転実測	あ49
10	土師器	坏	—	—	(4.2)	ヘラナデ		ヘラケズリ		回転実測	A37
11	土師器	坏	—	5.6	(1.9)	ヘラミガキ、黒色処理、暗文施文		ロクロナデ→底部回転糸切り		完全実測	A26
12	土師器	坏	—	8.2	(2.5)	ヘラミガキ、黒色処理		ロクロナデ→回転糸切り→高台貼付		完全実測	A36
13	須恵器	坏	—	9.0	4.7	ロクロナデ		ロクロナデ、底部手持ちヘラケズリ		完全実測	A40
14	須恵器	坏	—	6.4	4.2	ロクロナデ		ロクロナデ、底部手持ちヘラケズリ		完全実測	表採
15	須恵器	蓋	—	—	(2.0)	ロクロナデ		ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付		完全実測	い22
16	須恵器	蓋	—	—	(2.1)	ロクロナデ		ロクロナデ		回転実測	あ41・検出面
17	須恵器	坏	—	(8.4)	3.7	ロクロナデ		ロクロナデ、底部回転糸切り		回転実測	A53
18	須恵器	坏	—	—	(3.6)	ロクロナデ		ロクロナデ		回転実測	A38
19	須恵器	坏	—	(7.0)	(2.2)	ロクロナデ		ロクロナデ、底部回転糸切り		回転実測、内外・火だすき痕	A44
20	須恵器	坏	—	(6.8)	(1.5)	ロクロナデ		ロクロナデ、底部回転糸切り→高台貼付		回転実測	A44
21	須恵器	坏	—	(9.2)	(3.2)	ロクロナデ		ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ		回転実測	表採
22	須恵器	甕	—	—	—	ロクロナデ		ロクロナデ		断面実測	表採
23	須恵器	甕	—	—	—	ヘラナデ		平行タタキ		断面実測	つ65
24	須恵器	甕	—	—	—	ヘラナデ		平行タタキ		断面実測	A39
25	須恵器	甕	—	—	—	ヘラナデ		平行タタキ		断面実測	A39
26	須恵器	高蓋	—	—	(3.2)	ロクロナデ		ロクロナデ		完全実測	—
27	灰釉陶器	碗	—	(8.2)	(1.3)	ロクロナデ		ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付		回転実測	あ41・検出面
28	珠洲	擂鉢	—	(11.0)	(3.4)	ヘラナデ		ヘラナデ		回転実測	A38
29	珠洲	擂鉢	—	—	—	ヘラナデ		ヘラナデ		断面実測	A36
No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置	
1	石鏃	黒色緻密安山岩		1.85	1.6	0.3	0.62			あ2	
2	石鏃	黒曜石		3.6	1.8	0.4	2.23			あ3	
3	石鏃	黒曜石		2.7	1.4	0.4				P118	
4	磨製石鏃	緑色凝灰岩		3.0	1.6	0.2	1.26			あ3	
30	砥石	凝灰岩		(9.8)	(4.35)	4.1	208.2	上部欠損		A31	
31	磨石	輝石安山岩		12.1	10.0	5.8	1188.0	上端部・敲打痕、下側にすり面		い15・表採	
32	上臼	輝石安山岩		(33.4)	—	11.8		ふくみ幅2.9 芯棒孔径3.1		あ58	
33	釘	鉄		(8.0)	(1.0)	(0.5)				A42	
34	釘	鉄		7.9	1.65	0.9				A30	
35	釘	鉄		(2.9)	(0.9)	(0.6)				あ25	

## 第7節 遺構外出土遺物

遺構検出時に全体層序Ⅱ層等から出土したのが多い。第64図10・12・13・18・24・25・28・29がA-36~40Grから、口絵3の中世~近代の陶磁器類は主にA25・26GrのM17・18付近から出土した。

弥生時代後期土器、土師器、須恵器、石器類、鉄器がある。1はガラス質黒色安山岩の石鏃、2・3は黒曜石の石鏃、4は石質千枚岩の弥生時代磨製石鏃。9~12は土師器坏、9・10は体部から底部までヘラケズリ、9はヘラケズリ後ヘラミガキ内面黒色処理される。11は底部回転糸切り、花卉のような暗文後内面黒色処理が施される。12底部回転糸切り後付高台、内面ヘラミガキ後黒処理が施される。15は扁平な擬宝珠のつまみを持ち、16はかえりを有す須恵器坏蓋である。13・14・17~19・21は須恵器坏、13・14は底部手持ちヘラケズリ、21は底部回転ヘラケズリ、17・19は底部回転糸切りされる。27は灰釉陶器、28・29は珠洲焼の擂鉢である。30は砥石、31は磨石、32は上臼、33~35は鉄釘であろう。

調査西地区の深さ2mを超える自然流路からも多くの弥生時代後期~平安時代の土器が出土した。第66図3~4は土師器坏で、いずれも内面黒色処理・底部手持ちヘラケズリされる。7は須恵器蓋、8~19は須恵器坏で8が底部手持ちヘラケズリ、9・19が回転ヘラケズリ、10・11・14・16~18が底部回転糸切りされる。15は浅い高台付坏か?。20~25・27は須恵器高台付坏ですべて底部回転ヘラケズリ後高台が貼付される。他に須恵器壺・甕、灰釉陶器瓶がある。

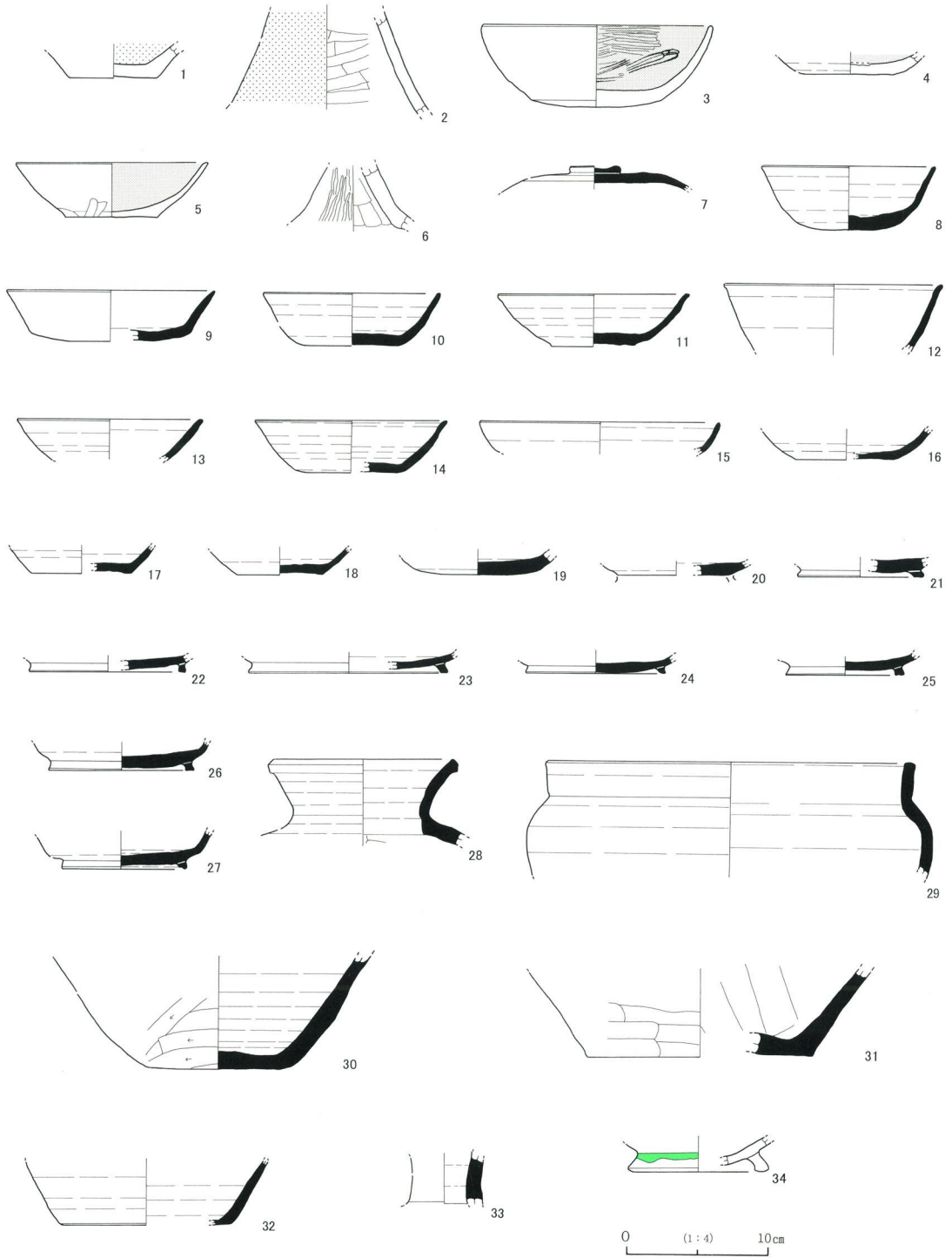
## 第三章 調査のまとめ

調査は道路の機能を確保しながら実施した。同一遺構を南北に分断し、さらに安全確保のために中央に未調査部分が存在する。全容が調査できたのは数少ない。

竈穴住居址は、弥生時代後期箱清水期が5棟、古墳時代後期が2棟、奈良時代が7棟、平安時代9世紀前半が8棟、平安時代10世紀前半が2棟、不明が2棟、合計26棟が検出された。

今回の調査で特記されるのは、弥生時代後期の住居址に地盤のズレの影響が見られたこと。本遺跡





第66图 調査西地区出土遺物実測図

第32表 調査西地区出土遺物観察表

cm

No	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	弥生	壺	—	(6.2)	(2.4)	ミガキ→赤色塗彩	ヘラナデ	回転実測	西区一括
2	弥生	壺	—	—	(6.9)	ヘラナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	//
3	土師器	坏	16.4	9.2	5.8	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラナデ→底部手持ちヘラケズリ	完全実測、完形	//
4	土師器	坏	—	(6.2)	(1.5)	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り(右)→手持ちヘラケズリ	回転実測	//
5	土師器	坏	(13.4)	(6.5)	3.9	ミガキ→黒色処理	底部手持ちヘラケズリ	回転実測	//
6	土師器	高坏	—	—	(4.4)	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	//
7	須恵器	坏蓋	—	—	(1.5)	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→つまみ貼付	完全実測	//
8	須恵器	坏	12.3	7.6	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ→底部ヘラケズリ	完全実測	//
9	須恵器	坏	(14.7)	(5.9)	3.6	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	//
10	須恵器	坏	(12.4)	(6.7)	3.7	ロクロナデ→火襷	ロクロナデ→底部回転糸切り(右)→火襷	回転実測	//
11	須恵器	坏	13.5	6.0	3.7	ロクロナデ→火襷	ロクロナデ→底部回転糸切り(左)→火襷	完全実測	//
12	須恵器	坏	(15.4)	—	(4.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	//
13	須恵器	坏	(13.0)	—	(2.4)	ロクロナデ→火襷	ロクロナデ→火襷	回転実測	//
14	須恵器	坏	(13.5)	(6.1)	(3.7)	ロクロナデ→火襷	ロクロナデ→底部回転糸切り(右)→火襷	回転実測	//
15	須恵器	皿	(16.8)	—	(2.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	//
16	須恵器	坏	—	(6.9)	(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り(右)	回転実測	//
17	須恵器	坏	—	(7.1)	(2)	ロクロナデ→火襷	ロクロナデ→底部回転糸切り(右)→火襷	回転実測	//
18	須恵器	坏	—	(6.1)	(2)	ロクロナデ→火襷	ロクロナデ→底部回転糸切り(右)→火襷	回転実測	//
19	須恵器	坏	—	(5.1)	(1.7)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	回転実測	//
20	須恵器	高台付坏	—	—	(1)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付(欠損)	回転実測	//
21	須恵器	高台付坏	—	(8.8)	(1.4)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ケズリ→高台貼付	回転実測	//
22	須恵器	高台付坏	—	(10.4)	(1.2)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	//
23	須恵器	高台付坏	—	(13.9)	(1.5)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	//
24	須恵器	高台付坏	—	(9.8)	(1.4)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	//
25	須恵器	高台付坏	—	8.3	(1.6)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	完全実測	//
26	須恵器	高台付坏	—	(10.2)	(2.1)	ロクロナデ→火襷	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付→火襷	回転実測	//
27	須恵器	高台付坏	—	8.7	(2.7)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	完全実測	//
28	須恵器	壺	12.6	—	(6.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	//
29	須恵器	甕	(25.8)	—	(8.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	//
30	須恵器	鉢	—	10.4	(8.0)	ロクロナデ	ヘラナデ	完全実測	//
31	須恵器	甕	—	(15.8)	(6.2)	ヘラナデ	タキキ→ヘラケズリ→自然釉付着	回転実測、自然釉付着	//
32	須恵器	坏	—	(11.7)	(4.5)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	回転実測	//
33	須恵器	壺	—	—	(3.7)	ロクロナデ	叩き→ヘラケズリ→自然釉付着	完全実測、自然釉付着	//
34	灰釉	瓶	—	(9.3)	(2.4)	ロクロナデ	ナデ→高台貼付→自然釉付着	回転実測、自然釉付着	//

の東にある清水田遺跡Ⅱ・円正の坊遺跡Ⅱ・直路遺跡、さらに、周防畑遺跡群内の辻の前遺跡Ⅱの弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居址にも同様なズレが見られる。古墳時代後期には、見られないことから両時期の間に地盤の変動があったのであろう。

もう一つは、H14号住居址から出土した多様の印花文が描かれた灰釉陶器小瓶が一つあげられる。動物・花・雲・記号?が胴上半部を全周している。灰釉陶器に動物が描かれた例はないという、古代佐久の馬生産に関わる生産地からの特注も考えられないという。如何にこの大豆田遺跡にもたらされたものであろうか。

さらに、H19号住居址から出土した「大井」の文字資料である。須恵器の製作技法により作られた酸化焰焼成の鉢に「大井」が2カ所、3点の土師器坏にも「大井」がいずれも焼成前に刻書されている。400m北方の本遺跡群内南近津遺跡で「大井」の墨書1点・刻書1点、300m西方の西近津遺跡群(長野県埋蔵文化財センター調査中)でも出土している。『和名抄』に記された佐久郡八郷の大井郷は、旧浅間町・旧東村の一部・小諸市南部の和田この一帯が決定的な根拠に欠くが推定されている。大井郷と関連があるのであろうか。八郷のうちの刑部郷は、岸野・野沢・白田町など千曲川の左岸一帯と推測されている。その岸野地区内榛名平遺跡から「大井」と焼成後に刻書された須恵器坏蓋が出土した。これとは逆に同じ郷名であろう「刑部」と墨書された土師器碗が大井郷推定地内の岩村田上久保田向遺跡Ⅰから出土した。周防畑遺跡群は、周辺の新近津遺跡群・長土呂遺跡群・芝宮遺跡群と共に佐久郡衙所在地等佐久地方古代史解明にあたって重要な遺跡群である。

※H14号住居址出土灰釉陶器小瓶について尾野善裕氏にご教授いただいた。

「動物は鹿か馬か?生物で蝶はあるが、動物が描かれる例は知らない。印花文も巴文で例外的。牧との関連について、生産地に特注は考えられないので、作った人が牧を意識したかどうか?器形には把手がない。9世紀中頃まで把手があり、10世紀にはこの器形もなくなり、印花文も減る。

所産時期は、9世紀第4四半期であろう。」



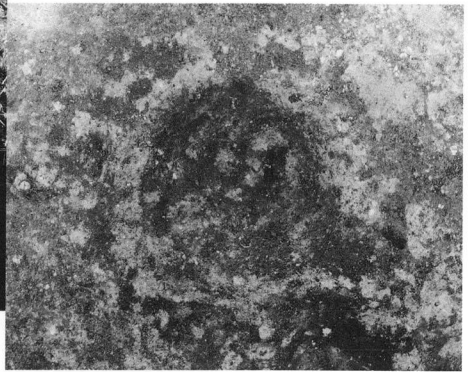
第1次調査地点より平尾山を望む



第2次調査地点より佐久平駅周辺・平尾山を望む



H 1 号住居址全景 西より



H 1 号住居址炉



H 1 号住居址掘り方 西より



H 1 号住居址掘り方 地盤のズレによるビット検出状態



H 1 号住居址 地盤のズレによる北壁の状態

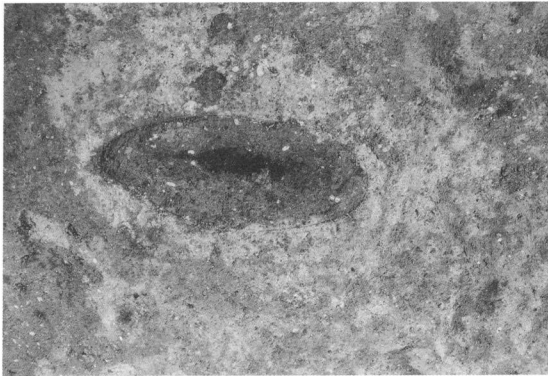


H 1 号住居址炉・周辺遺物出土状態





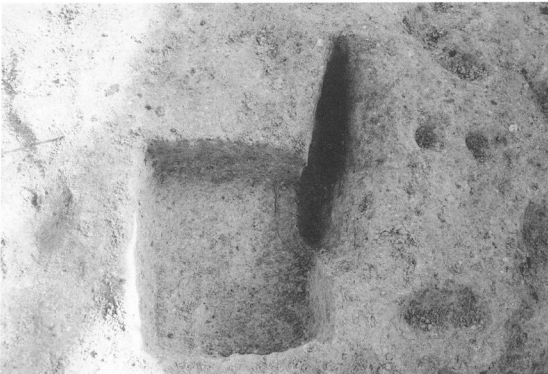
H 1 号住居址北側セクション



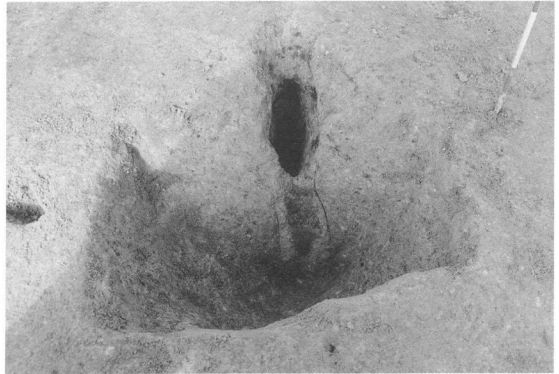
H 1 号住居址 P2



H 1 号住居址 P2



H 1 号住居址 地盤のズレによる P3 検出状況



H 1 号住居址 地盤のズレによる P3 柱痕の状況



H 2 号住居址 未調査区域の北側全景 東より



H 2 号住居址 未調査区域の南側掘り方 南より



H 2 号住居址 未調査区域の北側掘り方 西より

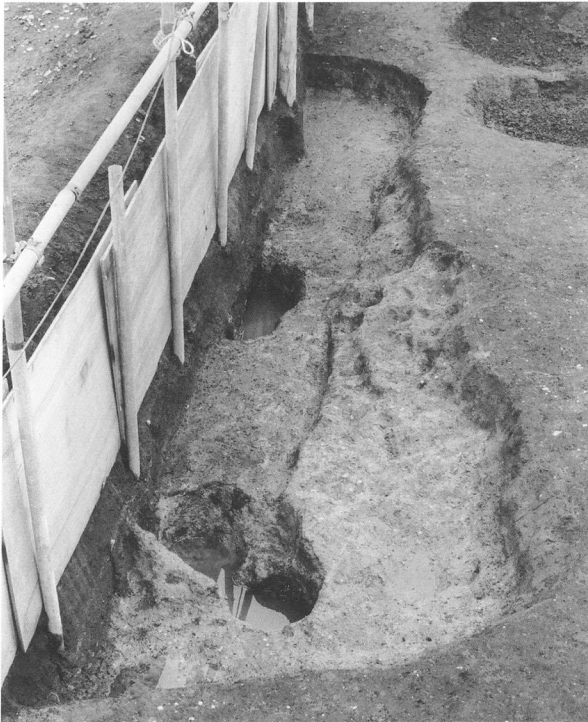


H 2 号住居址カマド

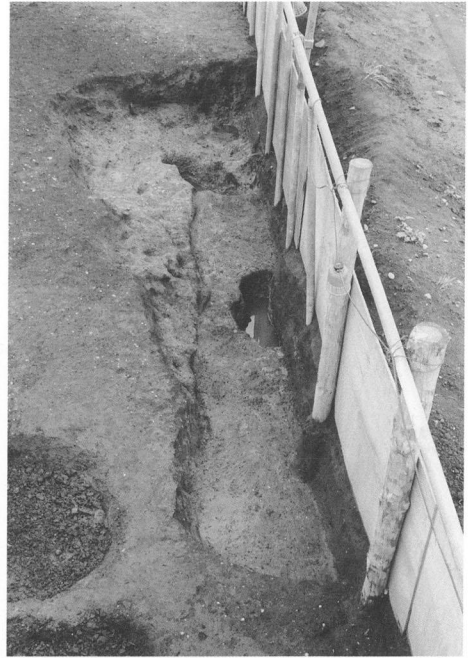


H 2 号住居址 未調査区域の南側掘り方 南より





H 3 号住居址 未調査区域の北側全景 東より



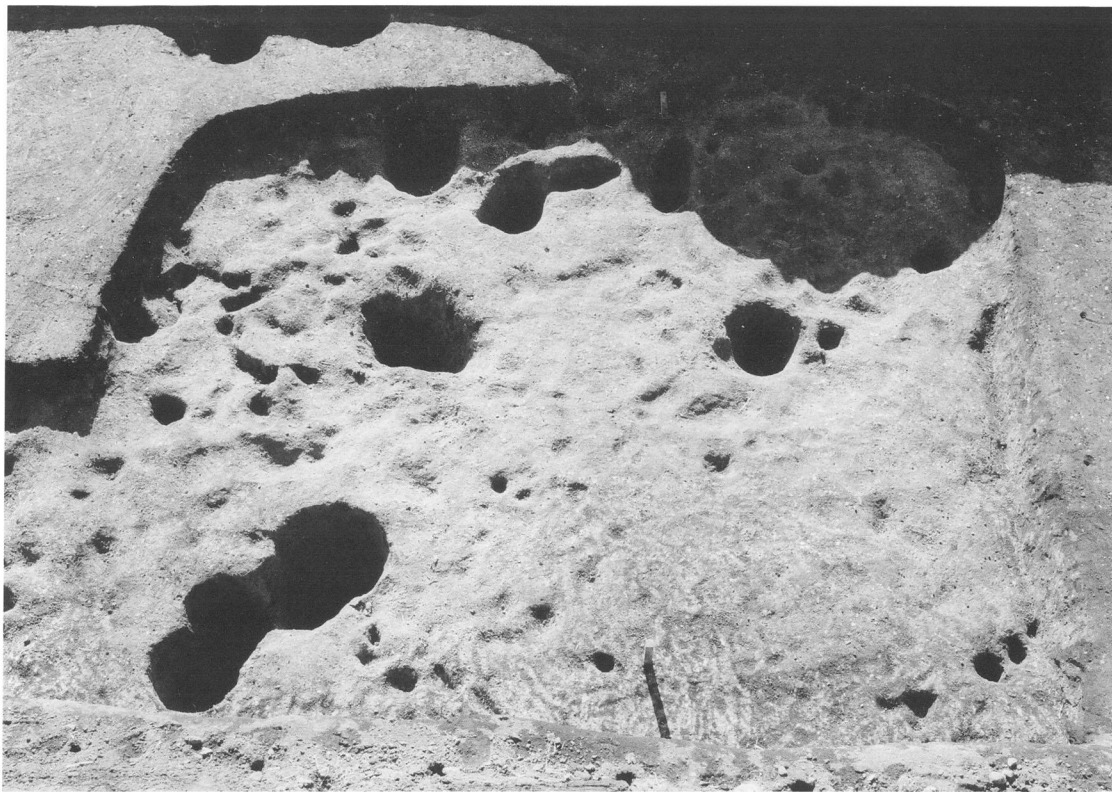
H 3 号住居址 未調査区域の北側全景 西より



H 3 号住居址 未調査区域の南側セクション 南より



H 3 号住居址 未調査区域の南側全景 南東より



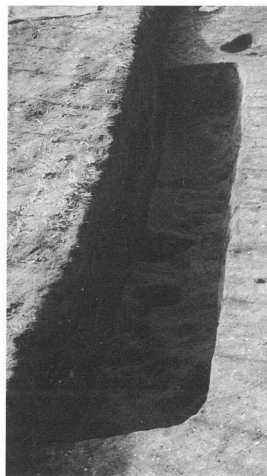
H 3 号住居址 未調査区域の南側掘り方 北より



H 4 号住居址全景



H 4 号住居址セクション 北より



H 4 号住居址掘り方 東より



H 4 号住居址セクション 東より



H 5 号住居址全景 西より



H 5 号住居址全景 南より



H 5 号住居址 P1 の地盤ズレ状況



H 5 号住居址 P1 の地盤ズレ状況





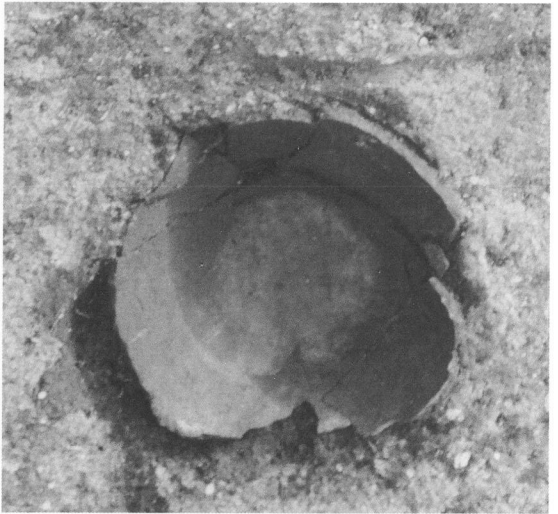
H 5 号住居址掘り方 西より



H 5 号住居址炉



H 5 号住居址掘り方 南より



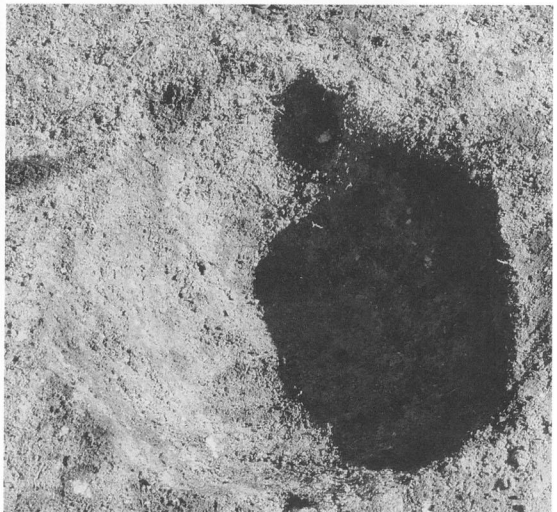
H 5 号住居址炉



H 5 号住居址遺物出状況



H 5 号住居址炉

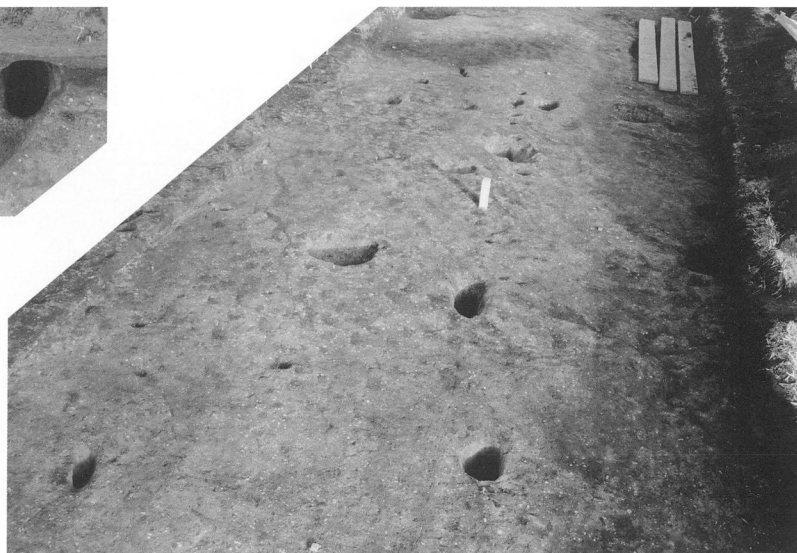


H 5 号住居址炉、掘り方



H 6 号住居址 P1

H 6 号住居址全景 西より



H 6 号住居址 炉

H 6 号住居址全景 東より



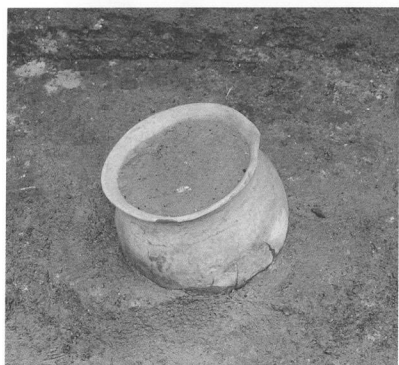
H 6 号住居址全景 東より



H 7号住居址 未調査区域の北側全景 西より



H 7号住居址 未調査区域の北側掘り方



H 7号住居址遺物出土状況



H 7号住居址遺物出土状況



H 8号住居址 未調査区域の南側掘り方 西より





H 9 号住居址全景 北壁の一部は未調査区域 東より



H 9 号住居址全景 北壁の一部は未調査区域 南より



H 9 号住居址カマド



H 9 号住居址 カマド掘り方





H10号住居址全景 西より



H10号住居址掘り方 西より



H10号住居址遺物出土状況 東より



H10号住居址カマド



H11号住居址 未調査区域の南側全景 西より



H11号住居址 未調査区域の北側全景 東より



H11号住居址 未調査区域の北側掘り方 西より



H11号住居址カマド



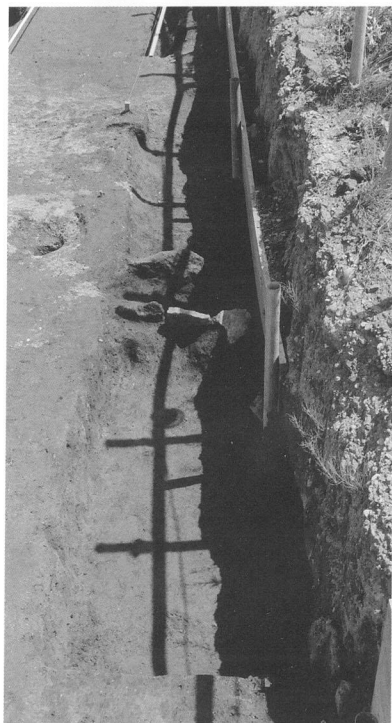
H11号住居址カマド



H11号住居址カマド石組状況



H11号住居址カマド掘り方



H12号住居址 未調査区域の北側全景 西より



H12号住居址 未調査区域の南側全景 西より

H12号住居址 未調査区域の北側全景 西より





H12号住居址 未調査区域の北側全景 南より



H12号住居址 未調査区域の南側遺物出土状況



H12号住居址カマド



H12号住居址カマド



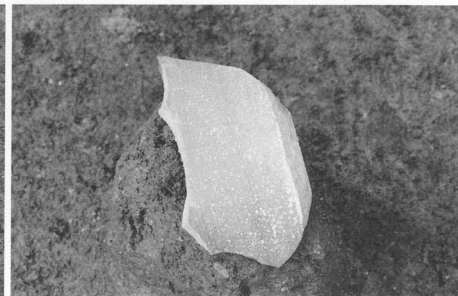
H13号住居址 未調査区域の南側全景 北より



H13号住居址 未調査区域の南側遺物出土状況 東より



H13号住居址遺物出土状況



H13号住居址遺物出土状況



H14号住居址全景 南壁の一部は未調査区域 北より



H14号住居址カマド 西より



H14号住居址 D 1号土坑 灰釉陶器小瓶出土状況



H14号住居址 D 1号土坑 灰釉陶器小瓶出土状況



H14号住居址 D 1号土坑 灰釉陶器小瓶出土状況





H14号住居址全景 東より



H14号住居址掘り方 東より



H15号住居址全景 東より



H15号住居址掘り方 東より



H15号住居址カマド



H15号住居址 P2 内遺物出土状況



H16号住居址 未調査区域の南側全景 南より



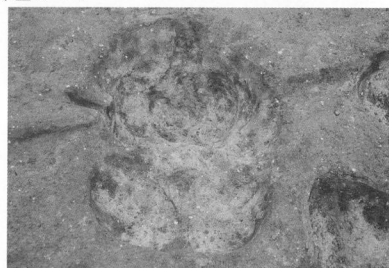
H16号住居址 未調査区域の北側全景遺物出土状況 南より



H16号住居址 未調査区域の全景 東より



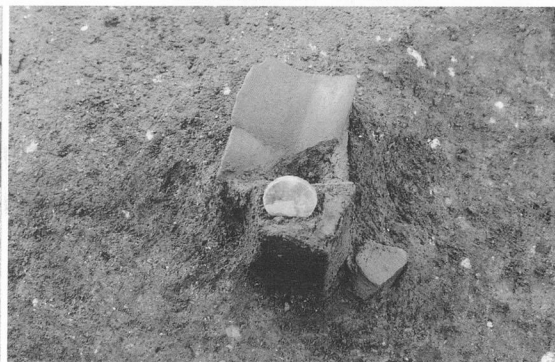
H16号住居址カマド



H16号住居址カマド掘り方

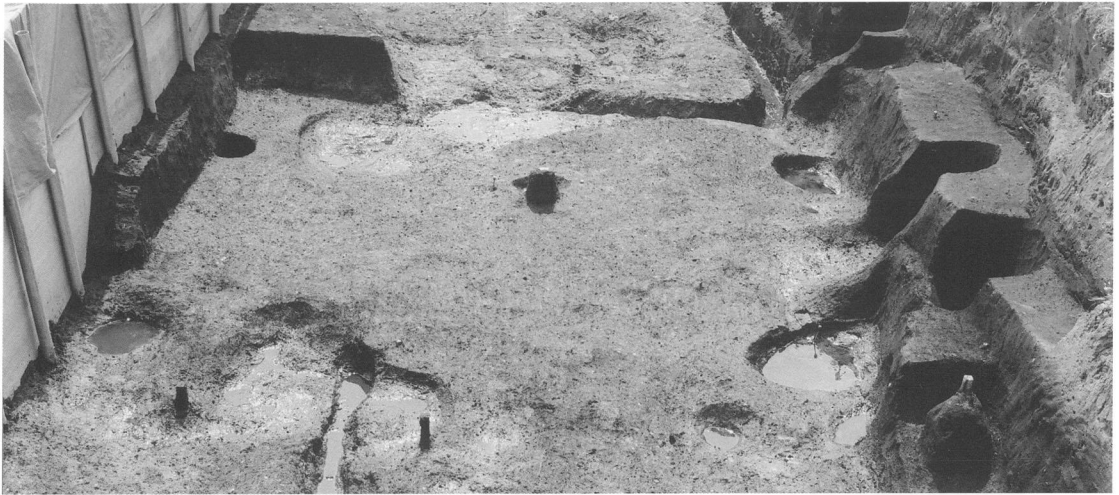


H16号住居址 未調査区域の北側掘り方 東より



H16号住居址丸軈出土状況

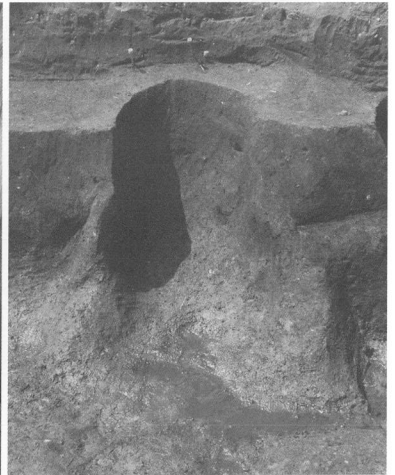




H17号住居址全景 東より



H17号住居址掘り方 西より



H17号住居址カマド



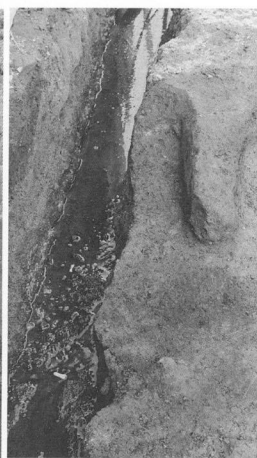
H18号住居址全景 西より



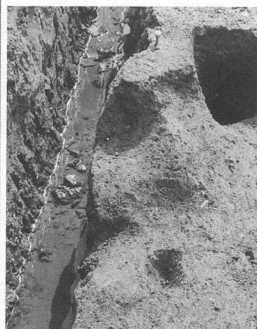
H18号住居址 東より



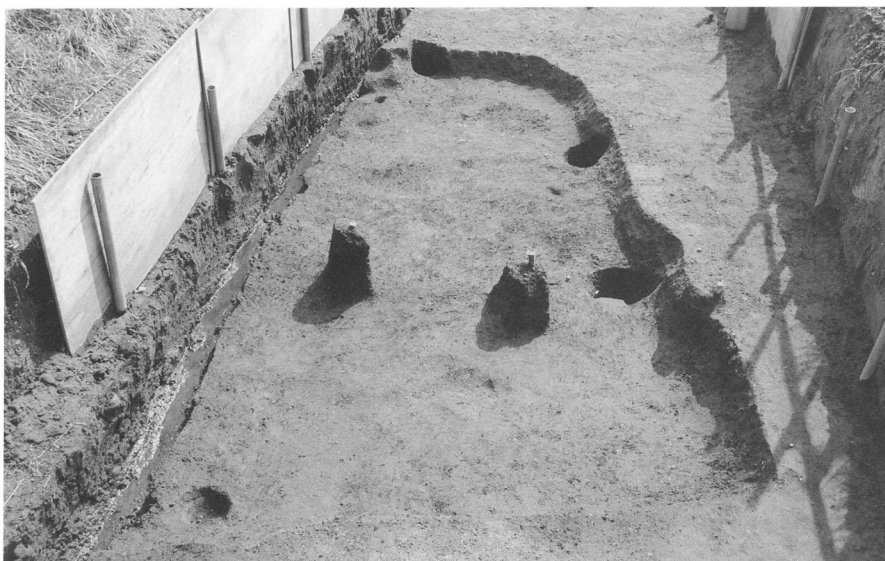
H19号住居址全景 西より



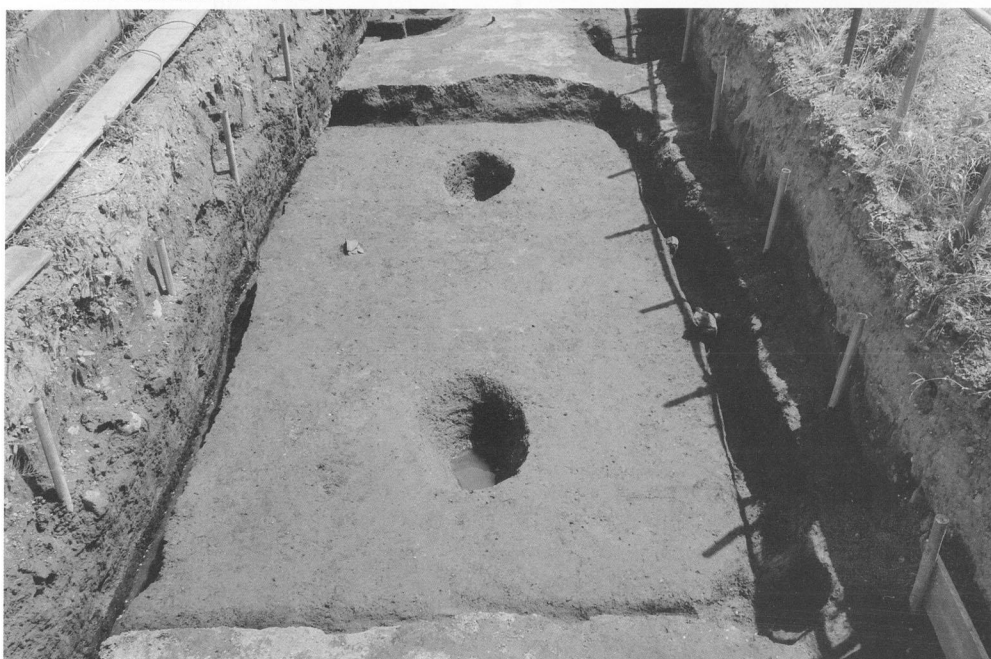
H19号住居址カマド



H19号住居址カマド掘り方



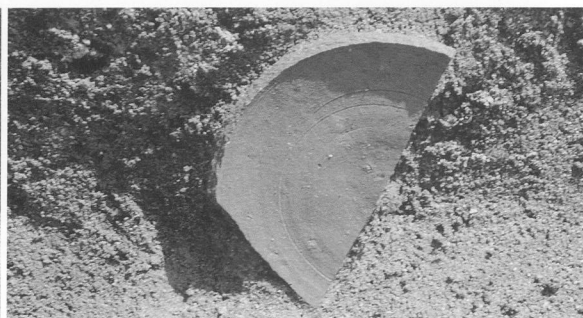
H19号住居址掘り方 西より



H20号住居址全景 西より



H20号住居址防錘車出土状況



H20号住居址遺物出土状況





H20号住居址掘り方



H21号住居址 未調査区域の北側全景 北より



H21号住居址 未調査区域の北側掘り方



H22号住居址全景 西より



H22号住居址掘り方 東より



H22号住居址遺物出土状況



H22号住居址遺物出土状況



H23号住居址 未調査区域の北側全景



H23号住居址 未調査区域の北側掘り方



H23号住居址カマド



H23号住居址カマド





H23号住居址 未調査区域の北側全景 西より



H24号住居址全景 東より



H25号住居址全景 東より



H26号住居址掘り方 西より



T a 1 号竖穴状遺構 未調査区域の南側全景 南西より



T a 1 号竖穴状遺構 未調査区域の南側全景 東より

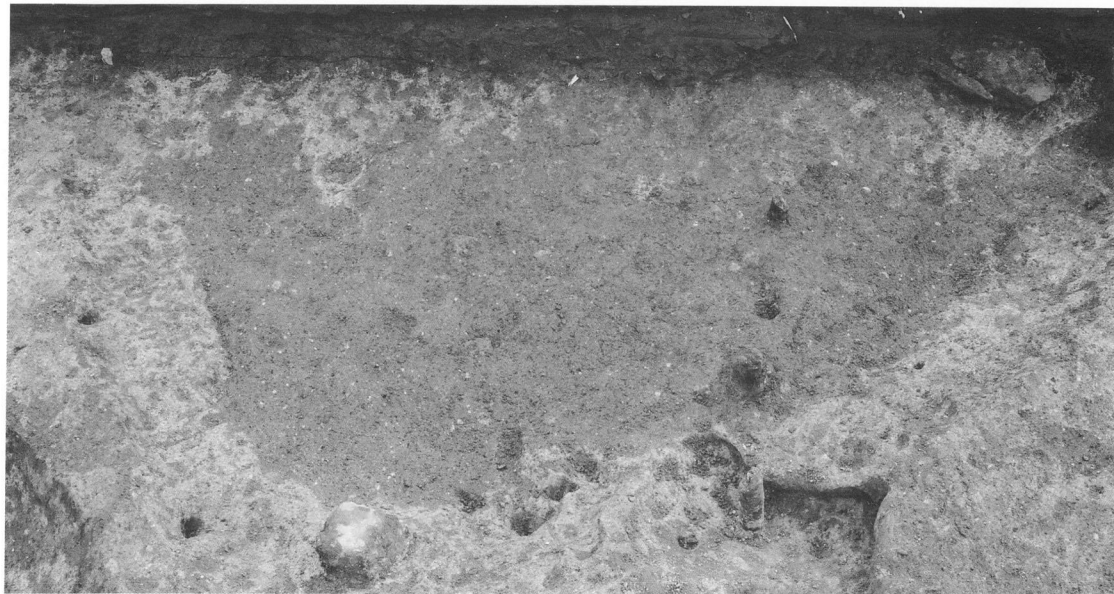


T a 1 号竖穴状遺構 未調査区域の北側全景 南西より





T a 1号竖穴状遺構 未調査区域の北側掘り方 北より



T a 1号竖穴状遺構南側全景 南より



T a 2号竖穴状遺構掘り方 東より



F 1号掘立柱建物址 西より



F 2号掘立柱建物址 東より



F 3・4号掘立柱建物址 東より



F 5号掘立柱建物址 東より



F 6号掘立柱建物址 西より



F 7号掘立柱建物址 西より



F 8号掘立柱建物址 西より



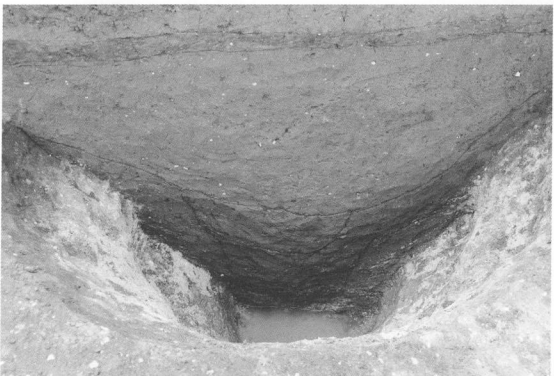
F 9号掘立柱建物址 東より



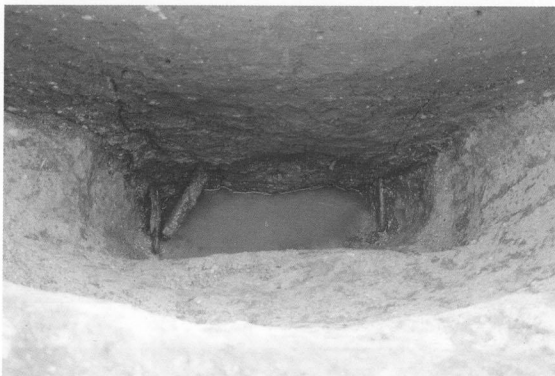
D 1号土坑 北より



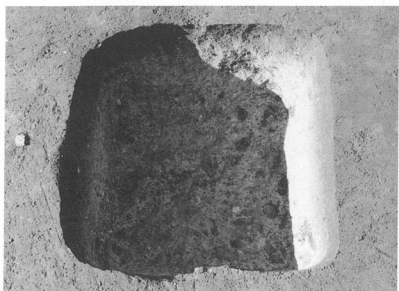
D 2号土坑 東より



D 3号土坑 北より



D 4号土坑 北より

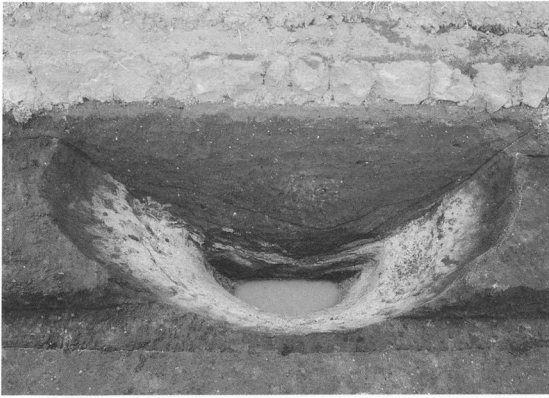


D 5号土坑 東より



D 6号土坑 東より

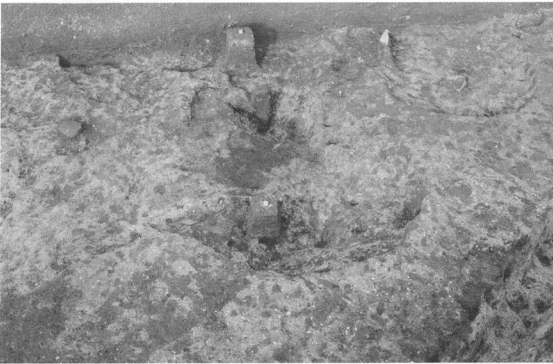




D 7号土坑 未調査区域の南側 南より



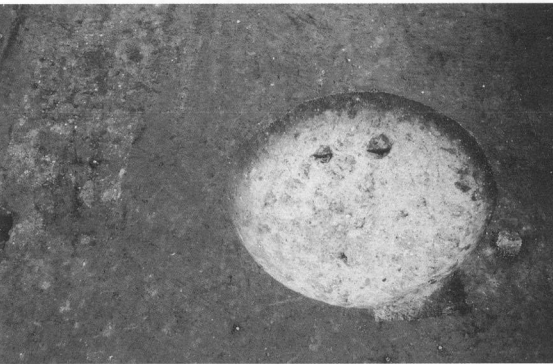
D 7号土坑 未調査区域の北側 北より



D 8号土坑 南より



D 9号土坑 西より



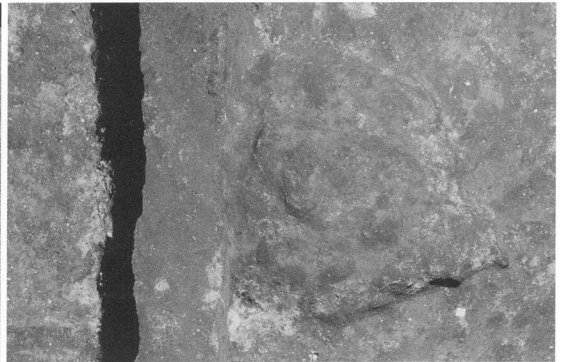
D10号土坑 西より



D11号土坑 東より



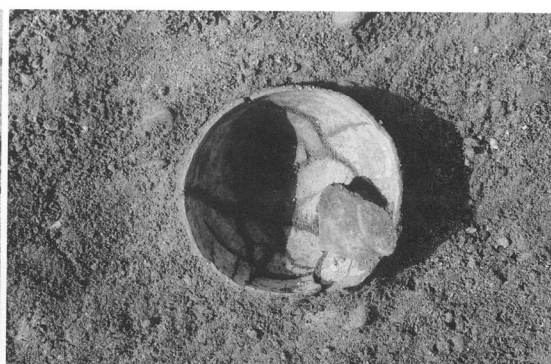
D12号土坑 北より



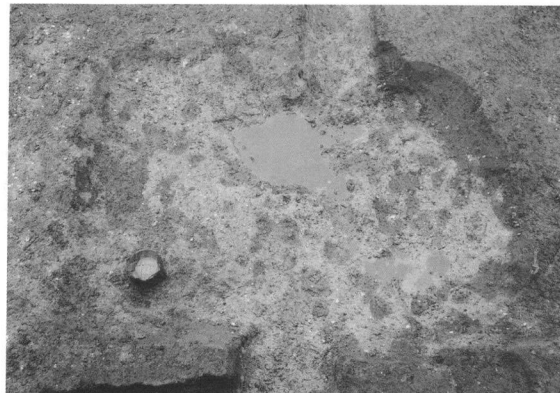
D13号土坑 西より



D14号土坑 西より



D14号土坑遺物出土状況



D15号土坑 北より



D16号土坑 東より



D17号土坑 未調査区域の北側 北より



D18号土坑 東より



D19号土坑の南側 南より



D19号土坑 未調査区域の北側 東より





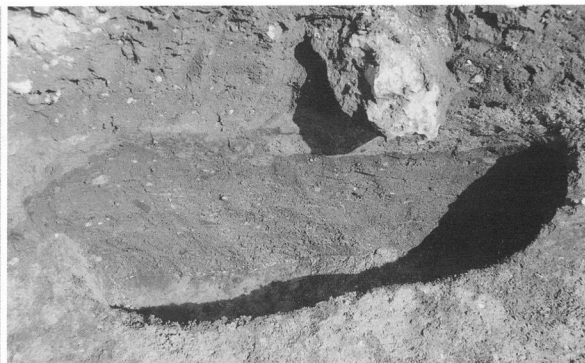
D20号土坑 北より



D21号土坑 南より



D22号土坑 東より



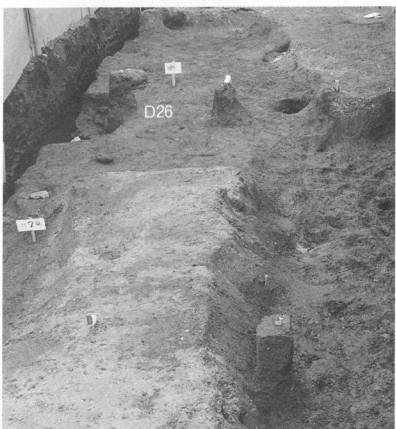
D23号土坑 北より



D24号土坑 東より



D25号土坑 西より



D26号土坑 西より



D27号土坑遺物出土状況 東より



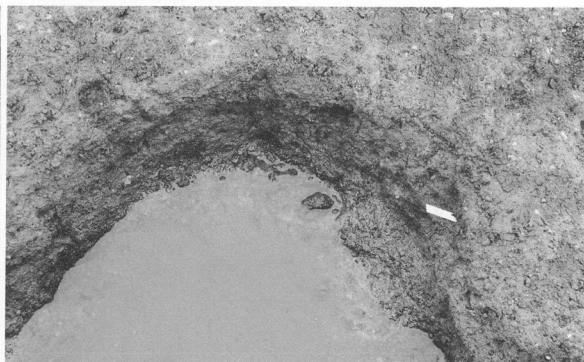
D27号土坑 東より



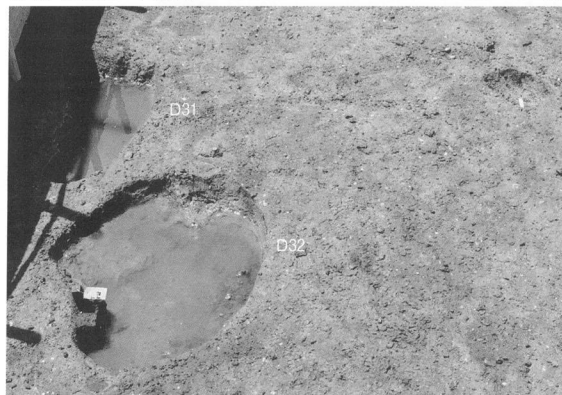
D28号土坑 南より



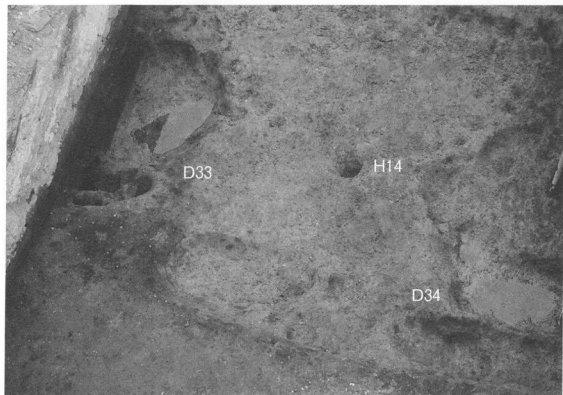
D29号土坑 西より



D30号土坑 南より



D31・32号土坑 東より



D33・34号土坑 西より



M1・2号溝状遺構 東北より



M1・2号溝状遺構 南より



M1・2号溝状遺構遺物出土状況



M1・2号溝状遺構遺物出土状況





M3号溝状遺構 南より



M4号溝状遺構 南より



M5号溝状遺構 未調査区域の北側 北より



M5号溝状遺構 未調査区域の南側 北より



M6号溝状遺構 東より



M7号溝状遺構 未調査区域の南側 東より



M9・M22・M8号溝状遺構 未調査区域の北側 北より

M7号溝状遺構 未調査区域の北側 東より M8号溝状遺構 未調査区域の南側 南より



M9号溝状遺構 未調査区域の北側 北より

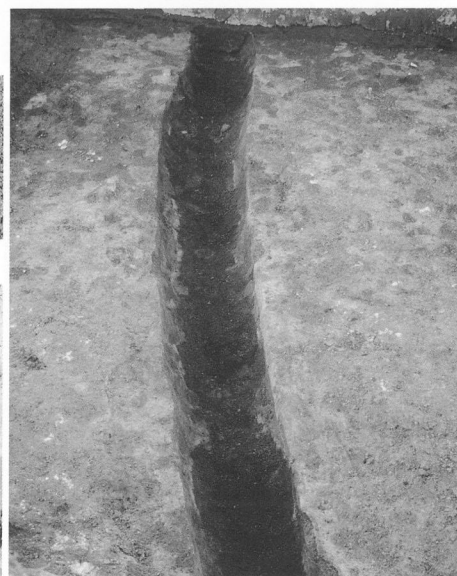
M9号溝状遺構 未調査区域の南側 南より



M9号溝状遺構骨出土状況

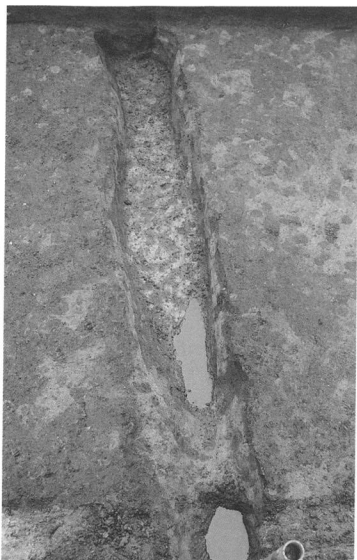


M10号溝状遺構 未調査区域の南側 南より

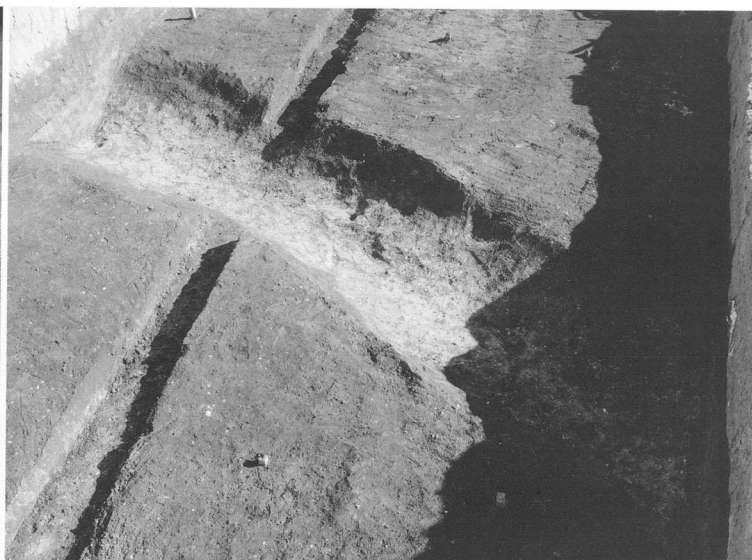


M11号溝状遺構 未調査区域の南側 南より

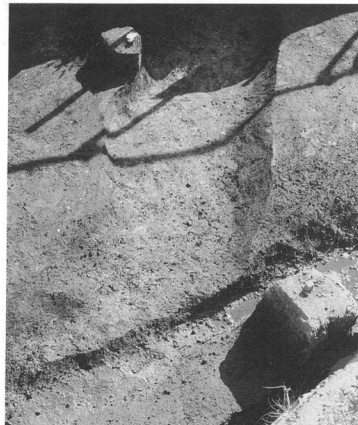




M11号溝状遺構 未調査区域の北側 北より



M12号溝状遺構 未調査区域の南側 南より



M12号溝状遺構 未調査区域の北側 南より



M13・14号溝状遺構 南より



M15号溝状遺構 北より



M16号溝状遺構 未調査区域の南側 南より



M16号溝状遺構 未調査区域の北側 西より M17号溝状遺構 西より



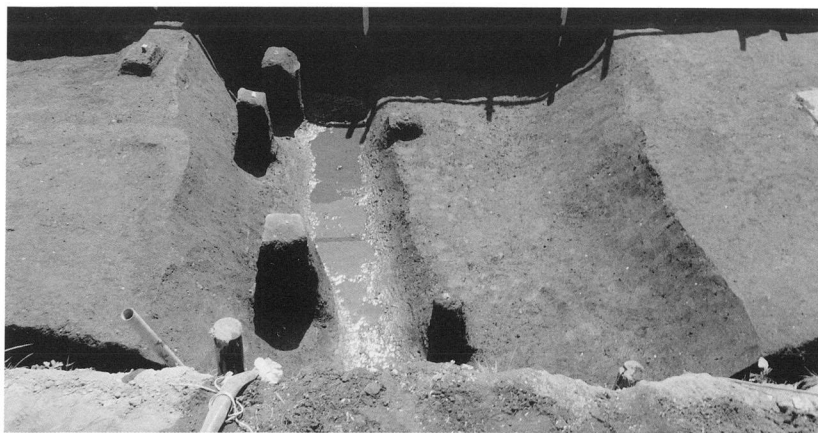
M19号溝状遺構南側 未調査区域 南より



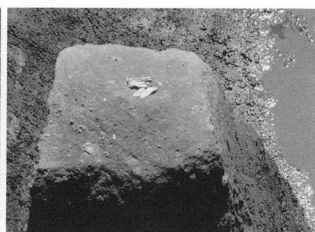
M19号溝状遺構 未調査区域の南側 獸骨出土状況 北より



M19号溝状遺構 未調査区域南側 獸骨出土状況



M19号溝状遺構北側 未調査区域 北より



M19号溝状遺構北側 未調査区域の獣骨出土状況 M19号溝状遺構北側 未調査区域の獣骨出土状況 M19号溝状遺構北側 未調査区域の獣骨出土状況



M20・21号溝状遺構 西より



M22号溝状遺構 未調査区域の北側 北より



M23号溝状遺構北側 北より



M24号溝状遺構 南より





5-9 (H1)



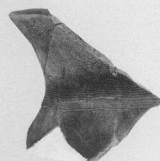
5-8 (H1)



5-7 (H1)



4-3 (H1)



4-3 (H1)



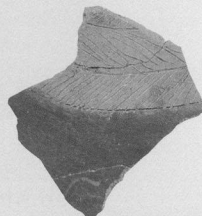
4-4 (H1)



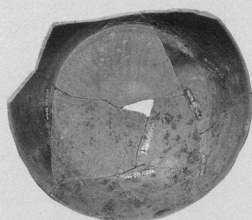
4-1 (H1)



(H1)



4-2 (H1)



7-14 (H2)



7-8 (H2)



7-3 (H2)



7-7 (H2)



7-1 (H2)



7-2 (H2)



7-4 (H2)



7-5 (H2)



7-10 (H2)



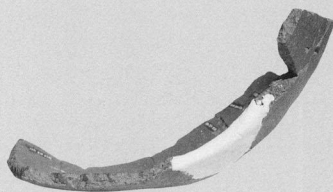
7-9 (H2)



8-30 (H2)



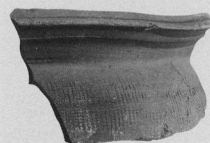
7-26 (H2)



7-19 (H2)



8-32 (H2)



7-17 (H2)



7-17 (H2)



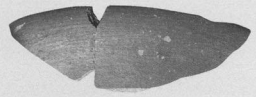
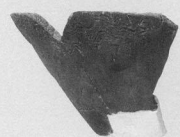
7-16 (H2)



9-1 (H3)



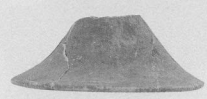
9-2 (H3)



10-1 (H4)



12-7 (H5)



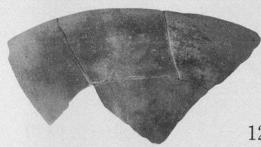
12-10 (H5)



11-1 (H5)



11-2 (H5)



12-8 (H5)



14-1 (H7)



14-2 (H7)



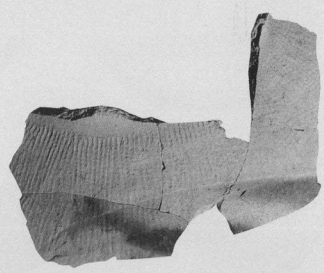
14-3 (H7)



14-4 (H7)



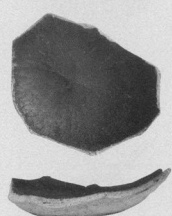
14-6 (H7)



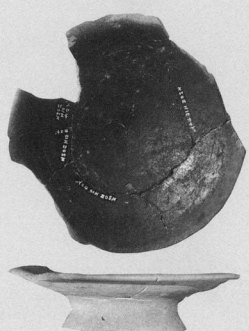
17-1 (H9)



19-13 (H10)



19-15 (H10)

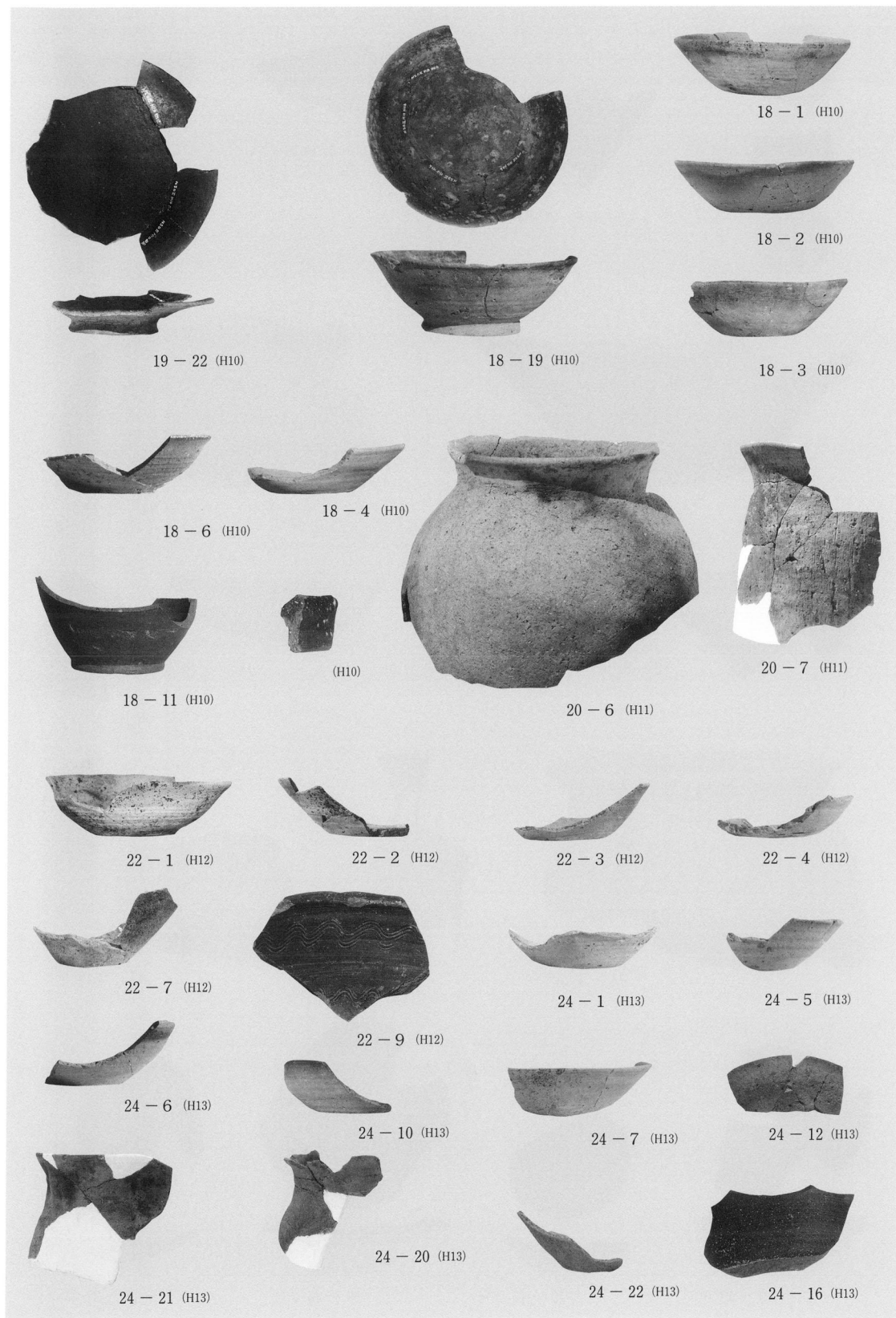


19-20 (H10)



19-21 (H10)







27-4 (H14)



27-2 (H14)



(H14)



27-6 (H14)



27-7 (H14)



27-11 (H14)



27-10 (H14)



27-9 (H14)



27-8 (H14)



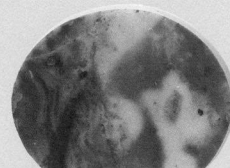
28-3 (H15)



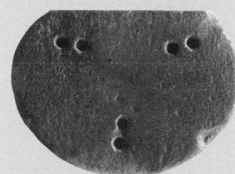
(H15)



28-2 (H15)



30-20 (H16) 1:1



29-10 (H16)



29-10 (H16)



29-4 (H16)



29-5 (H16)



29-6 (H16)



29-9 (H16)



29-7 (H16)



29-1 (H16)



29-2 (H16)



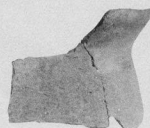
29-3 (H16)



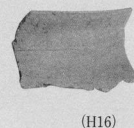
30-19 (H16)



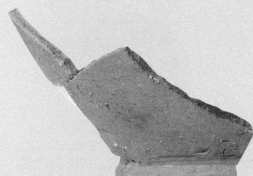
30-17 (H16)



30-18 (H16)



(H16)



30-17 (H16)



30-11 (H16)



30-15 (H16)



30-13 (H16)



31 - 4 (H17)



31 - 1 (H17)



32 - 6 (H17)



32 - 8 (H17)



32 - 8 (H17)



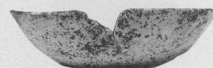
32 - 7 (H17)



32 - 9 (H17)



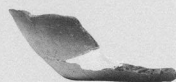
33 - 1 (H18)



34 - 6 (H19)



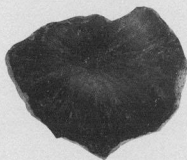
34 - 12 (H19)



34 - 5 (H19)



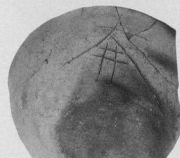
34 - 13 (H19)



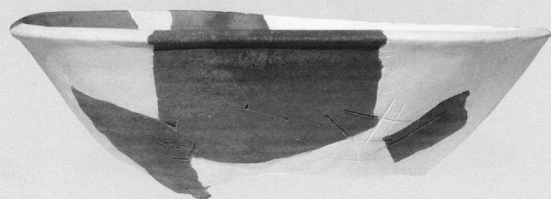
34 - 11 (H19)



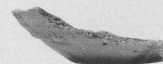
34 - 3 (H19)



34 - 4 (H19)



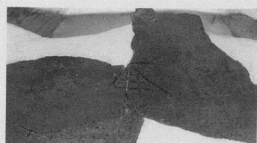
35 - 11 (H19)



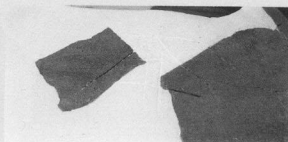
36 - 2 (H20)



36 - 3 (H20)



35 - 15 (H19)



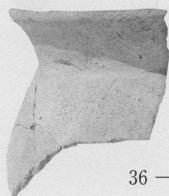
35 - 15 (H19)



36 - 1 (H20)



36 - 5 (H20)

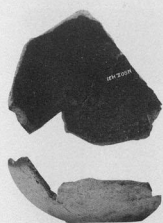


36 - 4 (H20)



36 - 8 (H20)





37-2 (H21)



37-6 (H21)



37-5 (H21)



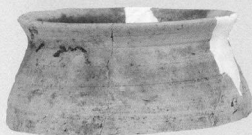
37-1 (H21)



37-4 (H21)



37-8 (H21)



37-12 (H21)



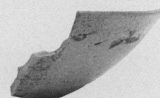
37-11 (H21)



(H21)



37-15 (H21)



37-14 (H21)



38-3 (H22)



38-7 (H22)



38-8 (H22)



38-4 (H22)



38-5 (H22)



38-9 (H22)



39-4 (H23)



39-2 (H23)



39-1 (H23)



39-3 (H23)



40-6 (H23)



40-7 (H23)



42-9 (H25)



42-3 (H25)



42-6 (H25)



42-2 (H25)



42-4 (H25)

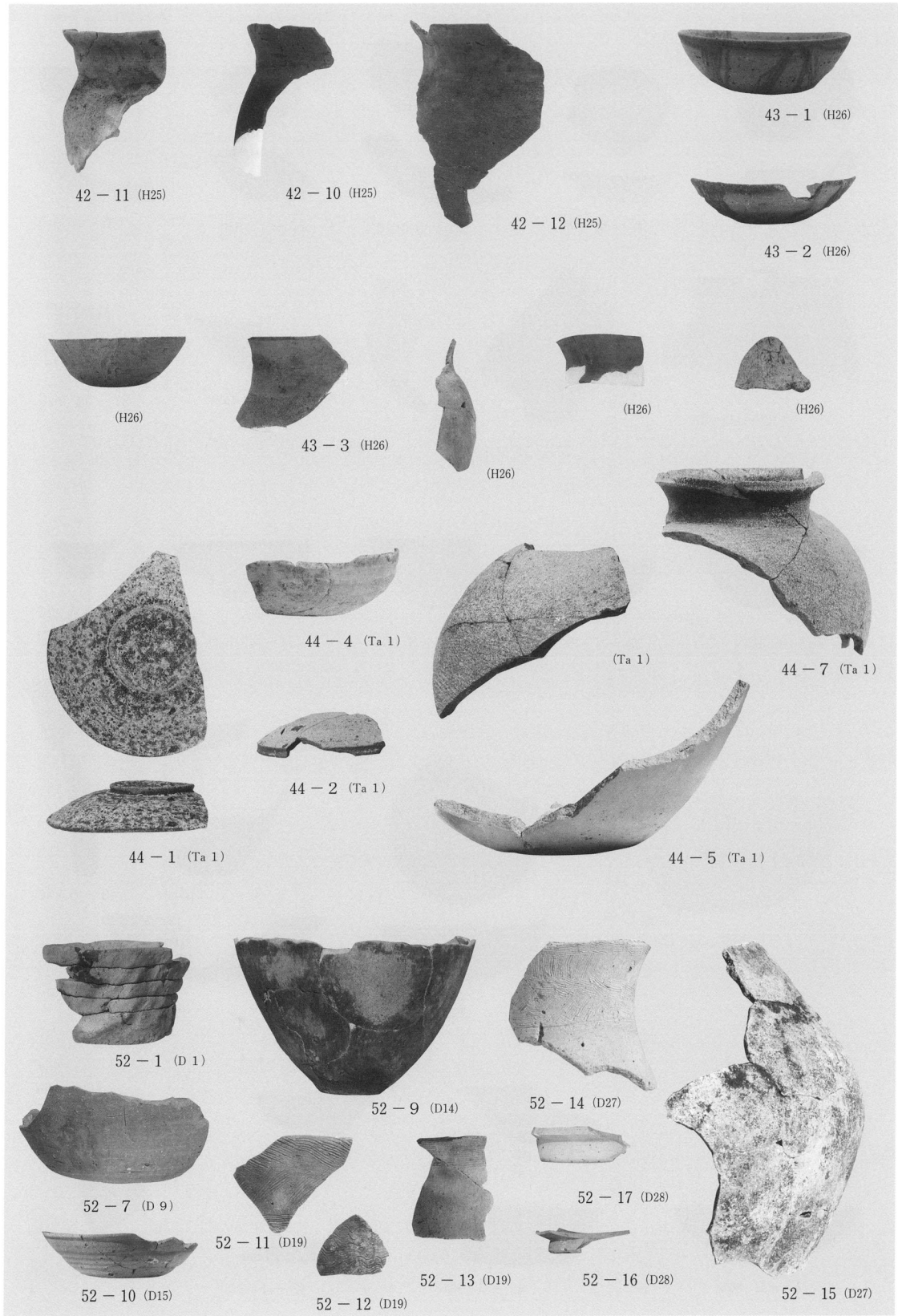


42-1 (H25)



42-13 (H25)





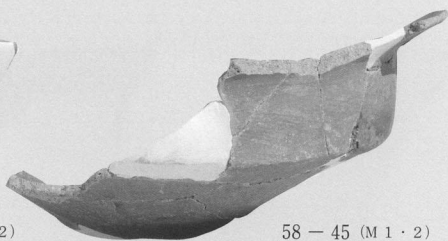




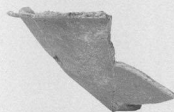
58-47 (M1·2)



58-44 (M1·2)



58-45 (M1·2)



58-43 (M1·2)



58-53 (M1·2)



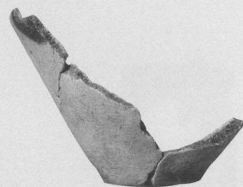
58-51 (M1·2)



58-52 (M1·2)



56-2 (M1·2)



57-37 (M1·2)



57-38 (M1·2)



57-40 (M1·2)



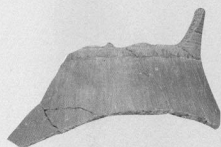
56-6 (M1·2)



57-25 (M1·2)



56-12 (M1·2)



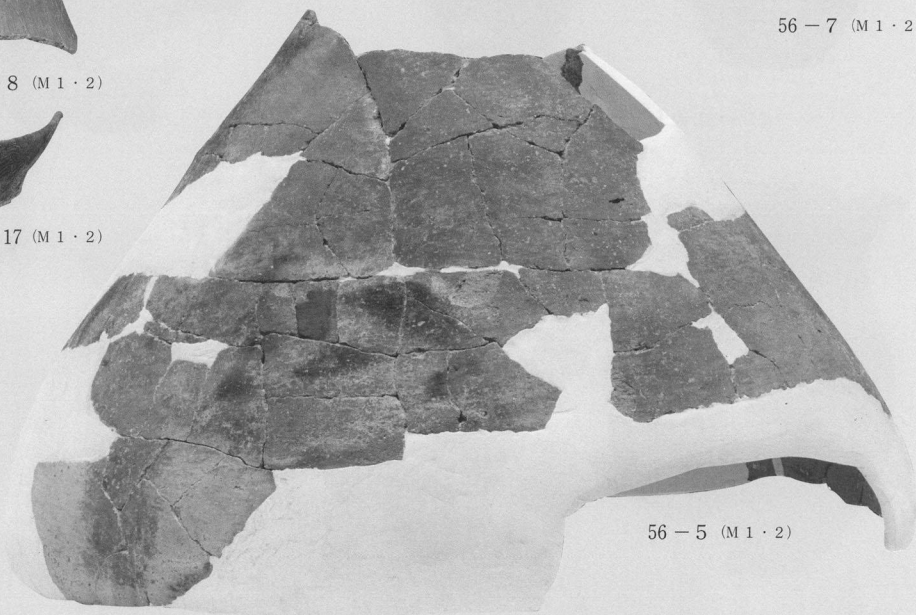
56-8 (M1·2)



56-7 (M1·2)



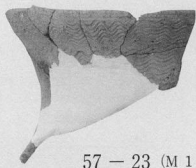
57-17 (M1·2)



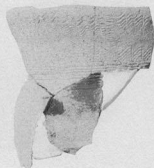
56-5 (M1·2)



56-1 (M1·2)



57-23 (M1·2)



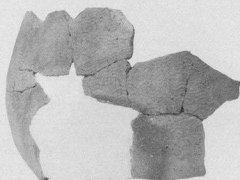
57-21 (M1·2)



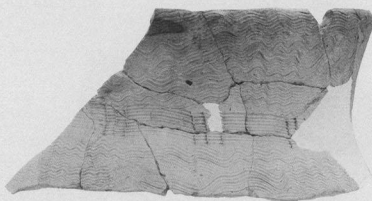
56-13 (M1·2)



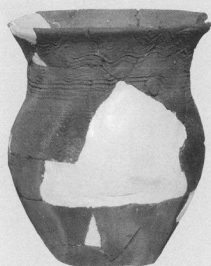
57-19 (M1·2)



(M1·2)



57-16 (M1·2)



57-22 (M1·2)



57-20 (M1·2)



56-14 (M1·2)



56-15 (M1·2)



57-24 (M1·2)



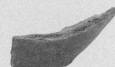
56-3 (M1·2)



56-4 (M1·2)



60-1 (M3)



60-2 (M3)



60-6 (M3)



60-7 (M3)



60-3 (M3)



(M3)



60-4 (M3)



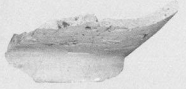
60-5 (M3)



61-2 (M6)



61-4 (M7)



61-9 (M8)



61-12 (M19)



61-13 (M19)



(M19)



61-14 (M19)



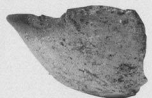
61-11 (M19)



64-11 (A26Gr)



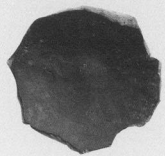
64-12 (A36Gr)



64-9 (a49Gr)



64-10 (B37Gr)



64-17 (B53Gr)



64-13 (A40Gr)



(A54Gr)



64-7 (A54Gr)



64-14 (Z)



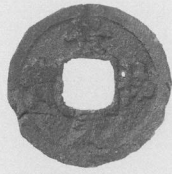
64-8 (A33Gr)



64-21 (Z)



61-1 (M6)

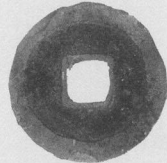
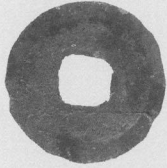


61-2 (M8)



61-3 (M9)

1 : 1



5-11  
(H1)



19-24 · 25  
(H10)

1 : 3



(H20)



36-7 (H20)



43-4 (H26)



1 : 3

61-15 (M19)

1 : 3

36-6 (H20)



52-19 (D5)



(H21)



(M9)



65-35  
(A 30 Gr)

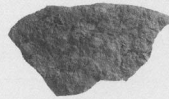


65-34  
(42 Gr)



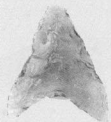
65-36  
(あ 25 Gr)

1 : 3



52-20 (D5)

1 : 3



64-2 (M1 · 2)



64-4 (M1 · 2)



64-1 (M1 · 2)



64-3 (P118)

1 : 1

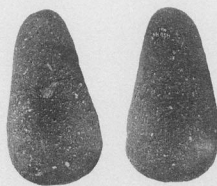




5 - 10 (H1)



8 - 34 (H2)



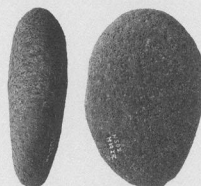
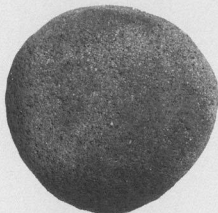
10 - 2 (H4)



15 - 10 (H7)



17 - 2 (H9)



34 - 14 (H19)



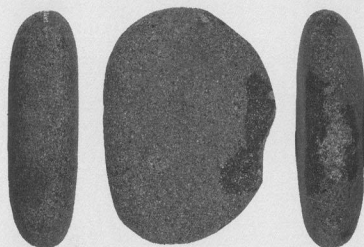
52 - 18 (D16)



19 - 23 (H10)



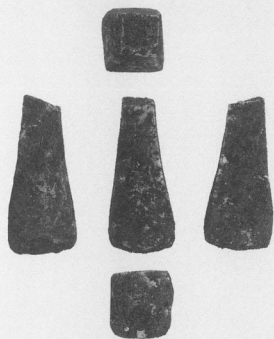
60 - 126 (M1 · 2)



15 - 12 (Ta1)



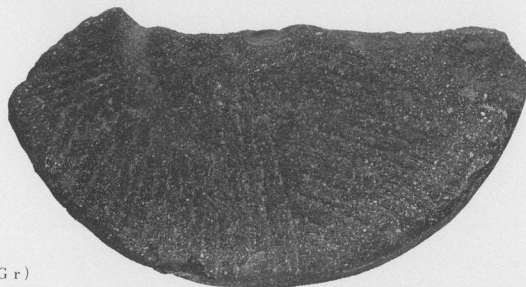
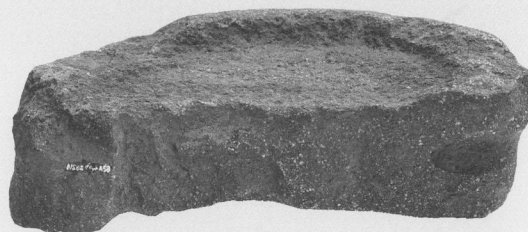
60 - 127 (M1 · 2)



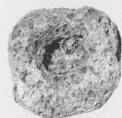
65 - 30 (A31Gr)



65 - 31 (15Gr)

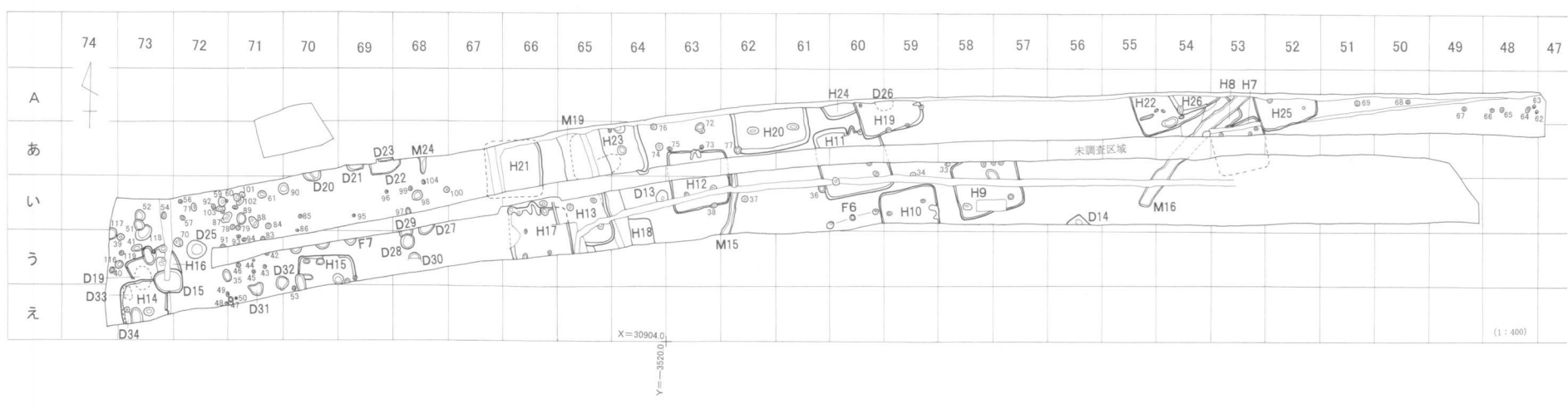
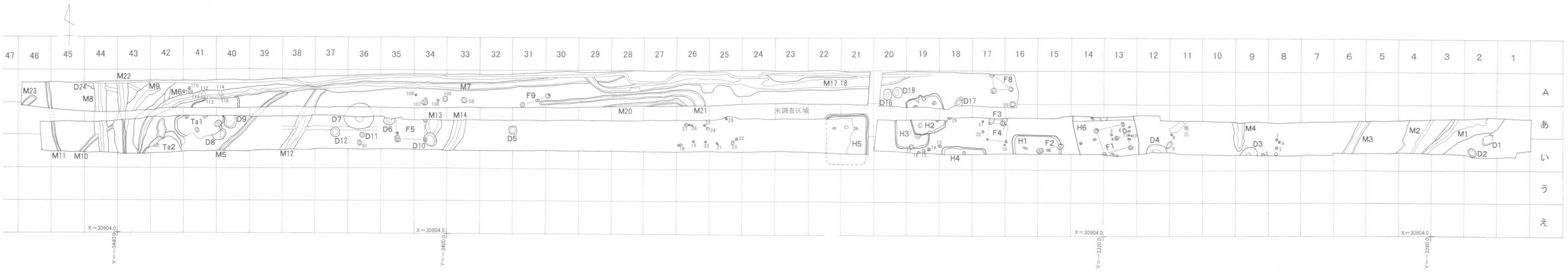
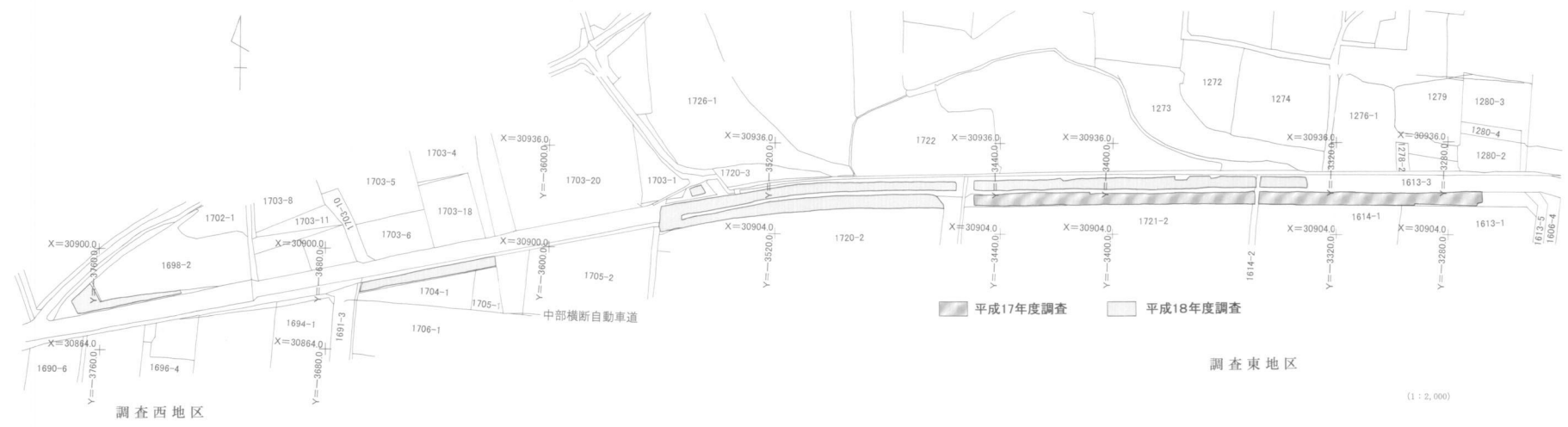


65 - 32 (A58Gr)



61 - 6 (M8)





周防畑遺跡群大豆田遺跡 I・II 調査全体図

---

---

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第156集

周防畑遺跡群

大豆田遺跡 I・II

2008年3月

編集・発行 長野県佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056番地

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 株式会社 佐久印刷所

---

---

## 報告書抄録

書名	周防畑遺跡群大豆田遺跡Ⅰ・Ⅱ
ふりがな	すぼうばた おおまめだ
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第156集
編著者名	林幸彦
編集・発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	2008.3.21
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀5953
遺跡名	周防畑遺跡群大豆田遺跡Ⅰ・Ⅱ (NSO)
遺跡所在地	佐久市長土呂
遺跡番号	佐久市-7
経度	36° -16' -43."2122 (世界測地系)
緯度	138° -27' -39."2474 (世界測地系)
調査期間	2005.11.21～2006.11.24 (現場) 2007.4.23～2008.3.28 (整理)
調査面積	2,200㎡
調査原因	市道改良工事
種別	集落址
主な時代	弥生時代～平安時代
遺跡概要	遺構 竪穴住居址26軒 (弥生～平安) 土坑34 (古代～中世) 掘立柱建物址 (古代～) 遺物 縄文後期土器・弥生後期土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・陶磁器・鉄器・石器
特記事項	動物・花・雲文などが印刻された灰釉陶器小瓶や郷名と一致する「大井」の刻書土器が出土した。